

Schaerer Coffee Skye

取扱説明書

2.3 / 03.2023



発行者情報

出版者

Schaerer AG, Postfach 336, Niedermattstrasse 3,
CH-4528 Zuchwil

バージョン

第2.3版 | 2023年3月発行

ソフトウェア

SW4.38.x

コンセプトおよび編集

Schaerer AG, Postfach 336, Niedermattstrasse 3,
CH-4528 Zuchwil

Copyright ©

Schaerer AG, Postfach 336, Niedermattstrasse 3,
CH-4528 Zuchwil

本書は著作権で保護されています。無断複写・転載を禁じます。Schaerer AG の書面による事前の許可なくして、本書の内容を複写、配布、電子的に転送することや、多言語に翻訳することは禁じられています。これは本書の全部または一部に対して適用します。本書の内容は、印刷時に利用可能な最新データによるものです。Schaerer AG は事前の予告なしに変更を行う権利を有します。本書中のすべての図、図解や表示メッセージは例です！幅広いオプションにより、お使いの機械が本書に示された機械と異なる可能性があります。Schaerer AG の責任は、ドイツ語版の原文に限るものとします。

目次

1	安全	7
1.1	記号とマーク	7
1.2	適切な用途	8
1.3	予見可能な誤使用	9
1.4	使用会社の義務	9
1.5	残留リスク	9
1.6	物損の危険	14
2	テクニカルデータ	15
2.1	飲み物の種類と性能	15
2.2	マシンデータ	16
2.3	設置場所での電源接続	17
2.4	水接続値	17
2.5	周囲条件	17
2.6	定格銘板	18
2.7	EC適合宣言	18
2.7.1	製造者住所	18
2.7.2	適用規格	18
3	製品の説明	21
3.1	コーヒーマシンの概要	21
3.1.1	コーヒー豆およびパウダーホッパー	22
3.1.2	カス受け	23
3.1.3	外部スチームアウトレット	23
3.1.4	マシン脚部	23
3.1.5	カップ位置決めツール付き壺受け	24
3.1.6	内部の飲料水タンク	24
3.1.7	手動の飲料注出	24
3.1.8	外部熱湯注意出	25
3.1.9	グラインダー	25
3.1.10	機能ランプ	25
3.1.11	デコレーション要素	25
3.2	操作エレメント	26
3.2.1	概要	26
3.2.2	手動投入口	27
3.2.3	タッチスクリーン付きコントロールパネル	27
3.2.4	コントロールパネルのロック装置	28
3.2.5	コーヒー豆およびパウダーホッパーのロック装置 (オプション)	28
3.2.6	ミルクカップ	28
3.2.7	コーヒーマシンのオン/オフスイッチ	28
3.3	コーヒーマシンの接続部とインターフェース	28
3.4	オプション	29
3.5	周辺機器	30
3.5.1	冷却ユニット	30
3.5.2	カップと冷却	31
3.5.3	カップ ウォーマー	31
3.6	梱包内容とアクセサリ	32
4	取付けと試運転	35
4.1	輸送条件	35

4.2	パッケージ/開梱.....	35
4.2.1	コーヒーマシンの開梱.....	35
4.2.2	アクセサリの開梱.....	35
4.3	設置.....	36
4.4	コーヒーマシンの設置.....	36
4.4.1	電源の接続.....	36
4.4.2	給水部への接続.....	37
4.5	周辺機器を接続します.....	39
4.5.1	周辺機器を電源に接続する.....	39
4.5.2	通信接続(CANバス)の確立.....	39
4.5.3	ミルクシステムを接続します.....	40
4.6	ディスプレイガイド付きコミッショニング.....	41
5	操作.....	43
5.1	オペレーターモード.....	43
5.2	ユーザーインターフェース.....	43
5.2.1	「グループ選択」ページ.....	43
5.2.2	「飲料選択」ページ.....	45
5.2.3	タブおよびサイドバー.....	46
5.2.4	「飲料注出」ページ.....	47
5.3	サービスメニュー.....	48
5.3.1	[サービスメニュー]フィールド.....	48
5.3.2	概要.....	48
5.3.3	ログイン ログアウト.....	50
5.3.4	設定.....	50
5.3.5	飲み物注出の過程.....	51
5.3.6	システム情報.....	51
5.3.7	戻る.....	51
5.3.8	クリーニング.....	51
5.3.9	メンテナンス間隔.....	51
5.3.10	原料管理.....	52
5.3.11	領域 エラーメッセージ.....	52
5.3.12	領域 直接選択.....	52
5.3.13	クイック情報.....	52
5.4	スイッチを入れる前の点検.....	53
5.5	コントロールパネルを開き、そして閉じる.....	53
5.5.1	コントロールパネルを開く.....	53
5.5.2	コントロールパネルを閉じます.....	54
5.6	スイッチを入れます.....	54
5.6.1	コーヒーマシンのスイッチを入れる.....	54
5.6.2	個別冷却ユニットのスイッチを入れる.....	55
5.6.3	カウンター下冷却ユニットのスイッチを入れます.....	55
5.6.4	Cup & Cool カップウオーマーのスイッチを入れる.....	55
5.7	充填と接続.....	56
5.7.1	コーヒー豆ホッパーの充填.....	56
5.7.2	水を補充する.....	57
5.7.3	パウダーホッパーの充填.....	57
5.7.4	ミルクシステムを充填します.....	58
5.8	飲み物の選択.....	59
5.8.1	飲料の選択.....	59
5.8.2	飲料の変更 (オプション).....	60

5.8.3	飲料の注出.....	60
5.9	空にする.....	61
5.9.1	カス受けを空にする.....	61
5.9.2	外部廃水タンクを空にする.....	62
5.10	スイッチを切る.....	62
5.10.1	コーヒーマシンのスタンバイモードへの切り替え.....	62
5.10.2	長時間にわたる使用停止 (1 週間以上).....	63
5.10.3	周辺機器の電源を切る.....	64
6	クリーニング.....	65
6.1	クリーニング規則および条件.....	65
6.1.1	洗剤.....	65
6.1.2	HACCP洗浄コンセプト.....	67
6.1.3	クリーニングレベル.....	67
6.2	クリーニング間隔.....	68
6.3	自動クリーニング.....	69
6.3.1	自動スイッチオン/オフのすすぎ.....	70
6.3.2	設定済みのすすぎ.....	70
6.4	ディスプレイガイド付きクリーニングプログラム.....	70
6.4.1	「クリーニング」ページ.....	71
6.4.2	「クリーニングプログラム」ページ.....	72
6.4.3	必要となる道具.....	73
6.4.4	ディスプレイガイドによるクリーニングの開始.....	73
6.4.5	コーヒーシステムのクリーニング.....	74
6.4.6	ミルクシステムのクリーニング.....	74
6.4.7	パウダーシステムのクリーニング.....	76
6.5	手作業でのクリーニング.....	77
6.5.1	カス受けを空にして洗浄.....	77
6.5.2	抽出チャンバーのクリーニング.....	77
6.5.3	雫受けとドリップグリッドを清掃します.....	77
6.5.4	ミルクコンテナを洗浄する.....	78
6.5.5	周辺機器のクリーニング.....	78
6.5.6	タッチスクリーンのクリーニング.....	79
6.5.7	内部飲料水タンクのクリーニング.....	79
6.5.8	外部の飲料水タンクのクリーニング.....	80
6.5.9	外部廃水タンクのクリーニング.....	80
6.5.10	コーヒー豆ホッパーの洗浄.....	81
6.5.11	パウダーホッパーの洗浄.....	81
6.5.12	外側のクリーニング.....	82
6.5.13	手動すすぎの実施.....	83
7	メンテナンス.....	85
7.1	メンテナンス作業.....	85
7.1.1	メンテナンス間隔.....	85
7.1.2	「メンテナンス間隔」ページ.....	86
7.1.3	メンテナンスの実施とカウンターのリセット.....	86
7.2	カルキ抜き.....	87
7.2.1	カルキ抜き.....	88
7.2.2	「カルキ抜き」ページ.....	89
7.2.3	必要となるカルキ抜き資材.....	90
7.2.4	バリエーション：固定式給水部がある場合のカルキ抜き.....	90
7.2.5	バリエーション：内蔵水タンクがある場合のカルキ抜き.....	94

7.2.6	カルキ抜きカートリッジの廃棄処分	99
8	プログラミング	101
8.1	ナビゲーション要素	101
8.2	プロフィールと承認	102
8.2.1	管理担当者プロフィール	102
8.2.2	設備管理人プロフィール	102
8.2.3	品質管理マネージャーのプロフィール	103
8.2.4	マシン担当者プロフィール	103
8.2.5	プロフィール認証の概要	104
8.3	マシン設定	104
8.3.1	「設定」ページ	104
8.3.2	設定「システム」	105
8.3.3	設定「構成」	108
8.3.4	設定「サービス」	108
8.3.5	設定「情報」	114
8.3.6	変更を保存し、コーヒーマシンに読み込む	118
9	障害の除去	119
9.1	障害表示	119
9.1.1	機能ランプ	119
9.1.2	ディスプレイ上のメッセージ	119
9.2	故障	120
9.3	ディスプレイメッセージを伴う障害	120
9.3.1	ディスプレイメッセージ「注意事項」	120
9.3.2	ディスプレイメッセージ「要求」	121
9.3.3	ディスプレイメッセージ「エラー」	122
9.3.4	ディスプレイメッセージ「障害」	123
9.4	ディスプレイメッセージのない障害	126
10	解体と廃棄	127
10.1	アンインストール	127
10.2	廃棄	127

1 安全

1.1 記号とマーク

安全に関する注意事項



危険

死亡事故や重傷を負うおそれのある非常に危険な状況を示しています。
危険回避のため、記載された指示に必ず従ってください。



警告

重傷を負う可能性がある一般的に危険な状況。
危険回避のため、記載された指示に必ず従ってください。



注意

軽傷を負う可能性のある一般的に危険な状況。
危険回避のため、記載された指示に必ず従ってください。



注記

コーヒーマシンへの物的損傷につながるおそれのある状況を示しています。
危険回避のため、記載された指示に必ず従ってください。

使用される警告記号

危険や指示に関するシンボルは、取扱説明書にもマシン本体にも使用されています。

記号	危険のタイプ	記号	危険のタイプ
	高温液体に対する警告		高温表面に対する警告
	高温蒸気に対する警告		危険な電圧に対する警告
	有害物質に対する警告		手指の怪我に対する警告

使用される禁止記号

記号	意味	記号	意味
	文書をよくお読みください！		保護手袋を着用してください！
	保護メガネを着用してください！		手を洗ってください！

記号	意味	記号	意味
	電源プラグを抜いてください！		

本書内のマークについて

マーク	意味	マーク	意味
▶	順不同で掲載	✓	アクションステップの結果
(1)	キャプション、図内のアイテム番号	[ボタン]	表示および操作要素
1.	詳細な手順説明	「メニュー」	画面上のメニュー

1.2 適切な用途

SKYEコーヒーマシンは、様々な種類および組み合わせのコーヒードリンク、温水、ミルクドリンクおよびパウダードリンク (トッピング、チョコレート) を、コーヒークップ、マグカップまたはピッチャーに注出するための装置です。

コーヒード豆ケースにはコーヒード豆のみ、パウダーケースにはチョコパウダーのみ、ミルクコンテナにはミルクのみ、そして手動挿入口には挽かれたコーヒード豆のみを入れてください。

このマシンは、ホテル業界、飲食業界、または同様の場所での商用利用を目的としています。マシンはセルフサービスの場所に設置し、監視なしで操作できます。このマシンは、店舗、オフィス、または同様の作業環境、ホテル、モーター、ペンションで使用でき、専門家ではない方やお客様でも操作することが可能です。

このマシンは、8 歳以上の子供や、身体的、感覚的または精神的能力が低下した人、または経験や知識が不足している人でも使用できますが、その場合、監督するか、またはマシンの安全な使用を指導し、その結果生じる危険を理解させる必要があります。子供たちがマシンで遊ばないようにしてください。クリーニングとユーザーによるメンテナンスは、監督なしに子供に行わせることはできません。クリーニングとユーザーメンテナンスは、特に安全および衛生に関して、知識と機器の実務経験を持つ人のみが行うことができます。



マシンの使用には、Schaerer AGの「一般利用規約」およびこれらの操作手順も適用されます。本機を他の目的で、または指定以上の方法でご使用になった場合、不適切な使用が行われたものとみなされます。これが原因で発生した損害に関してはメーカーは責任を負いかねます。

1.3 予見可能な誤使用



警告

誤用による危険!

コーヒーマシンの目的以外の使用やその他の使用は、誤用とみなされ、危険な状況につながる可能性があります。

コーヒーマシンを不適切に取り扱うことで、怪我につながるおそれがあります。

- ▶ 使用前には取扱説明書にしっかりと目を通してください。
- ▶ コーヒーマシンのサービスエリアへのアクセスは、資格のあるサービス技術者にのみ許可されています。
- ▶ クリーニングとユーザーメンテナンスは、特に安全および衛生に関して、知識と機器の実務経験を持つ人のみが行うことができます。
- ▶ セルフサービスモードやサービス付きモードでは、訓練を受けた担当者がコーヒーマシンを監督し、ユーザーの質問に応じたり、手入れ方法の遵守を確実なものにしてください。
- ▶ 十分に冷やしたミルクのみを使用してください。
- ▶ コーヒーマシンの安全装置は絶対に交換しないでください。
- ▶ コーヒーマシンは、正常に機能し、損傷していない場合にのみ使用してください。
- ▶ コーヒー豆ホッパーにはコーヒー豆のみを入れてください。
- ▶ パウダーケースにはマシン用パウダーのみを充填してください。
- ▶ ミルクコンテナにはミルクのみを入れてください。
- ▶ 手動挿入口には挽かれたコーヒー (クリーニング中はクリーニングタブレット) のみを入れてください。

1.4 使用会社の義務

マシンの使用会社は、シェーラー社サービスパートナー、委託業者もしくはその他の認可された人物による安全装置の定期的なメンテナンスおよび点検を行う義務があるものとします。欠陥については、30 日以内に書面でシェーラー社にクレームとして報告すること! 後から欠陥が見つかった場合には、この期間が取付けから 12 カ月以内 (作業レポート、納入記録) となるものの、遅くともツッフヴィルの工場から発送されてから 18 カ月以内とします。安全バルブ、安全サーモスタット、ボイラーなどの安全性に関わるパーツに損傷や欠陥がある場合は、これらのコンポーネントを交換してください。安全関連のコンポーネントは絶対に修理しないでください。



メンテナンス間隔の詳細については、「メンテナンス」の章を参照してください。

1.5 残留リスク

シェーラー社の製品は最高の安全性を特徴としています。ただし、怪我や健康被害を防止するための以下の注意事項に従った場合にのみ、安全装置の効果が発揮されます。



この安全に関する注意事項は、シェーラー社にお問い合わせいただくか、またはMediaPoolのポータル<Schaerer Coffee Link> (<https://login.coffeelink.schaerer.com/>) から直接ダウンロードしてください。

感電の危険



危険

感電による生命の危険！



電気機器を不適切に取り扱うと、感電のおそれがあります。生命への危険があります。

- ▶ 電気機器での作業は、必ず電気の専門家のみが行う必要があります。
- ▶ 機器を保護回路に接続します。(推奨: 残留電流回路ブレーカーを介して接続を配線します。)
- ▶ 該当の低電圧指針および/または各国、または現地の安全規則および規定に注意してください。
- ▶ 必ず規定通りアース接続を行い、感電防止のために固定してください。
- ▶ 本機の定格銘板の仕様に対応した電圧であることを確認してください。
- ▶ 電圧の流れているパーツには絶対に触らないでください。
- ▶ メンテナンス作業を実行する前には、必ずメインスイッチを切るかマシンを電源から外してください。
- ▶ 本機のすべての極が主電源から切断できることを確認してください。切断された接続は、機器の場所から常に見える必要があります、ロックによって切断を確保する必要があります。
- ▶ 接続ケーブル交換は必ず資格を有するサービス技術者に依頼してください。

洗剤による危険



洗剤使用前には、洗剤のパッケージの情報に注意深く目を通してください。安全データシートが添付されていない場合、販売会社 (洗剤のパッケージを参照) にこれを請求することができます。



警告

洗剤による中毒の危険！

洗剤を飲み込んだり、蒸気を吸い込んだりすると、中毒症状が発生するおそれがあります。

- ▶ 洗剤は子供や関係者以外の人物の手の届かない場所に置いてください。
- ▶ 洗剤を飲み込まないでください。
- ▶ 洗剤は決してその他の化学物質と混合しないでください。
- ▶ ミルクコンテナには決して洗剤を使用しないでください。
- ▶ 飲料水タンクには決して洗剤を使用しないでください。
- ▶ 洗剤およびカルキ抜きはそれぞれ指定の用途にのみ使用してください (ラベルを参照)。
- ▶ 洗剤使用中は飲食を行わないでください。
- ▶ 洗剤使用中はしっかりと換気が行われていることに注意してください。
- ▶ 洗剤使用中は保護手袋を着用してください。
- ▶ カルキ除去剤を使用するときは、保護ゴーグルを着用してください。
- ▶ 洗剤使用後はすぐに丁寧に手を洗ってください。

緊急連絡先: 洗剤メーカー (洗剤のラベル参照) に緊急時の連絡先 (毒物に関する情報センター) の電話番号を尋ねます。国内にそのような機関がない場合、以下の標を参照してください:

スイス毒物情報センター

スイス国外からの電話	+41 44251 51 51
スイス国内からの電話	145
インターネット	www.toxi.ch

アレルギーによる危険



注意

添加物による健康被害!

添加物 (またはその残り) が飲料にあると、アレルギーを引き起こす可能性があります。健康被害があります。

- ▶ セルフサービスでの使用の場合: コーヒーマシンに取り付けられている表示ラベル (アレルギーの原因となる添加物が使用されているかどうかの情報が記載されています) を確認してください。
- ▶ サービス付きの場合: 担当者が使用するアレルギーの原因となる添加物の情報を確認してください。

バクテリアによる危険



注意

汚染された水によって引き起こされる健康上の問題!

水の不適切な取り扱いにより、健康に影響を及ぼすおそれがあります。

- ▶ 水に汚れやバクテリアがないことを確認してください。
- ▶ コーヒーマシンには浸透水もしくはその他の刺激的水を接続しないでください。
- ▶ 炭酸塩硬度が 4 ~ 6°dKH または 8 ~ 12°fKH であることを確認してください。
- ▶ 総硬度が炭酸塩硬度よりも高いことを確認してください。
- ▶ 最大塩素含有量が、1 L あたり 50 mg を超えないようにしてください。
- ▶ pH 値は 6.5 ~ 7 (pH 中性) の間でなければなりません。

飲料水タンク (内部/外部) 付きコーヒーマシン:

- ▶ 飲料水タンクには毎日新鮮な水を入れてください。
- ▶ 水を入れる前には、飲料水タンクを丁寧にすすぎます。



注意

汚染されたコーヒーによって引き起こされる健康上の問題!

コーヒーの不適切な取り扱いにより、健康に影響を及ぼすおそれがあります。

- ▶ パッケージを開く前に損傷がないか点検します。
- ▶ コーヒー豆は必ず 1 日に必要な量だけをマシンにセットします。
- ▶ コーヒー豆投入後はコーヒー豆ケースのカバーをすぐに閉めます。
- ▶ コーヒーは乾燥した低温で暗い場所に保管してください。
- ▶ コーヒーは洗剤とは分けて保管してください。
- ▶ 古い商品からまず消費します (「先入れ先出し」)。
- ▶ 賞味期限切れ前にはコーヒーを消費してください。
- ▶ 開けられたパッケージは常にしっかりと閉め、ミルクが新鮮に保たれ、汚れが混入しないようにしてください。

**注意**

汚染された/ボトルミルクによって引き起こされる健康上の問題!

ミルクの不適切な取り扱いにより、健康に影響を及ぼすおそれがあります。

- ▶ 生乳は使用しないでください。
- ▶ 低温殺菌されたもの、または UHT ミルクのみを使用してください。
- ▶ ホモミルクのみを使用してください。
- ▶ 事前に冷却された温度が 3 ~ 5 °C のミルクを使用してください。
- ▶ ミルクを伴う作業では保護手袋を着用してください。
- ▶ ミルクは購入時のパッケージから直接使用してください。
- ▶ 絶対に後からミルクを補充しないでください。コンテナはミルクを充填する前に常に丁寧に洗浄してください。
- ▶ パッケージを開く前に損傷がないか点検します。
- ▶ ミルクは必ず 1 日に必要な量だけをマシンにセットします。
- ▶ ミルクを入れた後は、ミルクコンテナのカバーと冷却ユニット (内部および外部) をすぐに閉めます。
- ▶ ミルクは乾燥した、低温 (最大 7 °C) で暗い場所に保管してください。
- ▶ ミルクは洗剤とは分けて保管してください。
- ▶ 古い商品からまず消費します (「先入れ先出し」)。
- ▶ 賞味期限切れ前にはミルクを消費してください。
- ▶ 開けられたパッケージは常にしっかりと閉め、ミルクが新鮮に保たれ、汚れが混入しないようにしてください。

**注意**

汚染されたマシン用パウダーによって引き起こされる健康上の問題!

マシン用パウダーの不適切な取り扱いにより、健康に影響を及ぼすおそれがあります。

- ▶ パッケージを開く前に損傷がないか点検します。
- ▶ マシン用パウダーは必ず 1 日に必要な量だけをマシンにセットします。
- ▶ パウダー補充後はパウダーホッパーの蓋をすぐに閉めてください。
- ▶ マシン用パウダーは乾燥した低温で暗い場所に保管してください。
- ▶ マシン用パウダーは洗剤とは分けて保管してください。
- ▶ 古い商品からまず消費します (「先入れ先出し」)。
- ▶ 賞味期限切れ前にはマシン用パウダーを消費してください。
- ▶ 開けられたパッケージは常にしっかりと閉め、ミルクが新鮮に保たれ、汚れが混入しないようにしてください。

熱による危険**注意**

高温の液体によるやけどの危険!

飲料、熱湯およびスチームが出る箇所ではやけどのおそれがあります。

- ▶ これらが出ている間、またはクリーニング中は商品の注出場所に手を触れないでください。

**注意**

高温表面による怪我の危険!

商品の注出場所と抽出ユニットは高温になるおそれがあります。

- ▶ コーヒーマシンの高温パーツには絶対に触れないでください。
- ▶ 飲料注出口には必ず対応のグリップを使用してください。
- ▶ 抽出ユニットのクリーニングは必ずマシンを冷ました状態で行ってください。

メカニクによる危険**注意**

可動コンポーネントによる挟み込みの危険!

飲料注出口とコントロールパネルは手動で動かすことができます。運転中、グラインダーと抽出ユニットが動きます。すべての可動コンポーネントを取り扱う際には挟み込みの危険があります。

- ▶ 飲料注出口には必ず対応のグリップを使用してください。
- ▶ コントロールパネルを上下に押すときは、必ず両手で行ってください。
- ▶ コーヒーマシンのスイッチが入った状態では、絶対にコーヒー豆およびパウダーホッパー、または抽出ユニットの開口部に手を入れないでください。

1.6 物損の危険



注記

コーヒーマシンの不適切な取り扱いによる物的損傷!

コーヒーマシンを不適切に取り扱うことで、物的損傷や汚れにつながるおそれがあります。

- ▶ 炭酸塩硬度が 6°dKH 以上の水を使用する場合、手前にカルキフィルターを取り付けてください。これを怠るとカルキによって損傷するおそれがあります。
- ▶ 水の供給が遮断されている場合、マシンを使用しないでください。これを守らないとボイラーが充填されず、ポンプの空運転につながります。
- ▶ シェーラー社では、ホースが破損した場合の水による被害を防ぐため、給水止め弁 (現場) を介して水を供給するよう推奨しています。
- ▶ 長時間にわたって使用を停止した後 (休業期間など) には、再びマシンを使用する前にクリーニングを行ってください。
- ▶ コーヒーマシンが天候の影響 (霜、湿気など) から保護してください。
- ▶ 障害が発生した場合は、「トラブルシューティング」の章の表を確認し、必要に応じて資格のあるサービス技術者に連絡してください。
- ▶ 必ずシェーラー社のオリジナル交換パーツのみを使用してください。
- ▶ 目に見える損傷や漏れは直ちにサービスパートナーに報告し、該当の部品の交換もしくは修理を依頼してください。
- ▶ マシンには水を吹きかけたり、スチームクリーナーでクリーニングを行わないでください。
- ▶ 水がかかる可能性がある場所に機器を設置しないでください。
- ▶ キャラメル風味のコーヒー (フレーバーコーヒー) を使用する場合、抽出ユニットは日に 2 回クリーニングしてください。
- ▶ コーヒー豆ケースにはコーヒー豆のみ、パウダーケースにはマシン用パウダーのみ、ミルクコンテナにはミルクのみ、そして手動挿入口には挽かれたコーヒー (クリーニング中はクリーニングタブレット) のみを入れてください。
- ▶ フリーズドライのコーヒーは絶対に使用しないでください。これを怠ると、抽出ユニットが動かなくなります。
- ▶ コーヒーマシンおよび/もしくは補助機器が 10°C 未満で輸送される場合、コーヒーマシンおよび/もしくは補助機器を電源に接続してスイッチを入れる前に、コーヒーマシンおよび/もしくは補助機器を 3 時間室内温度に置いてください。これを怠ると、凝縮水によるショートや電気コンポーネントの損傷を招くおそれがあります。
- ▶ コーヒーマシンには常に新しい付属のホースセット (飲料水/廃水ホース) を使用してください。絶対に使用済みのホースセットは使用しないでください。

2 テクニカルデータ

2.1 飲み物の種類と性能



"飲み物の選択"の章を参照。

マシンの仕様とオプションにより、以下の飲料を準備することができます:

一時間毎の飲料供給量		
エスプレッソ 35 ~ 60 ml	約 120 杯	
コーヒー 120 ml	約 120 杯	
推奨される毎日の出力		
エスプレッソ 50 ~ 60 ml	約180 杯	
コーヒー 120 ml	約180 杯	
利用可能な飲料	標準	オプション
エスプレッソ	x	
コーヒー	x	
コーヒー/カフェクリーム	x	
ミニポット (250 ml)/ZW	x	
ポット (500 ml)/ZW	x	
アメリカーノ AC/ZW		x
ホワイト アメリカーノ*/AC/ZW		x
ミルクコーヒー (カップ ライト/ダーク)/*		x
カプチーノ/*		x
ラテ マキアート/*		x
エスプレッソ マキアート/*		x
カフェ モカ***		x
ホットチョコレート***		x
フラットホワイト*		x
ホット ミルク*		x
冷たいミルク*		x
Pure Foam™ ミルクフォーム (ホット)*		x
熱湯 / 熱湯 外部		x
スチーム		x

利用可能な飲料	標準	オプション
パウダー飲料 / インスタントドリンク		x
推奨 されるマ シン設 備: * 新鮮なミルクで ** 新鮮なミルクおよび/またはトッピング (ミルクパウダー) 付き *** チョコ付き AC 抽出アクセレレータ ZW 補助ウォーター		

2.2 マシンデータ

ボイラーの定格出力 *	スチームボイラー	熱湯ボイラー
	2000 W	2000 W
使用温度	スチームボイラー	熱湯ボイラー
最低使用温度 (T min.)	10 °C	10 °C
最大使用温度 (T max.)	192 °C	192 °C
使用温度	127 °C	95 °C
過圧	スチームボイラー	熱湯ボイラー
使用圧力	2.5 bar	約 0.8 MPa
最大許容使用圧力 (p max.)	0.5 MPa	1.2 MPa
テスト圧	2.4 MPa	2.4 MPa
容量		
飲料水容量	給排水管接続	
コーヒー豆ケースの容量	各 750 g	
カス受けの容量	550 g	
外寸		
コーヒーマシンの幅	330 mm	
サイド冷却ユニットを含む幅	582 mm	
コーヒー豆ホッパーおよびキーを含む高さ	666 mm	
奥行	576 mm	
重量		
空重量	約 40 kg	

音圧

連続音圧レベル <70 dB(A)**

仕様は変更される場合があります。

* 特別仕様については定格銘板を参照してください。指定された値は、標準仕様に対応しています。

** * A 特性音圧レベル (遅い動特性) および Lpa (パルス) はいかなる操作モードにおいてもオペレーターの作業場所にて 70 dB (A) を超えないものとします。

2.3 設置場所での電源接続

電源	電源仕様			建物側の保護	接続ケーブルの断面積
1L、N、PE	220 ~ 240 V AC	50/60 Hz	2000 ~ 2400 W	10 ~ 13 A*	3 x 1 mm ²
2L、PE	200 V	50/60 Hz	1800 W	15 ~ 20 A*	3 x 1 mm ²
2L、PE	208 ~ 240 V	60 Hz	1900 ~ 2400 W	15 ~ 20 A*	3 x 1 mm ² 3 x 16 AWG

* ハウスヒューズは32 Aを超えないでください。

2.4 水接続値

水圧	最小:	0.1 MPa (1 bar)
	最大:	1.0 MPa (10 bar)
入口の水温	最小:	10 °C
	最大:	30 °C
塩素含有量	最大:	1リットルあたり 50mg
pH値	最小:	6.5
	最大:	7
炭酸塩硬度 (ドイツ)	最小:	4 °dKH
	最大:	6 °dKH
炭酸塩硬度 (フランス)	最小:	8 °fKH
	最大:	12 °fKH
総硬度		> 炭酸塩硬度

2.5 周囲条件

周辺温度	最小:	+10 °C
	最大:	+40 °C
相対湿度	最大:	80 %rF

2.6 定格銘板

型式	モデル
Schaerer Coffee Skye	モデルバリエーションなし



図: 定格銘板

定格銘板はコーヒーマシンの内部にあります。

- ▶ カス引き出しをコーヒーマシンから前方に引き出すと、アクセスしやすくなります。
- ▶ カス引き出しの右側にあるカバーを開きます。
- ▶ 障害が発生したり、保証の対象となる場合には、リストをご参照の上、定格銘板のデータをお伝えください。

推奨情報：

- マシンタイプ > (SKYE)
- 定格出力 > 例 2000 ~ 2400 W
- 定格電圧 > 例 220 ~ 240 V
- 現場でのブレーカー設定 > 例 30 A
- シリアル番号 > [JJKW XXXXXX] > 例 1935 XXXXXX

2.7 EC適合宣言

2.7.1 製造者住所

製造者	ドキュメントの責任者
Schaerer AG P.O. Box 336 Niedermattstrasse 3 CH-4528 Zuchwil T +41 32 681 62 00 F +41 32 681 64 04 info@schaerer.com www.schaerer.com	Schaerer AG 製品のケアおよび管理システム P.O. Box 336 Niedermattstrasse 3 CH-4528 Zuchwil

2.7.2 適用規格

上記のメーカーは、このマシンが EC 指令に関連する全ての規定に適合していることを宣言します。申し合わせなく装置を改造した場合、この宣言は無効となります。次の整合規格が適用されています。要求事項を適切に処理するために、DNV GL - Business Assurance ISO 9001:2015 ISO 14001:2015 ISO 45001:2018 認証の品質マネジメントシステムが適用されます。本適合宣言の発行に対する責任は、メーカーのみが負います。上記の宣言の対象物は、2011年6月8日の欧州議会および欧州理事会による、電気・電子機器における危険物質の使用規制に関する指令 2011/65/EC の規定に準拠しています。

CE適合用	
MD 2006/42/EC ▶ EN 60335-1:2020-08 +A11 +AC ▶ EN 60335-2-75:2010-11 +A1 +A11 +A12 +A2 ▶ EN 62233:2008	EMC指令 2014/30/EU ▶ EN 55014-1:2018-08 +A1 +A2 ▶ EN 55014-2:2016-01 +A1 +A2 +AC ▶ EN 55014-2:2016-01 +A1 +A2 +AC ▶ EN 61000-3-11:2021-03

CE適合用

RoHS 指令 2011/65/EU
 ▶ EN IEC 63000:2019-05

RED 2014/53/EU
 ▶ EN 301 489-1 V2.1.1:2017
 ▶ EN 301 489-7 V1.3.1:2005
 ▶ EN 301 489-24 V1.5.1:2010

欧州指令および規則を遵守するために

WEEE-指令 2012/19/EU

POP規制 2019/1021

EU化学物質規制に対して

REACH規則 1907/2006/EC

国際認証 (CB)

安全性

- ▶ IEC 60335-1:2020-08
- ▶ EN 60335-2-75
- ▶ BS EN 62233:2008

EMC

- ▶ CISPR 14-1
- ▶ CISPR 14-2
- ▶ IEC 61000-3-2
- ▶ IEC 61000-3-11

CB スキーム > 試験報告書と証明書の相互承認の国際システム
 CE 欧州共同体の調和法の要件
 CISPR 電波干渉に関する国際特別委員会
 EG/EU 欧州共同体は、EC/CFSP/PJCCからなる欧州連合の一部である。
 EMC 電磁両立性
 IEC 電気機器およびコンポーネントの国際適合性評価システム
 MD 機械指令 (欧州議会および理事会)
 POP 残留性有機汚染物質に関する規則 (EU)
 REACH 化学物質の登録、評価、認可、制限に関する欧州化学物質規制
 RED 無線機器および受信機 (無線通信) の欧州承認指令
 RoHS 有害物質の制限
 WEEE 電気および電子機器の廃棄物 > 電気および電子機器からの廃棄物の回避と削減

3 製品の説明

3.1 コーヒーマシンの概要

標準仕様のSchaerer Coffee Skyeには、設定に応じたデコレーション要素が含まれているほか、8インチのタッチスクリーンが搭載されています。



注文時に様々な設定オプションが可能です。

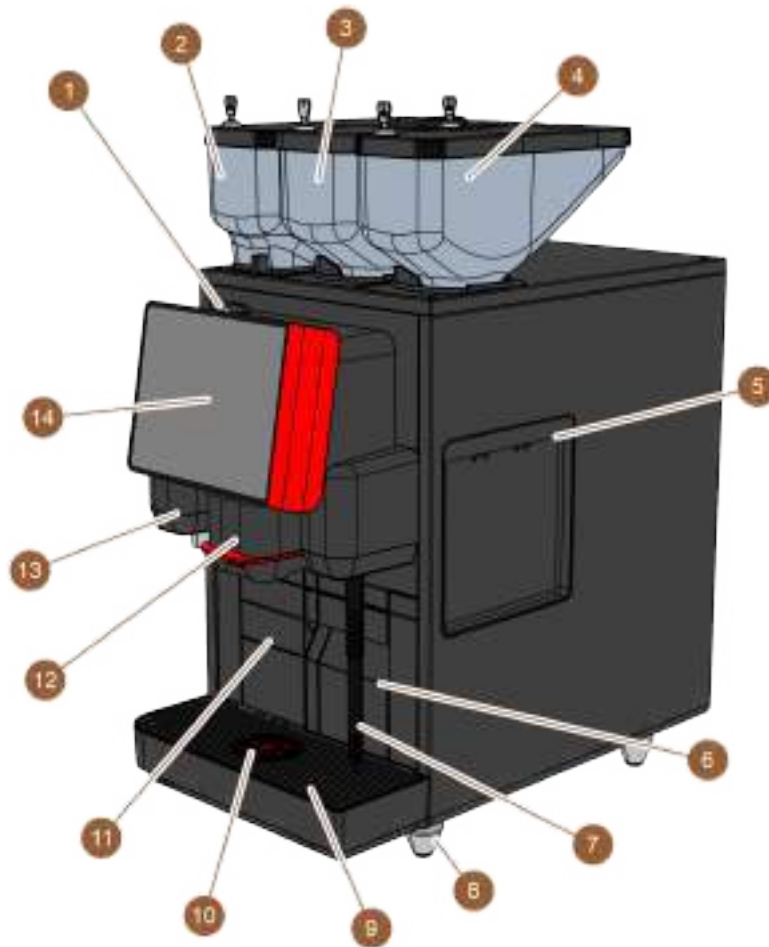


図: コーヒーマシンの概要

番号	名称	説明
1	コントロールパネルのロック装置	"コントロールパネルのロック装置"の章を参照。
2-4	コーヒー豆およびパウダーホッパー	コーヒー豆ホッパーおよびパウダーホッパーは、コーヒー豆やマシン用パウダーをコーヒーマシンに供給するものです。
5	サイドパネルの開口部	2つのサイドパネルにある開口部からは、ミルクホースを反対側へ通すなど、コーヒーマシンの内部へアクセスすることができます。
6	カス受け	カス受けにはコーヒーかすが回収されます。

番号	名称	説明
7	スチームノズル	外付けのスチームノズルにより、ミルクの加熱およびフォーミングを別々に行うことができます。
8	マシン脚部 (オプション)	マシン脚部は、設置面までの距離を40 mmに延長します。
9	雫受け	クリーニングで出た水やこぼれたコーヒーの雫が雫受けに溜まります。
10	カップ位置決めツール (オプション)	カップ位置決めツールは、カップの正しい位置を示します。
11	内部の飲料水タンク (バリエーション)	内部の飲料水タンクは、飲料の準備に必要な飲料水を供給します。
12	手動の飲料注出	手動の飲料注出口は飲料を注出し、選択した飲料に応じて手動で上下にスライドさせる必要があります。
13	外部熱湯注出	外部熱湯注出口により、手動で個別に注出することができます。
14	タッチスクリーン付きコントロールパネル	"タッチスクリーン付きコントロールパネル"の章を参照。

3.1.1 コーヒー豆およびパウダーホッパー

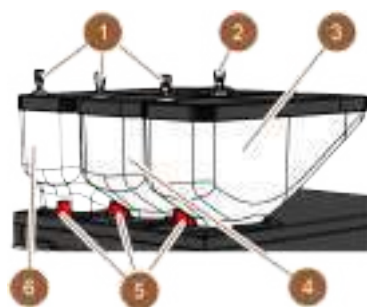


図: コーヒー豆およびパウダーホッパー

コーヒー豆ホッパーおよびパウダーホッパー (3、4、6) は、コーヒーマシンの上部に設置されています。標準装備では、中央のコーヒー豆ホッパー (4) のみになります。

ホッパーはロック (5) を解除することでコーヒーマシンから取り外すことができます。

ロック装置: ホッパーはオプションでロック可能です (1)。手動投入口にもオプションでロック (2) を取り付けすることができます。

2基目のグラインダー (コーヒー豆ホッパー付き): オプションとして、コーヒー豆ホッパー (3) 付きの2基目のグラインダーを中央の標準グラインダーの右側に取り付けることができます。

2基目のグラインダーでは、エスプレッソ豆やカフェインフリーのコーヒー豆を使用することができます。

標準的なコーヒー豆ホッパーの容積は、750 gです。

「2基めのグラインダー」オプションは後付けできません。

パウダーシステム: オプションとして、パウダーホッパー (2000 g、6) 付きのパウダーシステムを中央の標準グラインダーの左側に取り付けることができます。

パウダーシステムにより、チョコおよび/またはトッピングパウダーを使用することができます。

コーヒーマシンにパウダーシステムが搭載されている場合、飲料を注出する前にマシン用パウダーと水を混ぜ合わせるミキシングカップがあります。

パウダーシステム ツイン: パウダーシステムは、オプションとして、ホッパーを2つに分割したパウダーシステム ツインとして設計することができます。

「パウダーシステム」オプションは後付けできません。

3.1.2 カス受け



図: カス受け

カス受けには、2つのバージョンがあります。

- スタンダード (2)
- 下にUC コーヒーかす入れ用の開口部(1)を装備

スタンダードカス受け：スタンダードカス受け(2)には、コーヒーケーキが集められます。

カス受けは、コーヒーマシンの前側から取り出し、空にできます。

カス受けを取り外すには、手動の飲料注出口を上を持ち上げる必要があります。

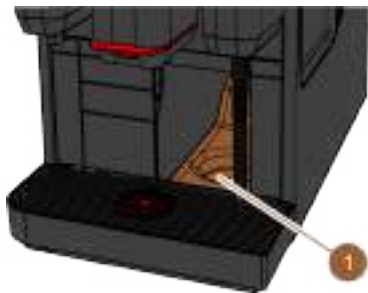


図: UC コーヒーかす入れ

UC コーヒーかす入れ：オプションとして、カス受けとコーヒーマシンの底部に開口部を設けることができ (1)、コーヒーケーキをコーヒーマシンからカウンター下の容器に直接落下させることができます(別売り)。これには、カウンターにも開口部が必要となります。

カウンター下用コーヒーかす入れは、排出されたコーヒーケーキのコンテナ容量を増量させます。

「UC コーヒーかす入れ」オプションは後付けも可能です。

3.1.3 外部スチームアウトレット



図: 外部スチームアウトレット

コーヒーマシンにはオプションで外付けスチームノズル (1) を装備することができます。

外付けのスチームノズルは、ミルクの手動加熱およびバリスタスタイルのミルクフォーミングを別々に行うことができます。

スチームノズルは飲料注出口の右側に取り付けられ、取り付け部には機能表示灯が装備されています。

スチームノズルはパワースチーム仕様が可能です。

「スチームノズル」オプションは後付けできません。

3.1.4 マシン脚部



図: マシン脚部 – 40 mm

カウンター下の周辺機器を使用する場合は、マシン脚部 (1) を取り付ける必要があります。

オプションの「マシン脚部」は後付けすることができます。ネジは納入品目に含まれません。

3.1.5 カップ位置決めツール付き 雫受け



図: 雫受け

雫受けは、こぼれた飲料、雫、および洗浄水を回収します。雫受けには、雫受けを空にする必要があることを通知するセンサーが装備されています。雫受けには以下のバリエーションがあります。

- 廃水出口用開口部なし
- 廃水出口用開口部付き

開口部あり：設置時には、雫受けを廃水ホースに接続する必要があります。この廃水ホースは、外部の廃水タンク、または廃水管に直接接続されます。



図: カップ位置決めツール

カップ位置決めツール：雫受けのカップ受けでは、オプションとしてカップ位置決めツールを使用できます。これは、飲料カップ1杯注出用の位置決めツールです。

3.1.6 内部の飲料水タンク



図: 内部の飲料水タンク

コーヒーマシンには内部の飲料水タンク (1) が標準装備されています。コーヒーマシンのモバイルでの使用要件は、内部の飲料水タンクによって満たされています。内部の飲料水タンクは後付けできません。

飲料水を供給するためのその他のバリエーションとして、オプションの外部飲料水タンクおよびオプションの給排水管接続があります。

3.1.7 手動の飲料注出

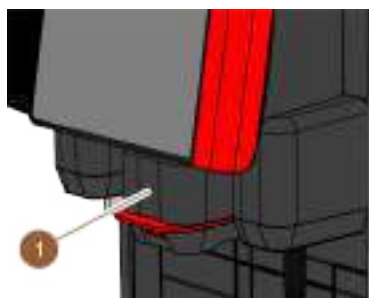


図: 手動の飲料注出

飲料注出口 (1) の高さは、それぞれの飲料とカップのサイズに合わせて手動で調整する必要があります。飲料注出口は、コーヒーマシンから飲料を注出するために使用します。

飲料注出口のハンドルは、赤または黒に色付けされています。飲料注出口は定期的にクリーニングする必要があります。

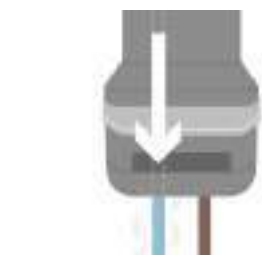


図: 補助ウォーター

補助ウォーター：コーヒーを注出するために、飲料注出口の熱湯注出口から熱湯をカップに注出することもできます。このオプションは特に「アメリカン」を作るのに適しています。「水追加」オプションは後付けできません。

3.1.8 外部熱湯注出

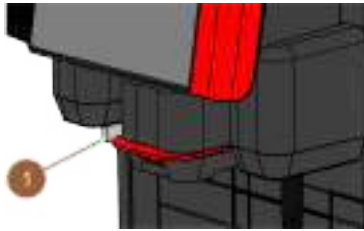


図: 外部熱湯注出

コーヒーマシンにはオプションで外部熱湯注出口 (1) を装備することができます。外部熱湯注出口により、お湯を個別に注出することができます。

外部熱湯注出口は飲料注出口の左側に取り付けられ、取り付け部には機能表示灯が装備されています。

「外部熱湯注出口」オプションは後付けできません。

3.1.9 グライNDER



図: グライNDER

コーヒーマシンの各コーヒー豆ホッパーには、1基のグラインダー (1) が装備されています。

グラインダーは、飲料を準備する直前に豆を挽き、挽きたての粉をコーヒーマシン内の飲料注出口へ運びます。

グラインダーの粉砕度は電動で調整できます。

3.1.10 機能ランプ



図: 機能ランプ

コーヒーマシンには、機能表示灯 (1) が装備されています。飲料注出口の左右にある機能表示灯は、カラー調整が可能で、コーヒーマシンの動作状況に関する情報を提供します。

- ▶ 白：コーヒーマシンは作動可能です
- ▶ オレンジ：早急なアクションが必要です (充填、クリーニングなど)
- ▶ 赤：マシンエラー (ミルクが空、グラインダーのブロック、水流エラーなど)

3.1.11 デコレーション要素

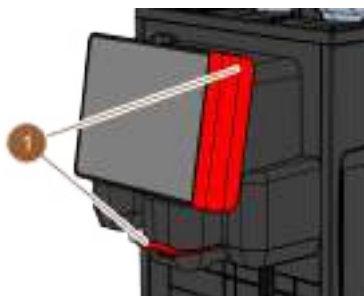


図: デコレーション要素

コーヒーマシンには、デコレーション要素 (1) があります (黒または赤)。

デコレーション要素により、コーヒーマシンを周囲に適合させることができます。

「デコレーション要素」オプションは後付け、またはカラーの変更ができます。

3.2 操作エレメント

3.2.1 概要

コーヒーマシンの外側

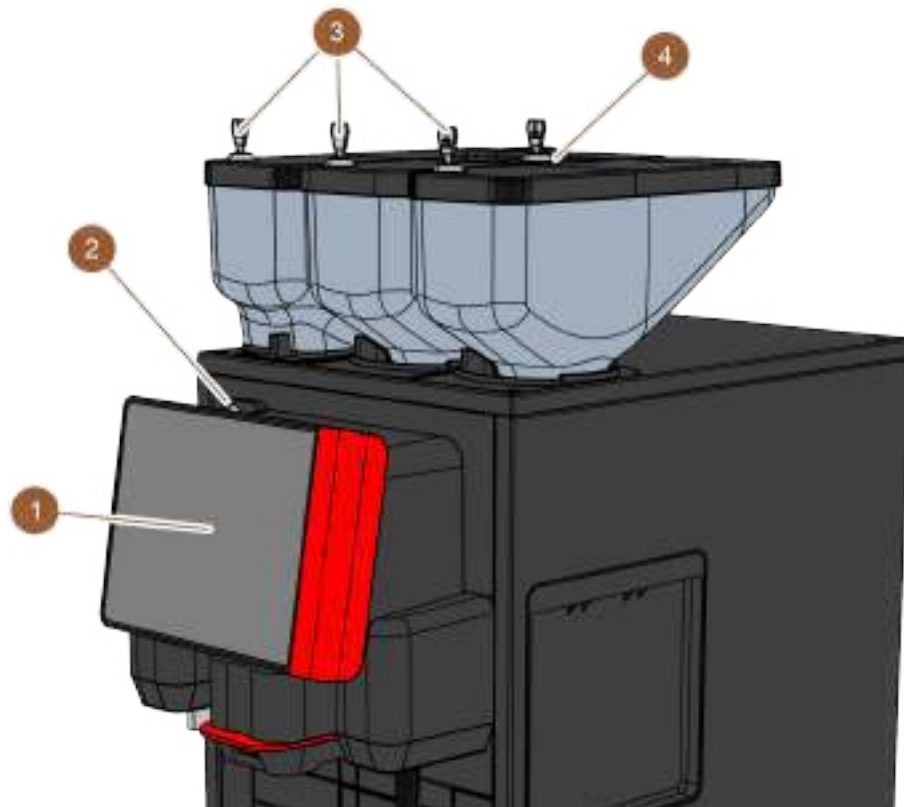


図: コーヒーマシン外側の操作エレメントの概要

コーヒーマシンの外側には次の操作エレメントがあります。

番号	名称	説明
1	ディスプレイ付きコントロールパネル	コーヒーマシンの操作用タッチスクリーン (タッチセンサー式ディスプレイ、8インチ)
2	コントロールパネルのロック装置	コントロールパネルを閉じた状態でロックすることができ、不正なアクセスを防止します。
3	コーヒー豆およびパウダーホッパーのロック装置	コーヒー豆ホッパーおよびパウダーホッパーには、不正なアクセスを防止するためのロック装置がオプションで用意されています。
4	手動投入口	手動投入口は、コーヒー粉/洗浄タブレット用です。オプションとして、手動投入口にはロック装置を装備することができます。

コントロールパネル裏の操作エレメント

コントロールパネル裏の操作エレメントにアクセスするには、コントロールパネルを開きます。



"コントロールパネルを開く"の章を参照

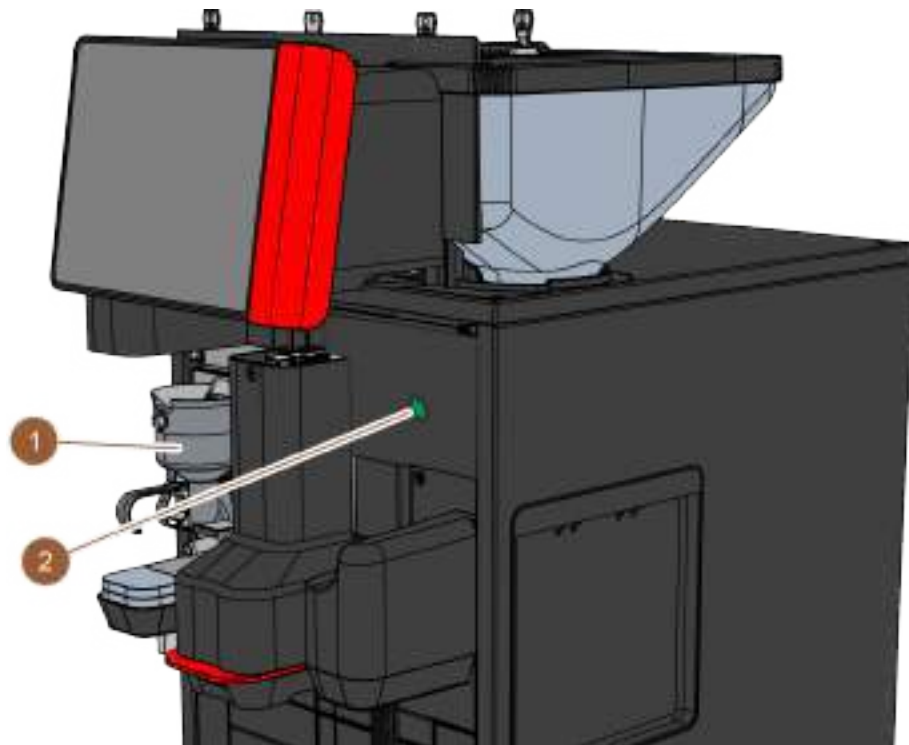
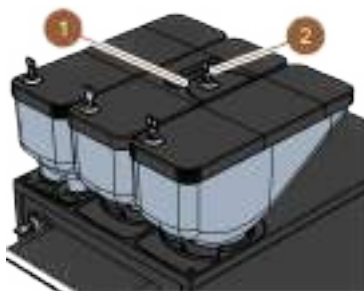


図: コントロールパネル裏の操作エレメントの概要

以下の操作エレメントは、コントロールパネルの裏側にあります。

- 1 チョコレートまたはトッピングパウダーシステム用ミキサーカップ (オプション)
- 2 コーヒーマシンのオン/オフボタン

3.2.2 手動投入口



中央コーヒー豆ホッパー (750 g) には、手動投入口 (1) が標準装備されています。手動投入口は、コーヒー粉 (カフェインフリーコーヒーなど) を入れるときに使用します。コーヒー粉は、コーヒーマシンで直接処理されます (コーヒー豆ホッパーには入れず、別の開口部から直接コーヒーマシン内部に入れます)。

手動投入口は、洗浄タブレット (Coffee pure tab) を投入する際にも使用します。

図: 手動投入口



手動投入口には、オプションでロック装置 (2) を使用することができます。

3.2.3 タッチスクリーン付きコントロールパネル

コントロールパネルにタッチスクリーンを採用 (タッチセンサー式ディスプレイ、8インチ)。コントロールパネルでコーヒーマシンの操作を行うことができます。



"ユーザーインターフェース"と"プログラミング"の章を参照

3.2.4 コントロールパネルのロック装置

ロック装置により、コントロールパネルは閉じた状態に保たれ、不正な開放から保護されます。

- キーを左へ：ロック装置が開きます
- キーを右へ：ロック装置が閉まります

3.2.5 コーヒー豆およびパウダーホッパーのロック装置 (オプション)

コーヒー豆ホッパーとパウダーホッパーには、オプションでロック装置を装備し、補充を許可されたグループの人のみに限定できます。

- キーを左へ：ロック装置が開きます
- キーを右へ：ロック装置が閉まります

3.2.6 ミルクカップ

コーヒーマシンにオプションのパウダーシステム(チョコまたはトッピングパウダーシステム)が装備されている場合には、ミキサーカップがあります。ミキサーカップはコントロールパネルの後ろにあり、飲料の注出前に、定義された量のパウダーをお湯と混合します。

3.2.7 コーヒーマシンのオン/オフスイッチ

コーヒーマシンのオン/オフスイッチは、コントロールパネルの裏側にあります。オン/オフスイッチを短く押すと、コーヒーマシンが起動します。4秒間押すとコーヒーマシンがオフになります。

3.3 コーヒーマシンの接続部とインターフェース

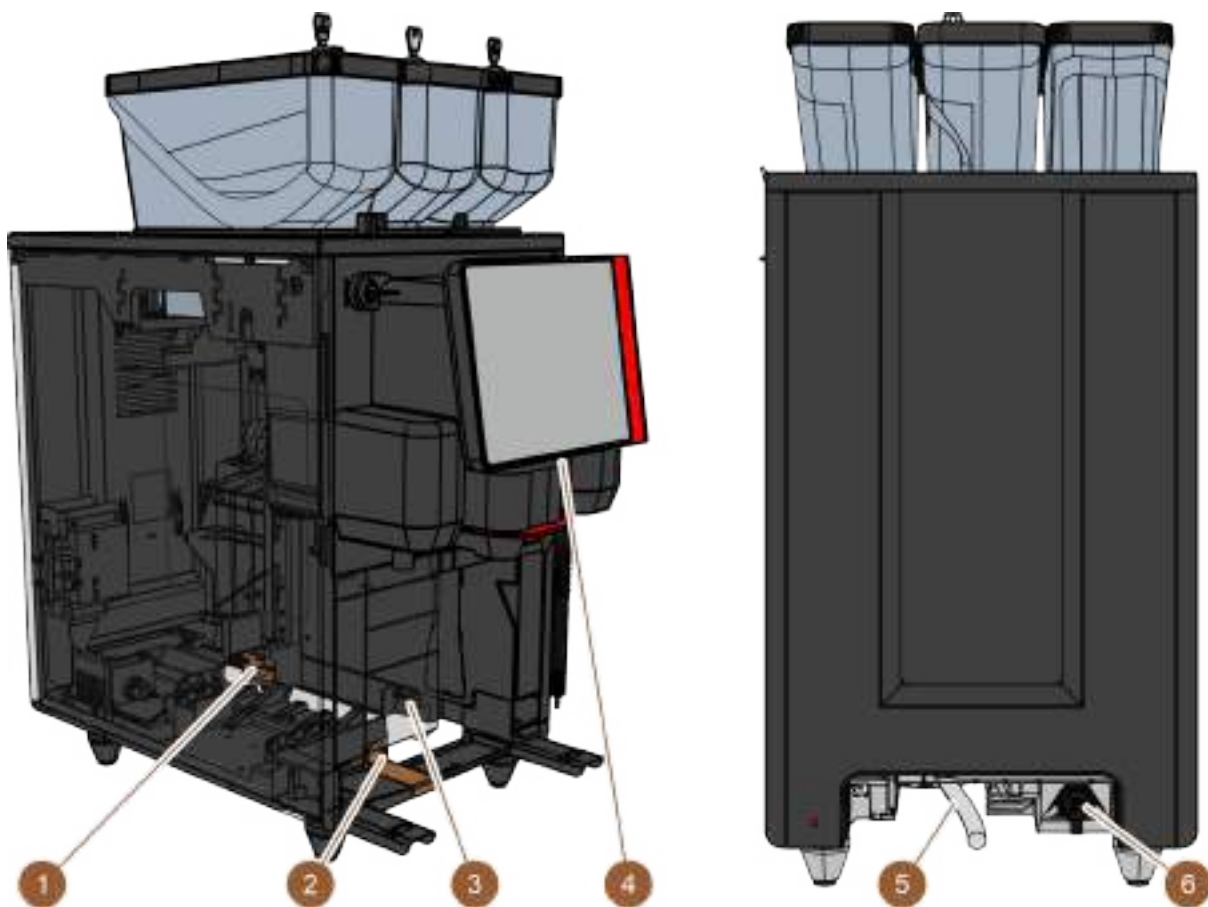


図: コーヒーマシンの接続部とインターフェース

番号	名称	説明
1	電源接続部	電源接続部は、背面のコーヒーマシンの内部にあり、コーヒーマシンに電力を供給します。
2	廃水接続部	廃水接続部にホースを取り付けることができ、汚れた水をコーヒーマーカーから排出することができます。
3	通信インターフェース	通信インターフェースの接続部は、右外壁の下部にあるコーヒーマシンの内部にあります。通信インターフェースの接続部にアクセスするには、カス受けを取り外す必要があります。コーヒーマシンは、通信インターフェースを介して周辺機器に接続されます。
4	USBポート	タイプAのUSBポートは、コントロールパネルの下部にあります。USBポートにアクセスするには、カバーを開く必要があります。
5	真水接続部	真水接続部により、コーヒーマシンに飲料水が供給されます。これは、給排水管接続または外部水タンク (機械の構成に応じて) を介して行うことができます。コーヒーマシンには、真水接続部を必要としない内部水タンクが標準装備されています。
6	ユニバーサル接続	ユニバーサル接続には、以下のさまざまなインターフェイスを装備できます。 - なし - イーサネット - MDB - RS-232

3.4 オプション



図: 外部飲料水および廃水タンク

外部飲料水および廃水タンク

コーヒーマシンのモバイルでの使用要件は、外部飲料水および廃水タンクを備えたオプション装備によって可能になります。

外部飲料水タンクを使用する場合、コーヒーマシンに給排水管接続が装備されている必要があります (内部の飲料水タンクは装備されていません)。

外部廃水タンクを使用する場合、雫受けに開口部を設ける必要があります。タンクはレベルモニターされており、後付けすることができます。



図: データ交換

Schaerer コーヒーリンクのデータ交換

デジタルソリューション「Schaerer コーヒーリンク」は、品質保証のための包括的な情報を提供するだけでなく、個々のビジネスプロセスのモニターおよび最適化を行います。Schaererのウェブポータル「コーヒーリンク」により、コーヒーマシンから様々なデータを読み取ることができます。「Schaerer コーヒーリンク」オプションは後付けできます。



図: フレッシュミルクシステム

フレッシュミルクシステム Pure Foam™

Pure Foam™ オプションは、内蔵されたミルクの自動加熱およびバリスタスタイルのミルクフォーミングを行うことができます。

冷たいミルクを注出することが可能です。

Pure Foam™ オプションを使用する場合は、冷却ユニットが必要です。

「Pure Foam™」オプションは後付けできません。



図: 抽出アクセレレータ

抽出アクセレレータ

抽出加速装置は、量の多い飲料 (例: アメリカン) をさらに効率的にクオリティーも改善して注出することができます。追加量の熱湯が抽出ユニットの後にあるコーヒー注出口に供給されます。「抽出加速装置」オプションは後付けできません。

3.5 周辺機器

3.5.1 冷却ユニット

コーヒーマシンに「Pure Foam™」オプションが搭載されている場合、周辺機器として冷却ユニットを使用する必要があります。コーヒーマシンには、以下の冷却ユニットが使用可能です。

- 個別冷却ユニット
- カウンター下冷却ユニット (UC)



図: 個別冷却ユニット

個別冷却ユニット

冷却ユニットには、10 l のミルクコンテナが装備されています。個別冷却ユニットは、2 台のコーヒーマシン (センターミルク) の間の左右に配置でき、カウンター下冷却ユニットとしても使用できます。出荷時のコーヒーマシンには、標準ではミルク用の接続口が左側に付いています。

コーヒーマシンの右側以外に設置する場合は変更が必要です。変更の説明と必要なコンポーネントは、個別冷却ユニットに同封されています。



図: カウンター下冷却ユニット

カウンター下冷却ユニット (UC)

カウンター下冷却ユニットは、カウンターのコーヒーマシンの下に配置されます。

冷却ユニットには、9.5 l のミルクコンテナが装備されています。

センターミルクを装備するカウンター下冷却ユニットは、2 台のコーヒーマシンにミルクを供給します。

3.5.2

カップと冷却



図: カップと冷却

周辺機器Cup & Coolは、コーヒーマシンの左側に設置でき、細長バージョンと幅広バージョンがあります。

周辺機器Cup & Cool (幅広) は、センターミルクバージョンでは、2 台のコーヒーマシンの間に設置することも可能です。

周辺機器 (幅広) には、9.5 l のミルクコンテナがあり、コーヒーカップ 約 44 ~ 160 個を収納できます。

細長バージョンには、4 l のミルクコンテナが搭載され、コーヒーカップ 約 45 ~ 198 個を収納できます。

コーヒーマシン右側のCup & Coolの使用には変更が必要です。変更の説明と必要なコンポーネントは、周辺機器に同封されています。

3.5.3

カップ ウォーマー



図: カップ ウォーマー

周辺機器カップウォーマーは、コーヒーマシンの左側または右側に設置でき、細長バージョンと幅広バージョンがあります。

カップウォーマー (細長) には、約 60 ~ 264 個のコーヒーカップを収納できます。幅広タイプでは、88 ~ 320 個のコーヒーカップを収納できます。

3.6 梱包内容とアクセサリ

個数	名称	製品番号
ドキュメント		
1	取扱説明書 (BA)	3
1 ¹	周辺機器の補足説明書 (カップウォーマー + Cup & Cool)	3
1 ¹	冷却ユニットの取扱説明書	3
コーヒーマシンの納入品目		
1	雫受け SKYE	100686
1 ^{1 2}	接続ケーブル 230V 10A CH-C13W 2m	063261
	接続ケーブル 250V 16A EU-C13W 2m	063260
	接続ケーブル 250V 13A UK-C13W 2.5m	071919
	接続ケーブル C13 が外れています 3x1mm ² 2.5m sw	072239
納入品目 一般		
1	計量スプーン コーヒー br	067111
1	ブレーキチャンバー シングル	100613
納入品目 クリーニング/メンテナンス		
1	ブラシ 75-40 (抽出チャンバー)	067409
1	クリーニングブラシ (飲料注出口)	062951
ミルクシステム ¹		
1	クリーニングコンテナ 1 l 青	33.2593.6000
1	クリーニングコンテナのフタ 1 l 青	33.2593.7000
1 ^{1 2}	Milkpure Powder & Coffeepure tabs デリバリーセット	075350
	クリーニングタブレット 100 個入り Coffeepure タブレット (ミルクを使用しない仕様)	065221
ドレン付き雫受け ¹		
1	ホースクランプ 29 が開いています	066794
1	スパイラルホース 20 PVC gr	074043
マシン脚部 ¹		
4	ネジ脚 M10x15 ゴム引き	060408
4	脚 40x40	100649
内部の飲料水タンク ¹		
1	交換カートリッジ 200	072617

個数	名称	製品番号
1	交換カートリッジ 200 用アダプター	33.2327.1000
1	クリーニングコンテナ 4 l ミルク スマート	069041
給排水管接続		
1	装甲ホース DN8X1500 ÜM3/8-ÜM3/4 90°	33.2292.1000
コーヒーかす入れ ¹		
1	ケーブルタイ 4.8x368 PA sw	33.2273.2000

1 オプション、機械の設計に応じて

2 商品の 1 つだけ

3 言語に依存する品番

4 取付けと試運転

4.1 輸送条件



注意

輸送時のけがの危険！

コーヒーマシンを不適切に輸送することで、負傷するおそれがあります。

▶ 地域の規制に従って、健康および安全に関する一般的規定に注意してください。



注記

不適切な輸送による物損！

コーヒーマシン移設時の不適切な輸送は、コーヒーマシンに損傷を与える可能性があります。
以下の点を厳守してください。

▶ コーヒーマシンの輸送にはキャスター付きの台を使用してください。コーヒーマシンをキャスター付き台に固定し、台を移動します。

- ▶ マシンの設置場所を変更する前には、必ず事前に飲料水の供給源と電源、そして廃水出口を外してください。
- ▶ また、設置場所を変更する前には、新たな設置場所に障害物や起伏がないかどうか点検してください。

4.2 パッケージ/開梱



注意

梱包材による切り傷や目のけが！



鋭利な梱包材は、けがの原因になります。ストラップを切る際、目のけがをする可能性があります。

▶ コーヒーマシンの開梱時は、手袋と保護メガネを着用してください。



4.2.1 コーヒーマシンの開梱

1. コーヒーマシンを開梱します。
2. 付属のアクセサリをアクセサリボックスから取り出します。
3. パッケージの残りに付属のアクセサリが含まれているか点検します。
4. 納入品目がすべて揃っていることを確認します。
"「製品の説明」 - 「納入品目およびアクセサリ」"の章もご参照ください。
5. 返品の可能性に備え、オリジナルのパッケージを保管します。

4.2.2 アクセサリの開梱

以下のアクセサリパーツが納入されます。

- 取扱説明書および適合宣言書の添付シート
- 洗浄剤 (マシン装備に応じて)
- コーヒーパウダー用スプーン (手動投入用)
- カス受け内部の清掃用ブラシ
- クリーニングブラシ (小)

4.3 設置

設置条件

コーヒーマシンの使用場所に対しては、以下の条件が適用されます。

- 設置面は、コーヒーマシンの重量で変形しないように、安定した水平および平坦な状態であることを確認してください。
- 高温の表面や熱源の近くに設置しないでください。
- 訓練を受けたスタッフによる監視が常に可能なよう、マシンを設置してください。
- 現地の設備図に従い、必要な電源供給口がコーヒーマシンの設置場所まで 1 m のところまで来るようにします。
- 現地における現行の調理場規則を守ってください。

メンテナンスおよび操作のためのスペースを確保してください:

- コーヒー豆またはパウダーを入れるため、上方向に十分なスペースを空けてください (20 cm が推奨されます)。
- コーヒーマシンの背面から壁までは、少なくとも 5 cm の間隔を空けてください (空気循環のため)。

気候条件

コーヒーマシンの使用場所に対しては、以下の気候条件が適用されます。

- 周辺温度が +10°C ~ +40°C
- 相対湿度が最高 80 % rF
- 本マシンは室内での使用のみを対象として設計されています。屋外や天候の影響 (雨、雪、霜) を受ける場所では絶対に使用しないでください。

4.4 コーヒーマシンの設置

コーヒーマシンは、現行の国内または現地の電気設備および衛生に関する法規定に従って取り付けてください。これには十分な逆流保護も含まれます。



取付け前には「設置」「および」「現地での電源接続」の章をよくお読みください！

以下の現場での接続が必要になります。

- 電源プラグのコンセント (230 V AC または 400 V AC) またはメインスイッチ付き固定ポート
 - 定格銘板には、必要な最大のヒューズについて記載されています。
 - 定格銘板には、絶対に必要な最小導体断面積について記載されています。
- 給排水管接続 3/8 インチまたは外部飲料水タンクへの接続
- Ø20 mm 径廃水ホース用のサイフォンまたは外部廃水タンク
- コーヒーメーカーと周辺機器間の通信用オプションインターフェース



マシン側のすべての接続は、納品時にすぐに使用できる状態になっています。

4.4.1 電源の接続

電気接続は必ず各国の規定に従って行ってください。定格銘板に記載された電圧と機器設置場所の電源電圧が一致するようにしてください。電源ソケットと電源スイッチは、設置場所のオペレーターが簡単にアクセスできる必要があります。

感電注意



危険

感電による生命の危険！

コーヒーマシンを接続する際は、感電による生命の危険があります！

- ▶ 必ず位相は定格銘板に記載された電流値に適合していることを確認してください！
- ▶ 本機のすべての極が主電源から切断できることを確認してください。
- ▶ 現場の電気システムは、IEC 364 (DIN VDE 0100) に従って設計されていることを確認してください。安全性を高めるために、公称残留電流が30 mAのFI回路ブレーカー (EN 61008) をデバイスの上流に接続する必要があります。(タイプBの残留電流回路ブレーカーは、滑らかなDC残留電流でも応答を保証します。これにより、高レベルの安全性が実現されます)。
- ▶ 電源ケーブルが損傷している機器は絶対に使用しないでください。損傷した電源ケーブルもしくはプラグは直ちにサービス技術者に依頼して交換してください。
- ▶ Schaefer AG社は延長ケーブルの使用を推奨していません！それでも延長ケーブル(最小断面積：1.5 mm²)を使用する場合には、ケーブルメーカーの資料(取扱説明書)および現地で提要される規定に従ってください。
- ▶ 電源ケーブルは人が踏かないように敷設してください。ケーブルは端や尖った角上に敷設したり、挟んだり、室内に吊り下げたりしないでください。また、ケーブルは高温の物体上に載せないようにし、油や攻撃性のある洗剤から保護してください。
- ▶ 電源ケーブルでデバイスを持ち上げたり引っ張ったりしないでください。電源ケーブルのプラグを決してコンセントから引き抜かないでください。ケーブルもしくはプラグには決して濡れた手で触らないでください！決して濡れたプラグをコンセントに差し込まないでください！

電源ケーブル



危険

故障した、または非純正の電源ケーブルの使用による生命の危険！

故障した、または非純正の電源ケーブルを使用した場合、感電および火災の危険があります！

- ▶ 必ず純正の電源ケーブルを使用してください。国別仕様の純正電源ケーブルはサービスパートナーを通して入手可能です。
- ▶ 両側着脱式の電源ケーブルは交換可能です。
- ▶ 固定接続された電源ケーブルは、サービス技術者に交換を依頼してください。

- ▶ コーヒーマシンを電源に接続します。



"「製品説明」 - 「技術データ」 - 「電気接続値」"の章もご参照ください。

4.4.2 給水部への接続

飲料水の接続には、以下のバリエーションが可能です：

- 給排水管接続
- 外部飲料水タンク
- 内部の飲料水タンク

廃水の接続には、以下のバリエーションが可能です：

- 標準の廃水出口
- 外部廃水タンク
- 閉じた状態の受受け (接続なし)

給排水管のバリエーション



注記

水質悪化による物的損害！

悪質な素材および不適切な水値によってコーヒーマシンに損傷がおよぶおそれがあります。

- ▶ 塩素含有量は、1 Lあたり50 mg以下のきれいな水を使用してください。
- ▶ コーヒーマシンを純粋な浸透水または他の侵略的な水に接続しないでください。
- ▶ 最小炭酸塩の硬度は 4 °dKHまたは 8 °fKHです。pH 値は 6.5 ~ 7 の間でなければなりません。
- ▶ 炭酸塩硬度の上限は 6 °dKHまたは 12 °fKHであり、合計硬度の値は常に炭酸塩の硬度よりも高くする必要があります。
- ▶ コーヒーマシンには常に新しい付属のホースセット (水/廃水ホース) を使用してください。



コーヒーマシンを新たに取り付けられた水の供給口に接続する場合、汚れがマシン内に入り込まないように供給口およびインレットホースをしっかりと濯いでください。

1. 水接続は、必ず現行の規定および各国の規定に従って確立してください。
2. コーヒーマシンは必ず遮断弁の付いた飲料水供給口に接続してください。取り付けられた圧力ホースおよびG 3/8 " ネジ接続を取り付け、給水栓に取り付けられた減圧装置を0.3 MPa (3 bar)に設定します。
3. 現場に給水止め弁を設置してください。



「水質の補足説明書」には、水値の捕捉説明並びにフィルター技術の使用に関する情報が記載されています。補足説明書は、Schaerer社にリクエストするか、MediaPoolのWebサイト (<http://www.schaerer.com/member>) から直接ダウンロードできます。

外部飲料水および廃水タンクのバリエーション



コーヒーマシンは、オプションで外部の飲料水タンクおよび廃水タンクを監視しながら稼動することができます。

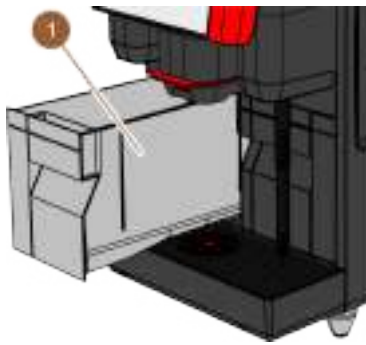
- ▶ コーヒーマシンの飲料水および廃水接続部は、直接水タンクに接続してください。

図: 外部飲料水および廃水タンク



変更手順「飲料水および廃水タンクモニターSKYE」には、外部の飲料水および廃水タンクのセットアップと接続に関する情報が含まれています。変更手順は、Schaerer AGにリクエストするか、MediaPoolのWebサイト (<http://www.schaerer.com/member>) から直接ダウンロードできます。

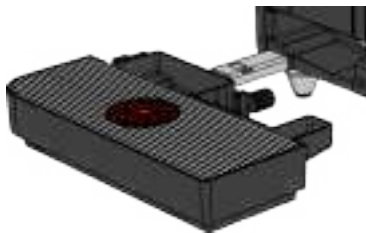
内部の飲料水タンクのバリエーション



内部の飲料水タンク (1) がコーヒーマーカーに内蔵されている場合は、飲料水の接続は必要ありません。

図: 内部の飲料水タンク

バリエーション：開口部のない掬受け



掬受けの排水口が閉じている場合は、廃水ホースを接続することはできません。掬受けはレベル監視されており、定期的に空にする必要があります。

図: 開口部のない掬受け

4.5 周辺機器を接続します

4.5.1 周辺機器を電源に接続する

すべての周辺機器には、電源接続（コンセント）230 V ACが必要です。電源接続230 V ACは、組立式のテスト済み接続ケーブルにより行われ、ケーブルは納入品に含まれています。

4.5.2 通信接続(CANバス)の確立

冷却ユニットを内蔵した周辺機器やフィードポンプを搭載した周辺機器は、すべてコーヒーマシンとの通信接続 (CANバス) が必要です。接続は常にシリアルで行われます。



"「製品説明」 - 「コーヒーマシンの接続とインターフェイス」"の章で通信接続の位置を確認します。

以下の接続バリエーションが可能です。

- コーヒーマシン (1) のCup & Cool 細長/幅広 (2) への接続
- コーヒーマシン (1) のCup & Cool 幅広 センターミルク (3) への接続



図: コーヒーマシンの周辺機器へのCANバス接続の概要

1. 6ピンDIN プラグの制御ケーブルを使用して、CAN接続を確立します。そのためには、制御ケーブルをコーヒーマシンの通信インターフェイスに接続します。
2. 制御ケーブルのもう一方の端を、任意の周辺機器に接続します。

4.5.3 ミルクシステムを接続します

周辺機器は、コーヒーマシンの左右に設置できるほか、カウンター下 (UC) にも設置できます。納入時には、アダプターを含むミルクホースはコーヒーマシン内のミルクモジュールに接続され、巻かれた状態になっています。

標準では冷却ユニット用のミルクホースは、一般的にコーヒーマシンから左側へ出ています。



図: 左サイドケーシングのカバー

ミルクホースを右側に付け替える

周辺機器をコーヒーマシンの右側に配置する場合は、ミルクホースを付け替える必要があります。

ミルクホースガイドの可能なバリエーションを記載した個別の変更指示書は、周辺機器に同梱されています。

1. ミルクホースの末端にあるアダプターが取り外されていることを確認してください。
2. コーヒーマシンの左サイドケーシングのカバー (2) を取り外します。ドライバーを使って、カバーの上部中央のスナップを上押しします。
3. コーヒーマシン内にあるミルクホースを伸ばします。
4. 左サイドケーシングの開口部にあるプラスチック片 (1) のうちの1つを予め穴をあけておいた該当する位置で折ります。
5. 貫通している穴にミルクホースを通します。
6. カバーの開口部にミルクホースを通します。
7. カバー (2) を左サイドケーシングに取り付けます。
8. ミルクホースを短くします。
✓ 個別冷却ユニットは、コーヒーマシンの左側に設置することもできます。



図: 右側サイドケーシングのカバー

1. ミルクホースの末端にあるアダプターが取り外されていることを確認してください。
 2. コーヒーメーカーの両方のサイドケーシングのカバー(2)を取り外します。ドライバーを使って、カバーの上部中央のスナップを上押しします。
 3. コーヒーマシン内にあるミルクホースを伸ばします。
 4. ミルクホースをコーヒーマシンの内側に通し、コーヒーマシンの右側から出します。
 5. 右側のサイドケーシングの開口部にあるプラスチックピース(1)の1つを、事前に穴あけした所定の箇所から取り出します。
 6. 貫通している穴にミルクホースを通します。
 7. カバーの開口部にミルクホースを通します。
 8. 両方のサイドケーシングのカバー(2)を取り付けます。
- ✓ 個別冷却ユニットは、コーヒーメーカーの右側に配置できます。

ミルクホースを周辺機器と接続する



図: ミルクコンテナ(例)

1. 通信接続を確立します。
 2. アダプター(1)をコーヒーメーカーのミルクホースに取り付けます。
 3. ミルクホース(1)のアダプターをレーザーパイプ(2)に接続します。
 4. レーザーパイプ(2)を冷却ユニットのミルクコンテナ(3)に取り付けます。
- ✓ ミルクホースは、冷却ユニットのミルクコンテナに差し込まれています。コーヒーマシンと冷却ユニットは相互に接続されています。

4.6 ディスプレイガイド付きコミッショニング



初めてスイッチを入れた場合、試運転プログラムが自動的にスタートします。ここで取付けに関するすべての項目が説明されています。サービス技術者は、いつでも手動で試運転プログラムをトリガーできます。



コーヒーマシンのスイッチオンに関する説明は、「操作」 - "「スイッチオン」"の章を参照してください。

5 操作

5.1 オペレーターモード

コーヒーマシンのユーザーインターフェイスは、サービス技術者が以下のモードのいずれかに設定することができます。

- ゲストモード
- レギュラーユーザーモード
- パーソナルモード

ゲストモード

ゲストモードは、機能範囲が最も小さい動作モードです。軽微な調整であれば、サービス技術者が行うことができます。

ゲストモードでは、飲料の事前選択 (2カップ、カフェインフリーコーヒー、バリスタ) はできません。サイドバーとタブは使用できません。

飲料注出のメニューガイドは順次行われます。

レギュラーユーザーモード

レギュラーユーザーモードは、機能範囲が中程度の動作モードです。軽微な調整であれば、サービス技術者が行うことができます。

レギュラーユーザーモードでは、飲料の事前選択 (2カップ、カフェインフリーコーヒー、バリスタ) はできません。サイドバーとタブは使用できません。

飲料の変更は、「飲料の注出」ページにすべて表示され、実行されます。

パーソナルモード

パーソナルモードは、機能範囲が最も大きい動作モードです。軽微な調整であれば、サービス技術者が行うことができます。

パーソナルモードでは、飲料の事前選択 (2カップ、カフェインフリーコーヒー、バリスタ) ができます。「グループ選択」ページはなく、代わりにタブにグループが表示されます。サイドバーとタブが使用できます。

飲料の変更は、「飲料の注出」ページにすべて表示され、実行されます。事前に設定した飲料には、オートスタートを有効にすることができます。

5.2 ユーザーインターフェイス

5.2.1 「グループ選択」ページ

飲み物をグループ分けして、グループから選択することができます。

前提条件：動作モードでは、「グループ選択の表示」機能が有効です。

▶ グループを1つタップします。

✓ 選択されたグループ (メニューカード) が飲料とともに表示されます。

メニューカードおよびタブにはサービス技術者が任意の名前をつけて任意に配置することが可能です。



図: 飲料グループの選択

番号	機能	説明
1	[サービスメニュー]フィールド	サービスメニューが開きます。 "「操作」 - 「サービスメニュー」"の章をご参照ください。
2	飲料グループ	飲料はグループ分けが可能です。スタートページに飲料グループが表示されます。 「お茶/スチーム」グループの飲料ボタンから、異なる温度のお湯を出すことができます。コーヒーマシンで既成のお茶を入れることはできません。
3	タブ/スクロール	タブをスクロールして、すべての飲料を表示。すべてのタブをスクロール (メニューカード) : - ボタン [←] : 左へスクロール - ボタン [→] : 右へスクロール 点の数は、利用可能なメニューカードの数を示しています メニューカードおよびタブにはサービス技術者が任意の名前をつけて任意に配置することが可能です。

5.2.2 「飲料選択」ページ



図: 飲料の選択

番号	機能	説明
1	[サービスメニュー]フィールド	サービスメニューが開きます。 "「操作」 - 「サービスメニュー」"の章をご参照ください。
2	飲料	飲料は、次のようなマークで表示されます。 • グラス (デフォルト) • カップ 各飲み物ボタンには個別に1つの飲料を登録することができます。飲料ボタンは、対応する飲料注出や、追加の原料や飲料オプションの事前選択を開始します。 飲料ボタンにはサービス技術者が任意の名前をつけて任意に配置することが可能です。 飲料ボタン「お茶」からお湯が出ます。コーヒーマシンで既成のお茶を入れることはできません。
3	タブ/スクロール	タブをスクロールして、すべての飲料を表示。すべてのタブをスクロール (メニューカード) : • ボタン [<] : 左へスクロール • ボタン [>] : 右へスクロール 点の数は、利用可能なメニューカードの数を示しています メニューカードおよびタブにはサービス技術者が任意の名前をつけて任意に配置することが可能です。

5.2.3 タブおよびサイドバー



図: タブおよびサイドバー

番号	機能	説明
1	タブ	設定されているユーザーモードに応じて、「飲料選択」ページには横長のタブが表示され、飲料グループの切り替えができます。以下の数量のタブおよび飲料が利用可能です： • 10個のタブ (グループ) • 各タブ24個の飲料 (グループ) • 240個の飲料 メニューカードおよびタブにはサービス技術者が任意の名前をつけて任意に配置することが可能です。
2	[サービスメニュー]フィールド サイドバー	サービスメニューが開きます。 "「操作」 - 「サービスメニュー」"の章をご参照ください。 設定されているユーザーモードに応じて、「飲料選択」ページにはサイドバーが表示され、事前選択ができます。 事前選択は、サービス技術者が飲料設定で設定できます。
3	[2カップの事前選択] ボタン	飲料をフィルタリングし、2カップの注出が可能な飲料のみを表示します。
4	[カフェインフリーコーヒーの事前選択] ボタン	飲料をフィルタリングし、カフェインフリーコーヒーで作れる飲料のみを表示します。
5	[バリスタの事前選択] ボタン	飲料をフィルタリングし、現在選択されている濃さに相当する、または現在選択されている濃さで作れる飲料のみを表示します。 飲料の注出後、[バリスタの事前選択] ボタンは標準設定の「中」に戻ります。

5.2.4 「飲料注出」ページ



図: 飲料オプションの選択

番号	機能	説明
1	飲料原料の一覧	選択された飲料または含まれる飲料原料に関する情報。
2	サイズ選択	希望のカップサイズを選択可能です。 このオプションは、サービス技術者が飲料にこれを設定した場合にのみ使用できます。
画像は省略	豆の選択	希望のコーヒーのタイプは、豆の選択によって調整できます。このオプションは、サービス技術者が飲料にこれを設定した場合にのみ使用できます。さらに、コーヒーマシンに第2のグライNDERが装備されている必要があります。
3	濃さ	コーヒーの希望の濃さを選択可能です。このオプションは、サービス技術者が飲料にこれを設定した場合にのみ使用できます。
4	[戻る]フィールド	前のページに戻ります。
画像は省略	[次へ]フィールド	次のページに進みます。
5	5 [開始]フィールド	飲料の事前選択中に表示され、飲料の注出を開始します。
6	[閉じる/キャンセル]フィールド	飲料オプションの選択中に表示され、飲料選択のユーザーインターフェイスに戻ります。 現在選択されている飲料、および事前選択されている飲料オプションをこれによってキャンセルすることができます。

飲料特性の選択

一部の飲料では、特定のパラメータを独自に選択できます。



このオプションは、サービス技術者が設定を行った飲料でのみ使用できます。

以下の設定が可能(最大)：

- 飲料サイズ (S、M、L)
- コーヒーの種類(2基のグラインダー)
- 濃さ
- チョコレート (パウダーシステムの場合)

飲料の順次変更

飲料の順次変更により、飲料オプションが順次選択され、それぞれ別のページに表示されます。

「飲み物の順次変更」機能がない場合は、飲料オプションは1つのページのみで選択されます。

5.3 サービスメニュー

5.3.1 [サービスメニュー]フィールド

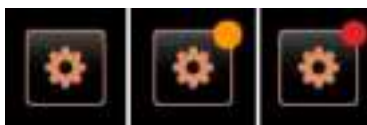


図: [サービスメニュー]フィールド

サービスメニューは、[サービスメニュー] フィールドから開きます。

ユーザーインターフェイスの [サービスメニュー] フィールドには、保留中の情報やエラーメッセージに関する情報が表示されます。

- カラーコードなし: サービスメニューにメッセージはありません。
- オレンジ: 情報はサービスメニューで入手できます。
- 赤: サービスメニューにエラーメッセージまたはアクション要求があります。

5.3.2 概要

サービスメニューは、[サービスメニュー] フィールドからアクセスできます。



コーヒーマシンの再起動中に、ハードウェアまたはシステムエラーが検出された場合、ただちにサービスメニューに表示されます。



図: サービスメニュー

番号	機能	説明
1	ステータス表示	日付、時刻、現在ログインしているユーザーが表示されます。
2	[ログイン/ログアウト] フィールド	ログインしているユーザーがログアウトするか、「ログイン」ページが開きます。ここで、登録するプロフィールを選択することができます。
3	[設定] ボタン	「マシン構成」ページが開きます。
4	[飲料注出の過程] ボタン	注出履歴が表示され、注出された飲み物が一覧表示されます。
5	[システム情報]フィールド	QRコード (クイックレスポンスコード) を含むシステム情報が表示されます。
6	[戻る]フィールド	ユーザーインターフェイスに戻ります。
7	[クリーニング]フィールド	クリーニング状態が表示されます。フィールド  は「クリーニング」のページにつながり、スケジュールされたクリーニングまたは追加のクリーニングを開始することができます。
8	[メンテナンス間隔]フィールド	保留中のメンテナンスが表示されます。フィールド  は「メンテナンス間隔」ページにつながり、すべてのメンテナンスの概要が表示されます。そこから、さまざまなタイプのメンテナンスを開始できます。
9	[原料管理]フィールド	[原料管理]ページが開きます。
10	領域 エラーメッセージ	保留中エラーメッセージおよびアクション要求が表示されます。
11 – 14	直接選択フィールドエリア	
11	[すすぎの開始] フィールド	すすぎが開始されます。
12	[タッチスクリーンのクリーニング] フィールド	タッチスクリーンは、クリーニングできるように30秒間ロックされます。

番号	機能	説明
13	[クイック情報 オン/オフにする] フィールド	クイック情報はオンまたはオフにします。
14	[スイッチを切る] フィールド	コーヒーマシンの電源がオフになっています。

5.3.3 ログイン ログアウト



サービスメニューを閉じると、現在ログインしているプロフィールが保持されます。ログインプロフィールは、[ログアウト]フィールドがアクティブ化された後、または再起動後にログアウト (Log-out) されます。



図: [ログイン]フィールド

[ログイン]フィールドは、[プロフィール]ウィンドウを呼び出します。ユーザーがログイン状態になると、このフィールドは[ログアウト]フィールドに変わります。



図: [プロフィール]ウィンドウ

[プロフィール]ウィンドウでは、すべての利用可能なプロフィールが表示されます。(サービス技術者は選択内容を変更できます。)

ロックが付いているプロフィールは、PINで保護されています。

次のプロフィールは、サービス技術者が利用できるようにすることができます。

- サービス技術者
- 管理担当者
- 設備管理人
- 品質管理マネージャー
- マシン担当者



図: [ログアウト]フィールド

[ログアウト]フィールドは、ログインしているユーザーをログアウトします。

ユーザーがログアウトすると、このフィールドは[ログイン]フィールドに変わります。

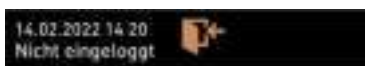


図: 「ログインしていません」表示

場合によっては、それまでの権限が無効になり、サービスメニューに「ログインしていません」と表示されます。

5.3.4 設定



図: [設定] ボタン

[設定] ボタン (1) は、「設定」ページを呼び出します。

コーヒーマシンのパラメータをそこで設定することができます。

詳細な説明については、「プログラミング」の章を参照してください。



この機能はPINで保護されています。

5.3.5 飲み物注出の過程



図: [飲料注出の過程] ボタン

[飲料注出の過程] (1) ボタンはウィンドウを呼び出し、すでに注出されているすべての飲料がリストに表示されます。

各注出に対して、注出の所要時間および流下の正味時間 (コーヒー) が表示されます。

飲料の流下時間：

- 1カップ：10～15秒
- 2カップ：20～25秒



流下時間の記載値は目安です。この値は、粉碎量、粉碎度、水温、コーヒーの種類などの要因によって異なる場合があります。

5.3.6 システム情報



図: [システム情報]フィールド

[システム情報]フィールド(1)は、システム情報を個別のウィンドウに呼び出します。システム情報のためのQRコードが表示されます。

5.3.7 戻る



図: [戻る]フィールド

[戻る]フィールド(1)を使用すると、ユーザーインターフェイスに戻ります。その際、ログインしているプロフィールはログアウトされます。

5.3.8 クリーニング



図: [クリーニング]フィールド

[クリーニング]フィールドは、コーヒーマシンのクリーニング状態をスマイルマークで表示します。

- 緑のスマイルマーク：コーヒーマシンには、クリーニングが不要です。
- 赤のスマイルマーク：コーヒーマシンは、クリーニングが必要です。



この機能は、PINで保護されています(管理担当者、マシン担当者、サービス技術者)。

5.3.9 メンテナンス間隔



図: [メンテナンス間隔]フィールド

[メンテナンス間隔]フィールドは、コーヒーマシンのメンテナンス状態をスマイルマークで表示します。

- 緑のスマイルマーク：コーヒーマシンのメンテナンスは不要です。
- 赤のスマイルマーク：コーヒーマシンのメンテナンスが必要です。



この機能は、PINで保護されています(管理担当者、マシン担当者、サービス技術者)。

5.3.10 原料管理



図: [原料管理]フィールド



図: 「原料管理」ページ

[原料管理]フィールドは、原料管理を呼び出します。原料管理では、ミルクシステムなどの利用可能な原料を有効化/無効化できます。

原料の有効化および無効化

1. [原料管理]フィールドをタップします。
✓ [原料管理]ページが開きます。
2. 希望する原料の行の「操作」で[オン/オフ]フィールドをタップします。
✓ 原料は有効化または無効化されます。



フィールドをタップして、サービスメニューに移動します。

5.3.11 領域 エラーメッセージ

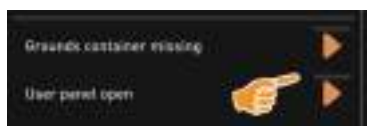


図: 領域 エラーメッセージ

エラーメッセージの領域では、保留中のコーヒーマシンのエラーが報告されます。ボタンから直接トラブルシューティングを開始することができます。

サービス技術者は、メインメニューの"「情報」 - 「エラーの統計」"でエラーメッセージの概要にアクセスすることができます。

5.3.12 領域 直接選択



図: 領域 直接選択

[すすぎの開始]フィールド(1)では、コーヒーマシンのすすぎを開始します。"「清掃」 - 「すすぎ間隔」"の章をご参照ください。

[タッチスクリーンの清掃]フィールド(2)は、タッチスクリーンを30秒間ロックします。

この間、タッチスクリーンは反応しないため、掃除を行うことができます。

[クイック情報のオン/オフ]フィールド(3)は、ユーザーインターフェイスの「クイック情報」ウィンドウのオン/オフを切り替えます。

「クイック情報」ウィンドウは、オンになっていれば、左上に表示されます。

[オフにする]フィールド(4)は、コーヒーマシンをオフにします。このフィールドは、コーヒーマシン(コントロールパネルの後ろ)のオン/オフスイッチの代わりに使用できます。

コーヒーマシンはシャットダウンし、ディスプレイは無効になります。コーヒーマシンは、無電流状態ではありません。

5.3.13 クイック情報



図: 「クイック情報」表示

「クイック情報」表示には、ボイラー温度、ホットコーヒー(C)、ホットティー(T)、およびメモリの使用状況(M)に関する情報が表示されます。



図: 「クイック情報」画面

- 「T」は、お茶用の熱湯温度を示します。
- 「S」は、スチーム温度を示します。
- 「SW」は、廃水の温度を示します。
- 「M」は、使用中のメモリに関する情報を提供します。

「クイック情報」ウィンドウには、ライブテレメトリーによる接続確認といった、現在のステータスメッセージが表示する追加のテキストウィンドウが含まれています。

5.4 スイッチを入れる前の点検



注記

給水ラインが閉じていることによる部的損害！

ウォーターポンプの空運転により、コーヒーマシンに損傷がおよぶおそれがあります。

- ▶ コーヒーマシンのスイッチを入れる前には、必ず給水のメイン水バルブ (給水栓) が開いていることを確認してください。

- ▶ 給排水管を接続している場合：メイン水バルブが開いていることを確認してください。
- ▶ 内部または外部飲料水タンクの場合：タンクが新鮮な水で充填されてことを確認します。
- ▶ 標準の廃水出口の場合：廃水ホースが正しく取り付けられていることを確認します。
- ▶ 外部廃水タンクの場合：廃水タンクが正しく接続されていることを確認します。
- ▶ コーヒー豆ホッパーおよびパウダーホッパーが充填されていることを確認してください。
- ▶ カス受けが空であり、正しく取り付けられていることを確認します。
- ▶ コーヒーマシンが国や地域の安全規制に従って、現場の電源に正しく接続されていることを確認します。

5.5 コントロールパネルを開き、そして閉じる



注意

コントロールパネルの落下により押しつぶされる危険！

コントロールパネルが自重で落下する可能性があります。

- ▶ コントロールパネルをしっかりと持ち、コントロールしながらカチッとはまるまで上または下へスライドさせます。

5.5.1 コントロールパネルを開く



コントロールパネルのロックを解除すると、パウダーホッパーのロックも解除されます。



図: コントロールパネルを開く

1. ロック装置をキーで開けます (1)。
 - ✓ ロックは水平位置で開いています。
2. コントロールパネルを強く引いてロックを解除します。
 - ✓ コントロールパネルは解除されています。
3. コントロールパネルを両手で下からストッパーに当たるまで上へ押し上げます。
 - ✓ コントロールパネルは上の位置で自動的に保持されます。
 - ✓ コントロールパネルの裏側にあるすべての操作エレメントにアクセスできます。

5.5.2 コントロールパネルを閉じます



コントロールパネルのロック装置は、コーヒー豆ホッパーおよびパウダーホッパーのロックが閉まっているときのみ閉じることができます。



図: コントロールパネルを閉じます

1. 開いているコントロールパネルを両手でストッパーに当たるまで下へ動かします。
2. コントロールパネルの上端を軽く押し込みます。
✓ コントロールパネルは閉じています。
3. コーヒー豆ホッパーおよびパウダーホッパーのロックが閉まっていることを確認してください。
4. ロック装置をキーで閉めます (1)。
✓ ロックは垂直位置で閉まっています。
✓ コントロールパネルはロックされています。

5.6 スイッチを入れます

5.6.1 コーヒーマシンのスイッチを入れる



注意

汚染された牛乳から感染する危険性！

ミルクポンプの不純物は健康上の問題につながる可能性があります。

- ▶ 設置、試運転、または再試運転の後、必ずクリーニングを行ってください。
- ▶ 最初の飲料が注出される前に、ディスプレイガイド付きクリーニングプログラムを実行します。



"「クリーニング」 - 「毎日のコーヒーマシンのクリーニング」 - 「ディスプレイガイド付きクリーニングプログラム」"の章をご参照ください。



コーヒーマシンの電源を初めてオンにした場合、ディスプレイに基づくマシン設定の設定とハードウェアの校正が自動的に実行されます。

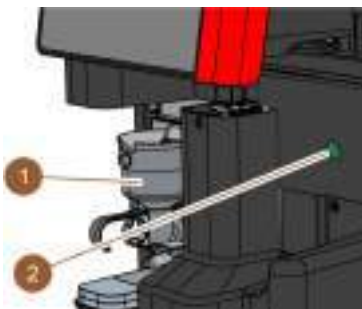


図: コーヒーマシンのオン/オフスイッチ

1. コーヒーマシンの主電源接続を確認してください。
2. コントロールパネルを開きます。
"「操作」 - 「コントロールパネル」 - 「コントロールパネルを開く」"の章をご参照ください。
3. コーヒーマシンのオン/オフスイッチ (2) を短く押します。
✓ コーヒーマシンがスタートします。
✓ タッチスクリーンにユーザーインターフェースが表示され、加熱が始まります。
必要な温度に達すると、コーヒーマシンの作動準備が完了します。
4. コントロールパネルを閉じます。
"「操作」 - 「コントロールパネル」 - 「コントロールパネルを閉じる」"の章をご参照ください。

5.6.2 個別冷却ユニットのスイッチを入れる



図: 個別冷却ユニットのスイッチを入れ設定する

1. ドアを開きます。
2. トグルスイッチ (4) を「I」の位置に切り替えます。
3. ボタン (1) を3秒間押したままにします。
 - ✓ 冷却ユニットはオンになっています。
 - ✓ 現在の室温がディスプレイに表示されます。

バリエーション: スタンバイモード

1. ボタン (1) を3秒間押したままにします。
 - ✓ 冷却ユニットがスタンバイモードに切り替わります。

バリエーション: 温度設定

1. ボタン (2) を3秒間押したままにします。
2. 温度設定を 3~5 °C 高く (ボタン (1) を使用) または低く設定します (ボタン (3) を使用)。
3. 設定をボタン (2) で確定します。
 - ✓ 冷却ユニットが動作モードに切り替わります。
 - ✓ 現在の室温がディスプレイに表示されます。



この周辺機器については、別添の説明書「SKYE 周辺機器」の詳細情報もご参照ください。

5.6.3 カウンター下冷却ユニットのスイッチを入れます



図: カウンター下冷却ユニットのスイッチを入れ設定する

1. ドアを開きます。
2. トグルスイッチ (1) を「I」の位置に切り替えます。
3. サーモスタットを裏側の中央位置 (2) に合わせます。
 - ✓ カウンター下冷却ユニットはオンになっています。



この周辺機器については、別添の説明書「SKYE 周辺機器」の詳細情報もご参照ください。

5.6.4 Cup & Cool カップウォーマーのスイッチを入れる

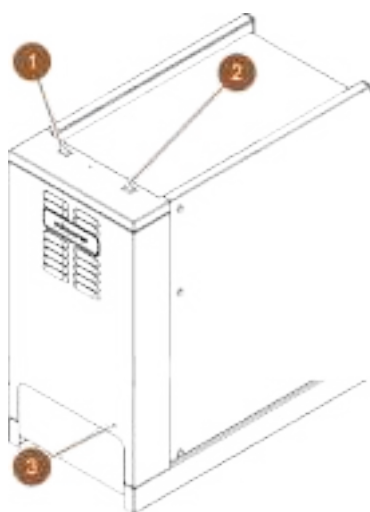


注意

高温の表面による発火の危険！

カップヒータートレイは高温になるため、やけどにつながるおそれがあります。

- ▶ カップヒータートレイを掃除する際は、マシンをオフにし、表面の温度が下がるまでお待ちください。



1. トグルスイッチ (1) を「I」の位置に切り替えます。
2. 必要に応じて背面 (3) のサーモスタットを調整します。
✓ 冷却ユニットはオンになっています。
3. トグルスイッチ (2) を「I」の位置に切り替えます。
✓ カップヒータートレイはオンになっています。

図: Cup & Coolのスイッチを入れ設定する



この周辺機器については、別添の説明書「SKYE 周辺機器」の詳細情報もご参照ください。

5.7 充填と接続



補充時は、内容物がコンテナのフタに触れないように最大充填量を選んでください。

5.7.1 コーヒー豆ホッパーの充填



注意

回転する粉砕ディスクによって怪我をするおそれがあります！

グラインダー内で粉砕ディスクが回転するため、切り傷の危険性があります。

▶ 絶対にマシンのスイッチが入った状態でコーヒー豆ホッパーに手を入れないでください。



注記

目詰まり/ブロックによる物的損傷！

異物が入り込むことで、グラインダーの目詰まりやブロックが生じ、グラインダー装置の破損につながるおそれがあります。

▶ コーヒー豆ホッパーには絶対にコーヒー豆以外の物を入れないでください。



補充時は、内容物がコンテナのフタに触れないように最大充填量を選んでください。



図: 最大充填量のコーヒー豆ホッパー

1. コーヒー豆ホッパーのロック付きバリエーション：コーヒー豆ホッパーのロックをキーで開けます。
2. コーヒー豆ホッパーの蓋を取り外します。
3. コーヒー豆ホッパーを充填します。

注記 最大充填量に注意してください。

4. コーヒー豆ホッパーの蓋を閉めます。
5. コーヒー豆ホッパーのロック付きバリエーション：コーヒー豆ホッパーのロックをキーで閉めます。
✓ コーヒー豆ホッパーは、充填され、ロックされています。

5.7.2 水を補充する



図: 外部飲料水タンク

バリエーション：外部飲料水タンク

1. 外部飲料水タンクの蓋のネジを外します。
2. 外部飲料水タンクと蓋がきれいであることを確認してください。
3. 外部飲料水タンクに新鮮な飲料水を入れてください。最大充填量に注意してください。
4. 外部飲料水タンクの蓋を閉めます。



図: 内部の飲料水タンク

バリエーション：内部の飲料水タンク

1. コーヒーマシンから内部の飲料水タンク (1) を取り外します。
2. 内部の飲料水タンクがきれいであることを確認してください。
3. 内部の飲料水タンクに新鮮な飲料水を入れてください。最大充填量に注意してください。
4. 内部の飲料水タンクを取り付けます。
5. コーヒーマシン前面のフラップを閉じます。

5.7.3 パウダーホッパーの充填



警告

回転するスクリュードライブによる挟み込みの危険！

パウダーケース内のスクリュードライブが回転します。手を伸ばすと挟み込みの危険があります。
▶ 絶対に装置のスイッチが入った状態でパウダーケースに手を入れないでください。



注記

目詰まりによる物的損傷！

許可されていないパウダーの投入により、目詰まりを起こすおそれがあります。
▶ 絶対にマシン用パウダー以外の物はパウダーケースに入れないでください。



補充時は、内容物がコンテナのフタに触れないように最大充填量を選んでください。



図: 最大充填量付きのパウダーホッパー

1. パウダーホッパーのロック付きバージョン：パウダーホッパーのロックをキーで開きます。
2. パウダーホッパーのフタを取り外します。
3. パウダーホッパーにチョコレートパウダーまたはトッピングパウダーを充填します。

注記 最大充填量に注意してください。

4. パウダーホッパーのフタで閉じます。
5. パウダーホッパーのロック付きバージョン：パウダーホッパーのロックをキーでロックします。
✓ パウダーホッパーは、充填され、ロックされています。

5.7.4 ミルクシステムを充填します



注意

汚染された牛乳から感染する危険性！

ミルクポンプの不純物は健康上の問題につながる可能性があります。

- ▶ 設置、試運転、または再試運転の後、必ずクリーニングを行ってください。
- ▶ 最初の飲料が注出される前に、ディスプレイガイド付きクリーニングプログラムを実行します。

個別冷却ユニット



図: 冷却ユニットの補充

1. 冷却ユニットのドアを開きます。
2. ミルクコンテナのフタからミルクホースのアダプタを取り外します。
3. ミルクコンテナを引き出し、フタを取り外します。
4. ミルクコンテナ、ライザーパイプ、フタを新鮮な水ですすいでください。
5. ミルクコンテナにミルクを充填します。10 Lの最大充填量に注意してください。
6. フタ付きミルクコンテナを閉じて、冷却ユニットに戻します。
7. ミルクホースのアダプタをミルクコンテナのフタに挿入します。
8. 冷却ユニットのドアを閉じます。

Cup & Cool、カウンター下冷却ユニット



注記

温かすぎるミルクによる物損！

Cup & Cool の冷却ユニットは、温かいミルクを冷却することはできません。

- ▶ ミルクを補充する際は、必ず3~5 °Cに予冷したミルクを使用してください。



図: ミルクを補充します(左: Cup & Cool、右: カウンター下冷却ユニット)

1. 冷却ユニットのドアを開きます。
2. ミルクコンテナのフタからミルクホース(1)のアダプタを取り外します。
3. ミルクコンテナ(2)を引き出し、フタを取り外します。
4. ミルクコンテナ、フタ、およびライザーパイプを水道水ですすぎます。
5. ミルクコンテナにミルクを充填します。最大充填量に注意してください。
▶ Cup & Cool = 最大 4 l
▶ カウンター下冷却ユニット = 最大 9.5 l
6. フタ付きミルクコンテナを閉じて、冷却ユニットに戻します。
7. ミルクホースのアダプタをミルクコンテナのフタに挿入します。
8. 冷却ユニットのドアを閉じます。

5.8 飲み物の選択

飲料選択の制限

外部飲料水タンクを備えたコーヒーマシンは飲料の選択に制限があります。外部飲料水タンクでは冷たい飲料をご利用いただけません！

パウダードリンクは、設定温度に関係なく、外部飲料水タンクを用いて常に熱い状態で提供されます。

非アクティブ後の飲料選択のキャンセル



飲料選択は、5 ~ 40秒間操作がないと自動的にキャンセルできます。別の飲料選択のユーザーインターフェイスが表示されます。期間は、サービス技術者が「構成」 - 「動作モード」 - 「タイムアウト選択のリセット」の設定で調整できます。

5.8.1 飲料の選択



図: グループを選択する

オプション: グループを選択する

サービスメニューでグループ選択が有効になっている場合、飲料が表示されるメニューカードにアクセスするためには、まずグループを選択する必要があります。

- ▶ 希望する飲料グループをタップします。
 - ✓ 選択された飲料グループの飲料ボタンがあるメニューカードが表示されます。

パーソナルモードでは、タブで各グループに切り替えることができます (サービスメニューでグループ選択が有効になっている場合)。



図: 事前選択を行う

オプション: 飲料オプションの事前選択

前提条件: コーヒーマシンは作動可能です。

サイドバーでの飲料オプションの事前選択は、パーソナルモードでのみ可能です。

- ▶ [事前選択 2カップ] (2)、[事前選択 カフェインフリーコーヒー] (3) または [事前選択 バリスタ] (4) ボタンをタップします。
 - ✓ 事前選択と一致しない飲料は、グレーで表示され、無効となります。



図: 飲料の選択

メニューカードへのナビゲート

- ▶ [<- / ->] (2) ボタンでメニューカードをスクロールし、目的の飲料ボタンが表示されるまでスクロールします。
 - ✓ 希望する飲料ボタンがあるメニューカードが表示されます。

飲み物を選択する

- ▶ 希望する飲料 (1) をタップします。
 - ✓ 選択した飲料が変更可能な場合 (3)、「飲料の変更」ページが開きます。
 - ✓ 選択した飲料が変更できない場合 (4)、「飲料の注出」ページが表示されます。

5.8.2 飲料の変更 (オプション)



図: 飲料の変更

オプション: 飲料の変更

前提条件: 事前に選択した飲料ボタンにはマーク  が付きます。

- ▶ 希望する変更 (2) をタップします。
 - ✓ 選択された変更が有効になります。
 - ✓ 含まれている変更は上部 (1) に表示されます。



図: 飲料の数量を選択する

オプション: 数回注出

すでに選択されている飲料は数回注出することができます。

前提条件: 数回注出は動作モードで有効になります。

- ▶ 数回注出は [<] [>] (1、2) ボタンで設定します。
 - ✓ 飲料注出は最大9回繰り返します。

5.8.3 飲料の注出



図: 選択を確認します

選択を確認します

前提条件: 飲料が変更され、注出の準備ができています。

- ▶ [開始] ボタン (1) をタップします。
 - ✓ 「カップを置いて「スタート」を押してください」というプロンプトが表示されます。



図: カップを置きます

飲料注出口を配置する

- ▶ エスプレッソなど用の低い位置: 飲料注出口をコーヒーカップまたはマグカップまで動かします。
- ▶ ラテ マキアートなど用の高い位置: 飲料注出口を完全に押し上げます。
- ▶ 飲料注出口をコーヒーカップまたはマグカップまで動かします。

カップを置きます

前提条件:

「マグカップ配置」機能は動作モードで有効になります。

「マグカップ配置」のアニメーションがユーザーインターフェイスに表示されます。

- ▶ 飲料注出口の下にマグカップを置きます。

注出を開始します

- ▶ [開始] ボタン (1) をタップします。
 - ✓ 飲料の注出が開始します。



図: コーヒー粉を入れます

オプション: 手動投入によるコーヒー飲料

前提条件: コーヒー粉を投入するよう求めるプロンプトが表示されます。

1. 手動投入口の蓋 (2) を開けます。
2. 計量スプーン (1、納入品目を参照) で1杯分のコーヒー粉を手動投入口に入れます。
3. コーヒー粉の投入をユーザーインターフェイスにある [OK] (3) ボタンで確定します。
✓ 飲料の注出が開始します。



図: 進捗状況を表示します

進捗状況を表示します

- ✓ 進捗状況 (1) は、半円に緑色のバーで表示されます。

進捗状況の表示は動作モードで有効にできます。



図: 最初からやり直します

完了メッセージ

前提条件:

「飲料完了表示」機能は動作モードで有効になります。

飲料の注出が完了しました。

- ▶ メッセージを [再スタート] (1) ボタンで閉じます。

メッセージは一定時間後に自動的に消えます。

- ✓ 「飲料の選択」ページが表示されます。

- ▶ マグカップを雫受けから取り出します。

5.9 空にする

5.9.1 カス受けを空にする



標準カス受け: 標準カス受けには、約60~70のコーヒーかすのかたまりが入ります。数に達すると、ユーザーインターフェイスはカス受けを空にするように要求します。

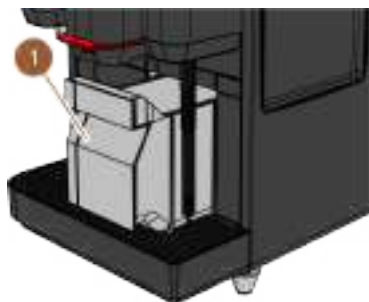


注記

溢れることによる物的損害 (カウンター下用カス受け) !

カウンター下用かす受けはモニタリングされていません。溢れる危険があります。空にする間、カウンター下用カス受けがなくても飲料の選択はできます。

- ▶ マシンの使用頻度に応じてカス受けを点検してください。
- ▶ カウンター下用カス受けを空にしている間は、飲料の注出はできないようにしてください。



1. 飲料注出口をストッパーに当たるまで押し上げます。
 - ▶ 標準カス受け：カス受け (1) をコーヒーマシンから前方へ引き出します。
 - ▶ カウンター下用カス受け：カス受けをコーヒーマシンから半分ほど引き出します。
- ✓ 誤って飲料が注出されるのを防ぎます。
- ✓ 「カス受けが取り外されました」というメッセージがディスプレイに表示されます。
2. カス受けを空にして清掃します。
3. カス受けを乾かし、コーヒーマシンに押し戻します。
 - ✓ コーヒーマシンは作動可能です。

5.9.2 外部廃水タンクを空にする

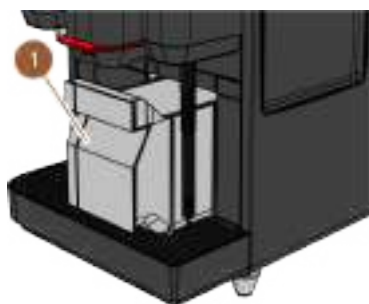


図: カス受けを前方へ引き出します

廃水タンクを取り外す前に、飲料の注出ができないことを確認してください。

1. 飲料注出口をストッパーに当たるまで押し上げます。
2. カス受け (1) をコーヒーマシンから前方へ引き出し、空にします。
 - ✓ 「カス受けが取り外されました」というメッセージがディスプレイに表示されます。
3. 廃水ホースの付いた蓋を外部廃水タンクから取り外します。
4. 廃水タンクを空にします。
5. 廃水タンクを家庭用洗剤で丁寧に洗浄し、清潔な水で洗い流します。
6. レベル監視のフロートが機能しているか確認してください。
7. 廃水ホースの付いた蓋を廃水タンクに再度挿入します。
8. カス受けをコーヒーマシンに取り付けます。
 - ✓ コーヒーマシンは飲料の注出準備ができています。



図: 外部廃水タンク

5.10 スイッチを切る

5.10.1 コーヒーマシンのスタンバイモードへの切り替え



危険

感電による生命の危険！



スタンバイモードでは、コーヒーマシンにはまだ電源が入っています。

- ▶ コーヒーマシンのケーシングを取り外さないでください。
- ▶ 修理を行う前に、必ず主電源からコーヒーマシンを外してください。



推奨：毎日営業終了後にはメイン水バルブを閉めます。



図: 領域 直接選択

電源を切る前のクリーニング

1. サービスメニューで、[すすぎ開始] (1) のボタンをタッチします (まだ行っていない場合)。
 - ✓ クリーニングが実行されます。
2. クリーニングプログラムのコーヒーマシンの電源を切ります。
3. 必要であれば、さらにクリーニングを行います。

詳細については、「「クリーニング」」の章をご参照ください。
4. オプション: 飲料水タンクを空にし、クリーニングします。

タッチスクリーンでのスイッチオフ

- ▶ サービスメニューの [スイッチオフ] (4) ボタンをタッチします。
 - ✓ コーヒーマシンの電源がオフになっています。
 - ✓ ディスプレイは表示されません。
 - ✓ コーヒーマシンはスタンバイモードです。

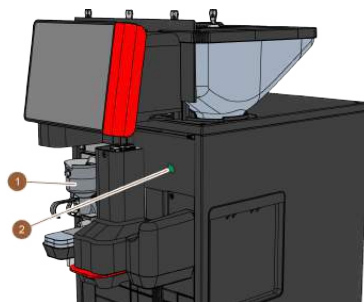


図: コーヒーマシンのオン/オフスイッチ

コーヒーマシンのオン/オフスイッチでのスイッチオフ

1. コントロールパネルを開きます。

「「操作」 - 「コントロールパネルを開く」」の章をご参照ください。
2. コーヒーマシンのオン/オフスイッチ (2) を4秒間押します。
 - ✓ コーヒーマシンの電源がオフになっています。
 - ✓ ディスプレイは表示されません。
 - ✓ コーヒーマシンはスタンバイモードです。
3. コントロールパネルを閉じます。

「「操作」 - 「コントロールパネルを閉じる」」の章をご参照ください。

5.10.2 長時間にわたる使用停止 (1 週間以上)



長時間にわたって使用を停止する際には、コーヒーマシンおよび周辺機器を停止させてください。

1. コーヒーマシンをスタンバイモードに切り替えます。

「「操作」 - 「スイッチオフ」 - 「コーヒーマシンをスタンバイモードに切り替える」」の章をご参照ください。
2. 主電源を切ります。そのためには、主電源プラグを抜くか、設置場所に取り付けられている主電源スイッチを切ります。
 - ✓ コーヒーマシンは非通電状態です。



注記

凍結した水による物的損害！

凍結した水が加熱され膨張することによってボイラーが損傷するおそれがあります。

- ▶ コーヒーマシンの温度が氷点下になる場合は、ボイラーを事前に空にしてください。
- ▶ サービスパートナーに連絡してください。

5.10.3 周辺機器の電源を切る



注意

汚れによる物的損害および健康被害のおそれがあります！

周辺機器をクリーニングしてスイッチを切らないと、再びスイッチを入れたときに、技術的な障害や健康への悪影響につながるおそれがあります。

- ▶ ミルクが通過する周辺機器のスイッチを切る前に、必ずコーヒーマシンのクリーニングを行ってください。
- ▶ 周辺機器のスイッチを長時間切ったままにする場合は、コーヒーマシンを主電源から切り離してください。
- ▶ ミルクコンテナ、フタ、アダプタなどの付属品は、乾燥した状態で清潔に保つ必要があります。

1. ミルクが通過する周辺機器のミルクコンテナを空にします。
2. コーヒーマシンの毎日のクリーニングを行います。
3. ミルクコンテナ、フタ、アダプタなどの付属品は、食器洗浄機で洗浄するか、新しいきれいな水を使って手で十分に洗ってください。
4. 装置のメインスイッチで周辺機器をオフにします。
"「操作」 - 「周辺機器のコントロールパネル」"の章をご参照ください。
5. 付属品は清潔で乾いた状態で保管します。
6. 電源プラグから引き抜いて電源を切ります。
 - ✓ 周辺機器は電源が通っていない状態です。
 - ✓ 周辺機器は長期間保管することができます。

6 クリーニング

6.1 クリーニング規則および条件

6.1.1 洗剤



警告

洗剤による中毒の危険！



洗剤は、不適切に使用すると中毒を引き起こす可能性があります。

- ▶ Schaerer社が推奨する洗剤のみを使用してください。
- ▶ 洗剤を子供から遠ざけてください。
- ▶ 素手で洗剤に触れたり、摂取したりしないでください。
- ▶ ミルクコンテナに洗剤を入れないでください。常に青いクリーニングコンテナを使用してください。
- ▶ 洗剤使用前には、パッケージの情報および安全データシートに注意深く目を通してください。安全データシートが添付されていない場合、販売会社に請求してください。



注記

間違った洗浄剤による物的損傷！

間違った洗剤を使用すると、コーヒーマシンが故障することがあります。

- ▶ 毎日および週 1 回のクリーニングには、必ずSchaerer社によって推奨されている洗剤を使用してください。

コーヒースystem用クリーニングタブレット



名称	Coffeepure タブレット
用途	コーヒースystemのクリーニング
クリーニング用途	コーヒースystem内に付着した油分の除去
使用間隔	1 日 1 回
用途	ディスプレイガイド付きクリーニング中にタブレットを挿入するように要求します

ミルクシステム用クリーニングパウダー



名称	Milkpure powder
用途	ミルクシステムのクリーニング
クリーニング用途	ミルクシステムの乳脂肪と細菌の除去
使用間隔	1 日 1 回 クリーニングバッグの分割: • 4x アルカリ性 = 緑 = クリーナー1 • 1x 酸 = 赤 = クリーナー2 毎日のクリーニングの場合、「クリーナー 1」で 4 回、「クリーナー 2」で 5 回の間隔を行います。
用途	ディスプレイガイド付きクリーニング中にクリーニングパウダーの追加を要求します

洗浄剤の再注文



名称	再注文のためのセット
用途	コーヒーおよびミルクシステムのクリーニング
製品番号	075350
内容	• 「Coffeepure tabs」 コーヒーシステム用のクリーニングタブレット 1 パック • 「Milkpure powder Box」 ミルクシステム用のクリーニングパウダー 2 パック
量	毎日 100 回分のクリーニング用洗剤: • 100x クリーニングタブレット • 80x クリーニングパウダー クリーナー 1 (緑) • 20x クリーニングパウダー クリーナー 2 (赤)

6.1.2 HACCP洗浄コンセプト



警告

細菌に感染する危険性！



コーヒーマシンの手入れおよびクリーニングが不適切である場合、飲料の引渡しに衛生面での問題が生じます。

- ▶ クリーニング中は保護手袋を着用してください。
- ▶ クリーニング前と後には丁寧に手を洗ってください。
- ▶ コーヒーマシンは毎日洗浄してください。
- ▶ 毎回入れる前と注出終了後、ミルクコンテナを洗浄してください。
- ▶ ミルクコンテナに洗剤を入れないでください。常に青いクリーニングコンテナを使用してください。
- ▶ 飲料水タンク (内部/外部) には決して洗剤を使用しないでください。
- ▶ 洗剤は決して混合しないでください。
- ▶ 洗剤はコーヒー、ミルク、マシン用パウダーとは隔離して保管してください。
- ▶ 精練剤、ブラシ、またはその他の金属製クリーニング用具は使用しないでください。
- ▶ 飲料に触れるパーツにはクリーニング後は触れないようにしてください。
- ▶ 洗剤の使用量および安全に関する注意事項に注意し、これらを守ってください。

HACCP: ハザード分析の重要管理点

HACCPクリーニングコンセプトは、安全な食品を確保するためのものです。食品の加工または完成品から発生する危険性が考慮され、リスクが評価されます。適切な対策を講じることでリスクを軽減します。

取付け、メンテナンス、手入れ、そしてクリーニングが適切に行われている場合、シェーラー社のコーヒーマシンはHACCP要件を満たしています。

6.1.3 クリーニングレベル

以下のクリーニングレベルが選択可能です。

- なし
- 要求
- 強制



クリーニングのレベルは、サービス技術者のみが調整できます。ここに情報を提供できます。

バリエーション：なし

保留中のクリーニングは通知されません。つまり、[サービスマニュー] ボタンがカラーマーキングされたり、[クリーニング] ボタン (サービスマニュー内) に赤いスマイリーがついたりして、保留中のクリーニングが表示されることはありません。クリーニングは、サービスマニューから手動で開始する必要があります。

バリエーション：要求



次のクリーニングについての通知が行われます。クリーニングが予定されている場合、[サービスマニュー] フィールドにオレンジ色のマークが表示されます。次のクリーニングまでの時間は、サービスマニューに「時間数」で表示されます。クリーニングが予定されていると、サービスマニューの [クリーニング] フィールドの赤いスマイルマーク ■ で通知されます。

バリエーション：強制



次のクリーニングについての通知が行われます。クリーニングが予定されていると、[サービスメニュー]フィールドに赤いマークが表示されます。次のクリーニングまでの時間は、サービスメニューに「時間数」で表示されます。クリーニングが予定されていると、サービスメニューの[クリーニング]フィールドの赤いスマイルマークで通知されます。

設定された期限にクリーニングが行われない場合(図「クリーニングの期限」の期限(D)を参照)、強制クリーニングが要求されます。強制洗浄が行われるまで、コーヒーマシンはこれ以上飲料を注出できません。

クリーニングタイムウィンドウ



図: クリーニングのタイムウィンドウ

位置	タイムウィンドウ	説明
A	このタイムウィンドウで実行されたクリーニングは無視されます。	クリーニング要求は、クリーニング後も変更されません。
B	このタイムウィンドウで実行されたクリーニングは早すぎます。 それにもかかわらず、これらのクリーニングは実行されたものとして認識されます。	クリーニング要求は、クリーニング後にリセットされます。クリーニングプランの次のクリーニングは、サービスメニューの [h] に表示されます。
C	(スケジュールに従って) 最適なクリーニング開始の時間	最適な開始時刻までの残り時間がサービスメニューに表示されます。
D	スケジュール通りに最適なクリーニングを行うためのタイムウィンドウ	クリーニング要求は、クリーニング後にリセットされます。
E	強制クリーニングの時間 実行されていないクリーニングは、この時点からこれ以上遅らせることはできません。	ディスプレイには、これ以上の注出ができなくなったことが示されています。コーヒーマシンはもう使用する準備ができていません。クリーニングは絶対に必要です。

6.2 クリーニング間隔

次のセクションでは、最適で問題のない運転に必要なクリーニング間隔について説明します。定期点検で汚染の増加が検出された場合は、実際の汚染症状に応じて必要なクリーニング間隔を短くすることが不可欠です。

自動クリーニング	
コーヒーマシンのスイッチオンまたはオフのたびに	自動スイッチオン/オフのすすぎ
1~240分ごと (設定によって異なる)	設定済みの自動すすぎ

ディスプレイガイド付きクリーニングプログラム*

設定されたクリーニングスケジュールに応じて

ミルクシステムのクリーニング

コーヒースステムのクリーニング

パウダーシステムのクリーニング

手作業でのクリーニング

	カス受けを空にして洗浄
	抽出チャンバーのクリーニング
	雫受けとドリップグリッドを清掃します
	ミルクコンテナを洗浄する
毎日	周辺機器のクリーニング
	タッチスクリーンのクリーニング
	外部の飲料水タンクのクリーニング
	内部飲料水タンクのクリーニング
	外部廃水タンクのクリーニング
週1回	コーヒード豆ホッパーの洗浄
	パウダーケースのすすぎを行う
必要に応じて	コーヒーマシンの外側クリーニング
	手動すすぎの実施

凡例のクリーニング間隔

毎日	少なくとも1日に1回、必要に応じてより頻繁に。
週1回	最低でも週1回、必要であればより頻繁に行うこと。
必要に応じて	汚れがある場合。

* 設定されたクリーニングスケジュールに応じて、ディスプレイガイドによるクリーニングプログラムが実行されます。また、「追加のクリーニング」により、いつでも手動で行うことができます。

6.3 自動クリーニング



注意

熱湯によるやけどの危険！

マシンのすすぎ中に、熱湯が飲料注出口から流れ出します。マシンの自動すすぎは、ディスプレイのメッセージでお知らせします。機能照明が赤く点灯します。

- ▶ マシンのすすぎ中に、飲料注出口の下に手を伸ばさないでください。
- ▶ オプションのスチームノズルを雫受けに置きます。
- ▶ 設定済みのすすぎが自動的に開始されます。したがって、飲料注出口は常に空である必要があります。

6.3.1 自動スイッチオン/オフのすすぎ



自動スイッチオンまたはスイッチオフすすぎは標準であり、無効にすることはできません。

次のシステムは、マシンの電源を入れた後、または電源を切る前に自動的にすすぎがれます (利用可能な場合)。

- コーヒーシステム
- ミルクシステム
- パウダーシステム

6.3.2 設定済みのすすぎ



標準設定では、設定されたすすぎは 1 時間ごとにトリガーされます。

スイッチオン/オフのすすぎに加えて、サービス技術者はサービスメニューで以下のシステムのすすぎを設定できます。

- 出口のすすぎ (調整可能な間隔: 1 ~ 240分)
- 外部ミルクホース (調整可能な間隔: 1 ~ 240分)
- 内部ミルクシステム (調整可能な間隔: 1 ~ 240分)

6.4 ディスプレイガイド付きクリーニングプログラム



警告

汚れによる健康被害のおそれがあります！



洗浄剤による洗浄済みのマシン部品の汚れは、健康上の問題を引き起こす可能性があります。
▶ クリーニングプログラム中は手袋を着用してください。



注意

高温の液体によるやけどの危険！

クリーニングプログラム中は高温の液体が吐出されます。

- ▶ クリーニング中は、飲料注出口、スチーム注出口、外部熱湯注出口の下に手を伸ばさないでください。
- ▶ クリーニングを開始する前に、ドリップグリッドを取り外してください。



注記

雫受けの溢れ出しによる物的損害！

廃水出口が詰まると、雫受けが浸水します。

- ▶ クリーニングプログラムを開始する前に、雫受けの廃水出口を確認してください。

ディスプレイガイド付きクリーニングプログラムは、コーヒーマシンのコントロールユニットに格納されています。クリーニングプログラムの実行頻度は、サービスメニューのクリーニングスケジュールで設定します。サービス技術者は、クリーニングスケジュール「手動」を選択し、調整することができます (クリーニングレベルの変更など)。設定した時刻に行うクリーニングスケジュールのクリーニングに加え、ディスプレイガイド付きクリーニングプログラムを実行することができます。それを行うには、「クリーニング」ページのサービスメニューにある「追加のクリーニング」ボタンをタップします。

6.4.1 「クリーニング」ページ



この機能は、PINで保護されています(管理担当者、マシン担当者、サービス技術者)。

「クリーニング」ページを呼び出す

1. [サービスメニュー]フィールドをタップします。
✓ サービスメニューが表示されます。
2. サービスメニューで[クリーニング]フィールドをタップします。
✓ 「クリーニング」ページが表示されます。



図: [クリーニング]フィールド

[クリーニング]フィールドは、コーヒーマシンのクリーニング状態をスマイルマークで表示します。

- 緑のスマイルマーク：コーヒーマシンには、クリーニングが不要です。
- 赤のスマイルマーク：コーヒーマシンは、クリーニングが必要です。



図: 「クリーニング」ページ

番号	機能	説明
1	[戻る]フィールド	サービスメニューに戻ります。
2	計画されたクリーニング	 フィールドは、その日に計画されたクリーニングを開始します。クリーニングは、以下のシステムで可能です。 • コーヒーシステム • ミルクシステム • パウダーシステム クリーニング計画(サービスメニューでサービス技術者が調整可能)で洗浄レベル「要求」または「強制」が選択されている場合、予定されているクリーニングが表示されます。

番号	機能	説明
3	追加のクリーニング	 フィールドは、クリーニング計画には関係なく追加のクリーニングを開始します。追加のクリーニングは、常に実行可能なすべてのシステムで行われます。

システムのクリーニングに加え、次のコンポーネントのクリーニングがディスプレイガイド付きで実行されます。

- カス受け
- マシン内部
- 飲料注出口のカバー



スチームボイラーのクリーニング(サービス技術者によって起動された場合)は、常にバックグラウンドで同時に行われます。

6.4.2 「クリーニングプログラム」ページ



図: 「クリーニングプログラム」ページ

番号	名称	説明
1	進捗状況の表示	クリーニングプログラムの進捗状況は、この領域に表示されます。 塗りつぶされた円は、ステップがすでに実行済みであることを示します。塗りつぶされていない円は、ステップがまだ実行する必要があることを示します。
2	[キャンセル] ボタン	クリーニングは中断されます。 クリーニングプログラムはいつでもキャンセルできます。 クリーニングプロセスを中断した後、コーヒーマシンの操作準備ができていません。
3	現在の作業に関する画像またはアニメーション。	この領域には、作業の指示と情報(4)をサポートする画像(またはアニメーション)が表示されます。

番号	名称	説明
4	領域 作業の指示/情報	それぞれのクリーニングステップに関する作業の指示と情報は、この領域にテキスト形式で掲載されています。
5	[次へ]フィールド	次のステップに進みます。

6.4.3 必要となる道具

ディスプレイガイド付きクリーニングプログラムでは、以下の道具が必要です。

- 1x クリーニングタブレット (Coffeepure tabs) の投入
- 1x クリーニングパウダー (Milkpure powder)*
- 青いクリーニングコンテナ
- 市販の洗剤
- 市販の清潔なクリーニングクロス
- コントロールパネルロック用キー
- 雫受けが閉じているコーヒーマシンの場合：残りのミルク用の収集コンテナ
- 雫受けが閉じているコーヒーマシンの場合：残りのチョコレートパウダーまたはトッピングパウダー用の収集コンテナ

* 洗浄サイクルの4回を「Cleaner 1」で、5回目の洗浄を「Cleaner 2」で行います。

6.4.4 ディスプレイガイドによるクリーニングの開始



まず、カス受け、マシン内部、飲料注出口の下部のクリーニングが指示されます。次に、クリーニングスケジュールの設定に従ってシステム (コーヒー、ミルク、パウダーシステム) のクリーニングが続きます。次の節または章を参照してください。

クリーニングプログラムはサービスメニューから開始されます。必要なステップはすべてタッチスクリーン上に指示されます。



図: [サービスメニュー]フィールド

サービスメニューを開く

前提条件：保留中のクリーニングは「サービスメニュー」ボタンにカラーマーキングされて表示されます。

1. ユーザーインターフェイスにある [サービスメニュー] ボタンをタップします。
✓ 「サービスメニュー」ページが開きます。

バリエーション：PINで保護されたクリーニング

前提条件：[クリーニング] ボタンが無効です。

2. [ログイン] (1) ボタンでプロフィール (管理担当者、マシンオペレータ、またはサービス技術者) を選択します。
3. プロンプトが表示された後、PINを入力します。
✓ プロフィールが登録されています。
✓ [クリーニング] ボタンが有効です。

「クリーニング」ページを開く

4. (2) ボタンをタップします。
✓ 「クリーニング」ページが表示されます。

クリーニングの開始

注意 高温の蒸気による怪我の危険！

5. スチームノズルを雫受けの中へ向けます。
6. 計画されたクリーニング：(1) ボタンをタップします。



図: サービスメニュー

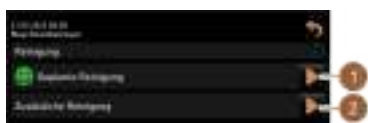


図: 「クリーニング」ページ

✓ 「計画されたクリーニング」ページが表示されます。

7. 追加のクリーニング：  (2) ボタンをタップします。

✓ クリーニングプログラム (すべてのシステム) がスタートします。



図: 「計画されたクリーニング」ページ

バリエーション: 計画されたクリーニング

クリーニングスケジュールに従って、現在クリーニングが必要なシステムがハイライト表示 (明色) されます。クリーニングされないシステムは、暗色で表示されます。

▶  ボタンをタップします。

✓ クリーニングプログラム (クリーニングスケジュールで指定されているシステム) がスタートします。

6.4.5 コーヒーシステムのクリーニング

▶ ディスプレイガイド付きクリーニングが開始します。

以下の章を参照: "ディスプレイガイドによるクリーニングの開始"



図: 洗浄タブレットを入れます

前提条件: 「計画されたクリーニング」のページでは、コーヒーマークがハイライト表示されます (明色)。

1. 掬受けが閉じているコーヒーマシンの場合: 飲料注出口の下に収集コンテナを置きます。
2. 手動投入口 (中央のコーヒー豆ホッパー) のロック装置がある場合は開けます。
3. 手動投入口の蓋を開けます。
4. 洗浄タブレット「Coffeepure tab」を手動投入口 (1) に投入します。
5. 洗浄タブレットの投入をフィールドで確定します。



図: クリーニングの進捗状況

✓ 現在、飲料注出ができないことを示す注意事項が表示されます。

✓ 進捗状況表示バーが表示されます。

✓ 警告マーク「高温の液体」が表示されます。

▶ 掬受けが閉じているコーヒーマシンの場合: 収集コンテナを取り外し、空にして洗浄します。

6.4.6 ミルクシステムのクリーニング



警告

洗浄剤による健康リスク!



洗浄剤の残留物は健康に有害です。中毒のリスクがあります。

▶ クリーニング後、市販の石鹸で手をよく洗ってください。

▶ ディスプレイガイド付きクリーニングが開始します。

"ディスプレイガイドによるクリーニングの開始"の章を参照。

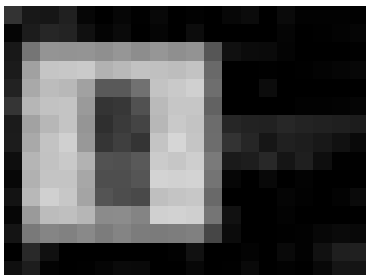


図: ミルクコンテナを取り外します



図: クリーニングパウダーを追加する



図: クリーニングの進捗状況



図: クリーニングコンテナを取り外します

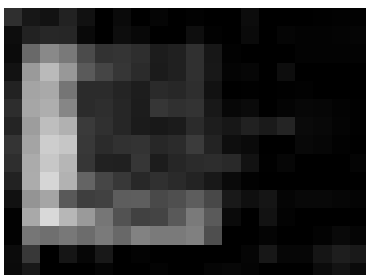


図: ミルクシステムをオンにします

前提条件: 「計画されたクリーニング」ページで、牛のアイコンが(明るく)強調表示されます。

1. ミルクコンテナを取り外します。
2. 必要に応じて、ミルクをミルクコンテナから収集コンテナに移します。
3. ミルクコンテナ、カバーおよび浸漬管のクリーニングを行います。
4. [] フィールドでクリーニングを確認します。
5. 雫受けが閉じているコーヒーマシンの場合: 飲料注出口の下に収集コンテナを置きます。

6. 「Milkpure powder」(アルカリまたは酸)の袋の中身をクリーニングコンテナに入れます。

洗浄サイクルの4回を「Cleaner 1」で、5回目の洗浄を「Cleaner 2」で行います。

7. [] フィールドで、クリーニングパウダーの投入を確認します。

警告 洗浄剤による健康リスク!

8. 市販の石鹸で手をよく洗ってください。
9. 青いクリーニングコンテナを冷却ユニットに挿入します。
10. ミルクホースのアダプタをクリーニングコンテナのフタに挿入します。
11. 挿入したクリーニングコンテナと追加したクリーニング用パウダー「Milkpure powder」を [] フィールドで確認します。
 - ✓ 現在、飲料注出ができないことを示す注意事項が表示されます。
 - ✓ 進捗状況表示バーが表示されます。
 - ✓ 警告マーク「高温の液体」が表示されます。
12. 雫受けが閉じているコーヒーマシンの場合: 収集コンテナを取り外し、空にして洗浄します。

13. 青いクリーニングコンテナを冷却ユニットから取り外し、すすいで洗浄します。
14. ミルクホースのアダプタをクリーニングコンテナのフタから引き出し、湿らせた布で拭きます。
15. [] フィールドでクリーニングコンテナの取り外しを確認します。

16. [ミルクシステムの有効化]照会で[はい]フィールドにチェックマークを入れます。
17. [] ボタンで選択内容を確認します。



図: ミルクコンテナを取り付ける

18. 洗浄済みのミルクコンテナを冷却ユニットに取り付けます。
19. ミルクホースのアダプタをミルクコンテナのフタに挿入します。
20. 必要に応じて、事前に冷やした新鮮なミルク(3〜5 °C)を入れます。
21.  フィールドでミルクコンテナの接続を確認します。



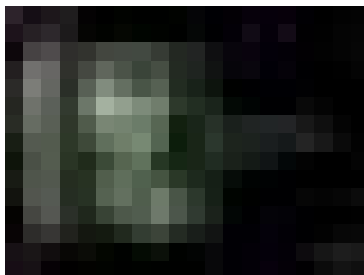
図: ミルクシステムのすすぎ洗い

- ✓ ミルクシステムのすすぎ洗いが実行されます。
- ✓ 現在、飲料注出ができないことを示す注意事項が表示されます。
- ✓ 進捗状況表示バーが表示されます。
- ✓ 警告マーク「高温の液体」が表示されます。

6.4.7 パウダーシステムのクリーニング

- ▶ ディスプレイガイド付きクリーニングが開始します。

以下の章を参照: "ディスプレイガイドによるクリーニングの開始"



前提条件: 「計画されたクリーニング」ページで、パウダーのアイコンが(明るく)強調表示されます。

1. 手動飲料注出口を押し上げ、カス受けを取り外します。
2. コントロールパネルを開きます。

"コントロールパネルを開く"の章を参照。

3. ミキサーカップを手前に引き出します。
4.  フィールドでミキサーカップの取り外しを確認します。
5. ミキサーカップを分解します。
6. ミキサーカップを温水ですすぎ、乾燥させます。
7. ミキサーカップを組み立てます。
8.  フィールドでクリーニングを確認します。



図: ミキサーカップを洗浄します



図: ミキサーカップを取り付ける

9. ミキサーカップをコーヒーマシンにまっすぐに挿入します。
10. コントロールパネルを閉じます

以下の章を参照: "コントロールパネルを閉じます"

6.5 手作業でのクリーニング

6.5.1 カス受けを空にして洗浄



警告

カス受けのコーヒーかすによってカビが発生するおそれがあります。

コーヒーマシン内にカビ胞子が繁殖すると、健康被害やコーヒーの汚染のおそれがあります。

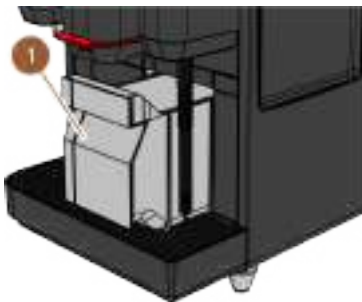


図: カス受けを取り外します

間隔: 毎日

1. 飲料注出口を上を押します。
2. カス受け(1)をコーヒーマシンから引き出します。
3. カス受けを空にします。

注記 高温になるとコーヒーマシンの損傷につながるおそれがあります。

カス受けは食器洗浄機で洗浄しないでください。

4. カス受けを水と家庭用洗剤で丁寧に洗浄します。
5. カス受けを温水ですすぎ、乾燥させます。
6. 乾いたカス受けをコーヒーマシンに再び取り付けます。

6.5.2 抽出チャンバーのクリーニング

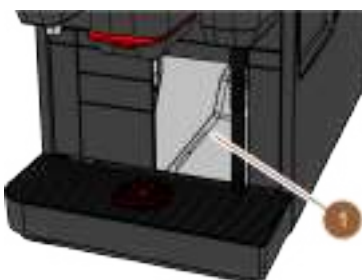


図: 抽出チャンバーのクリーニング

間隔: 毎日

1. 飲料注出口を上を押します。
2. カス受けをコーヒーマシンから引き出します。
3. 洗浄ブラシを使用して、抽出チャンバー内 (1) の挽いたコーヒーの残留物を取り除きます。

情報: 洗浄ブラシは納品内容に含まれています。

4. 清潔で湿った布で抽出チャンバーを拭き、乾かします。
5. カス受けを再びコーヒーマシンに取り付けます。

6.5.3 雫受けとドリップグリッドを清掃します



注意

熱湯によるやけどの危険!

自動洗浄は、飲料注出口から熱湯を引き出します。

- ▶ クリーニングのためにドリップグリッドを取り外す前に、コーヒーマシンをオフにしてください。
- ▶ 雫受けを洗浄する前に、コーヒーマシンをオフにしてください。



注記

浸水の危険！

廃水出口が詰まると、雫受けが浸水します。

▶ カルキ抜きを行う前に、廃水出口に詰まりが発生していないか確認してください。

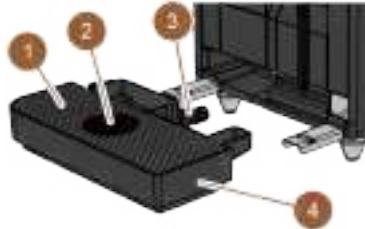


図: 雫受けを取り外す

間隔：毎日

▶ コーヒーマシンのスイッチを切ってください。

以下の章を参照："コーヒーマシンのスタンバイモードへの切り替え"

1. 雫受け(4)をコーヒーマシンから取り外します。
2. 雫受け(4)からカップ受け(1)を位置決めツール(2)とともに取り外します。
3. 雫受け(4)を清潔な水ですすぎ洗います。
4. カップ受け(1)を位置決めツール(2)を流水の下で洗剤を使用して丁寧に洗います。
5. 廃水出口(3)に詰まりが発生していないか確認してください。

"カルキ抜き"の章を参照し、詰まりが発生していないか確認します

6. カップ受け(1)を雫受け(4)に取り付け、正しく配置されていることを確認します。
7. 位置決めツール(2)が正しい位置にあることを確認します。
8. 雫受け(4)を取り付けます。

6.5.4 ミルクコンテナを洗浄する



警告

細菌に感染する危険性！



ミルクの残りや細菌によってミルクおよびミルクコンテナが汚染されるおそれがあります。

▶ ミルクコンテナとカバーは毎回補充の前にクリーニングしてください。

▶ クリーニングには手袋を着用してください。



図: ミルクコンテナを洗浄する

間隔：毎日

1. 冷却ユニットからミルクコンテナを取り外します。
2. ミルクコンテナの残りのミルクを捨ててください。
別冊の取扱説明書「SKYE周辺機器」に詳しく記載されているクリーニングに関する注意事項に従ってください。
3. ミルクコンテナを水、洗浄液、清潔な未使用の布で拭き取ってください。
4. ライザーパイプをブラシで洗浄します。
情報：クリーニングブラシは納入品目に含まれています。
5. 冷却ユニットに再びミルクコンテナを取り付けます。

6.5.5 周辺機器のクリーニング



周辺機器のお手入れとクリーニング方法は、別冊の取扱説明書020888に記載されています。

6.5.6 タッチスクリーンのクリーニング



注意

高温の液体によるやけどの危険！

意図しない飲料の注出は、クリーニング中にやけどを引き起こす可能性があります。

- ▶ クリーニング前に、サービスメニューのタッチスクリーンを無効にするか、コーヒーマシンをオフにしてください。



図: サービスメニュー領域「直接選択」

間隔：毎日

1. ユーザーインターフェイスにある [サービスメニュー] ボタンをタップします。

✓ サービスメニューが開きます。

2. [タッチスクリーンのクリーニング] フィールド(1)をタップします。

✓ タッチスクリーンは、30秒間無効になります。

✓ カウントダウンが表示されます。

✓ ディスプレイはタッチ操作に反応しません。

注記 タッチスクリーンの不適切な清掃による物損。絶対に精練剤を使用しないでください。力、強い圧力、鋭利なものでディスプレイを押さないでください。

3. 30秒の間に、タッチスクリーンをペーパータオルと市販のガラスクリーナーで清掃します。

✓ カウントダウンが経過すると、タッチスクリーンが再びアクティブになります。

6.5.7 内部飲料水タンクのクリーニング



警告

洗剤による中毒の危険！

飲料水タンク内の洗浄剤の残留物は中毒を引き起こす可能性があります。

- ▶ 飲料水タンクに洗浄剤を入れないでください。



警告

細菌に感染する危険性！



残りかすや細菌により内部の飲料水タンクの飲料水が汚染されるおそれがあります。汚染された飲料水タンクは健康上の問題を引き起こす可能性があります。

- ▶ クリーニングには手袋を着用してください。



図: 内部の飲料水タンク

間隔：毎日

1. コーヒーマシンから内部の飲料水タンクを引き出します。

2. 内部の飲料水タンクを真水で数回十分にすすぎます。洗浄剤は使用しないでください。

3. きれいな布で拭いて乾かします。

4. 内部の飲料水タンクに新鮮な水を入れてください。

5. 内部の飲料水タンクをコーヒーマシンに取り付けます。

6.5.8 外部の飲料水タンクのクリーニング



警告

洗剤による中毒の危険！

飲料水タンク内の洗剤の残留物は中毒を引き起こす可能性があります。

▶ 飲料水タンクに洗剤を入れないでください。



警告

細菌に感染する危険性！



残りかすや細菌により外部飲料水タンクの飲料水が汚染されるおそれがあります。汚染された飲料水タンクは健康上の問題を引き起こす可能性があります。

▶ クリーニング中は手袋を着用してください。



図: 外部飲料水タンク

間隔：毎日

1. 外部飲料水タンクの蓋のネジを外します。
2. コーヒーマシンの飲料水ホースを外部飲料水タンクと蓋から引き出します。
3. 飲料水ホースの末端をきれいな布の上に置きます。
4. 外部飲料水タンクを真水で数回十分にすすぎます。洗剤は使用しないでください。
5. 外部飲料水タンクの蓋を真水で十分に洗浄します。
6. きれいな布で拭いて乾かします。
7. 外部飲料水タンクに新鮮な水を入れてください。
8. フLOAT (レベル監視) のフリーランニングを確認してください。
9. 飲料水ホースを蓋に通して外部飲料水タンクに戻します。
10. 外部飲料水タンクの蓋を閉めます。

6.5.9 外部廃水タンクのクリーニング



警告

細菌に感染する危険性！



残りかすや細菌により外部飲料水タンクの飲料水が汚染されるおそれがあります。汚染された飲料水タンクは健康上の問題を引き起こす可能性があります。

▶ クリーニング中は手袋を着用してください。



図: 外部廃水タンク

間隔：毎日

1. 廃水タンクの蓋のネジを外します。
2. コーヒーマシンの廃水ホースを廃水タンクと蓋から引き出します。
3. 廃水ホースの末端をきれいな布の上に置きます。
4. 外部廃水タンクを真水で数回十分にすすぎます。洗剤は使用しないでください。
5. 廃水タンクのカバーを真水で十分に洗浄します。
6. きれいな布で拭いて乾かします。
7. フLOAT (レベル監視) のフリーランニングを確認してください。
8. 廃水ホースをフタに通して廃水タンクに戻します。
9. 廃水タンクの蓋を閉めます。

6.5.10 コーヒー豆ホッパーの洗浄

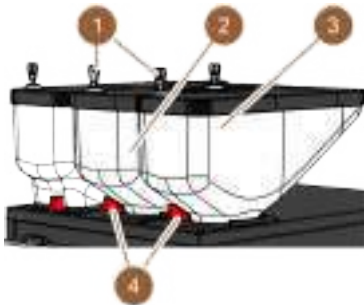


図: コーヒー豆ホッパーの洗浄

間隔: 毎週

1. コーヒーマシンをスタンバイモードに切り替えます。
以下の章を参照: "コーヒーマシンのスタンバイモードへの切り替え"
2. コーヒー豆ホッパー (2または3) のロック (4) を開けます。
3. コーヒー豆ホッパー (2または3) をコーヒーマシンから持ち上げます。
4. 蓋を取り外します (ロック装置 (1) がある場合は開ける)。
5. 残りのコーヒー豆をコーヒーマシンとコーヒー豆ホッパーから取り出します。
6. 流水でコーヒー豆ホッパーをよくすすぎ、柔らかい布で拭きます。
注記 コーヒー豆ホッパーは、研磨剤によって傷がつく可能性があります。
7. 絶対に精練剤を使用しないでください。
8. 蓋とコンテナをきれいな布で拭き取り乾かします。
9. コーヒー豆ホッパーを再びコーヒーマシンに取り付けます。
10. コーヒー豆ホッパーのロック (4) を閉めます。
11. コーヒー豆ホッパーを充填し、蓋を取り付けます (ロック装置 (1) がある場合は閉める)。

6.5.11 パウダーホッパーの洗浄

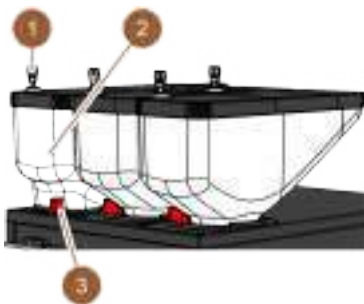


図: パウダーホッパーの洗浄

間隔: 必要に応じて

1. コーヒーマシンのスイッチを切ってください。
以下の章を参照: "コーヒーマシンのスタンバイモードへの切り替え"
2. パウダーホッパー (2) のロック (3) を開きます。
3. パウダーホッパー (2) をコーヒーマシンから持ち上げます。
4. 蓋を取り外します (ロック装置 (1) がある場合は開ける)。
5. 残りのチョコレートパウダーまたはトッピングパウダーを取り除きます。

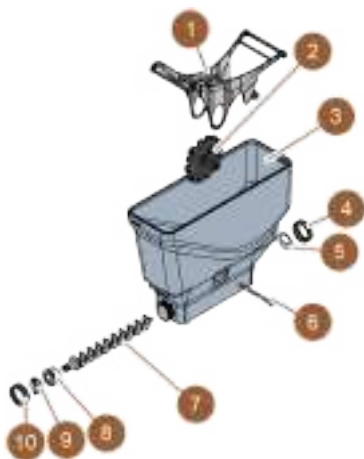


図: スタンダードパウダーホッパー

バリエーション: スタンダードパウダーホッパーを分解する

前提条件: スタンダードパウダーホッパーが取り付けられた状態です。

1. ユニオンナット (4、10) を緩めます。
2. 注入板 (5) を取り外します。
3. ドライブカップリング (9) を取り外します。
4. 軸 (6) を引き抜きます。
5. ギア (2) とロッカー (1) を取り出します。
6. スクリュードライブ (7) およびドライブ要素 (8) を引き出します。

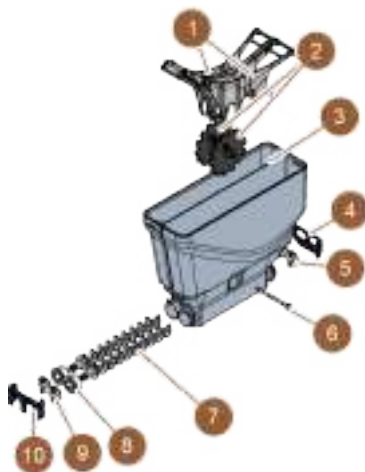


図: パウダーホッパー(ツイン)

バリエーション: パウダーホッパー(ツイン)を分解する

前提条件: パウダーホッパー(ツイン)が取り付けられた状態です。

1. スライド(4、10)を下に押しします。
2. 注入板(5)を取り外します。
3. ドライブカップリング(9)を取り外します。
4. 軸(6)を引き抜きます。
5. ギア(2)とロッカー(1)を取り出します。
6. スクリュードライブ(7)およびドライブ要素(8)を引き出します。

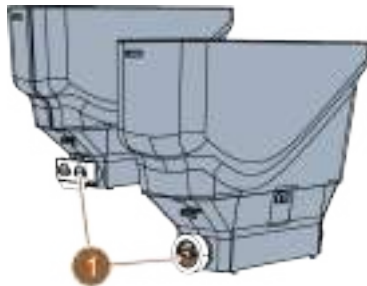


図: 注入板のアラインメント

パウダーホッパーの洗浄

注記 パウダーホッパーは、研磨剤によって傷がつく可能性があります。

1. クリーニングに研磨剤クリーナーを使用しないでください。
2. パウダーホッパーや注入装置の個々の部品を流水で十分にすすぎます。

注記 組み立てる前にすべての部品をよく乾かしてください。

3. 逆の手順で再び取り付けます。

6.5.12 外側のクリーニング

1. コーヒーマシンのスイッチを切ってください。
以下の章を参照: "コーヒーマシンのスタンバイモードへの切り替え"
- 注記** 外側は、研磨剤によって傷がつく可能性があります。
2. クリーニングに研磨剤クリーナーを使用しないでください。
3. コーヒーマシンおよび周辺機器の外側を湿らせた清潔な布で拭きます。



以下の章も参照: "タッチスクリーンのクリーニング"

6.5.13 手動すすぎの実施



図: サービスメニュー領域「直接選択」

間隔：必要に応じて

情報：すすぎは、サービスメニューでいつでも手動でトリガーできます。

1. ユーザーインターフェイスにある [サービスメニュー] ボタンをタップします。
✓ ユーザーインターフェイスにある [サービスメニュー] ボタンをタップします。
2. [すすぎの開始] ボタン (1) をタップします。
✓ システムのすすぎは、自動スイッチオン/スイッチオフすすぎと同じように実行されます。

以下の章も参照："自動スイッチオン/オフのすすぎ"

7 メンテナンス

メンテナンスは、以下のカテゴリーに分類できます。

- メンテナンス作業：ユーザーはメンテナンス作業を独自に行うことはできません。メンテナンス作業が予定されている場合、サービスパートナーに通知し、サービスパートナーにメンテナンス作業を依頼する必要があります。
- 固定式給水部がある場合のカルキ抜き：このカルキ抜きは、ユーザーが独自に行うことができます。カルキ抜きには、カルキ抜きカートリッジ 079293 が必要です。
- 内部水タンクの場合のカルキ抜き：このカルキ抜きは、ユーザーが独自に行うことができます。カルキ抜きには、2本の液体カルキ抜き 062869 が必要です。

7.1 メンテナンス作業

コーヒーマシンは定期的にメンテナンスを行ってください。メンテナンスを行う日時は様々な要因によって決まりますが、特にマシンがどれだけ利用されているか、そして安全バルブの寿命に大きく影響されます。



資料「メンテナンスコンセプト」を参照してください。

メンテナンスが必要な時期になると、コーヒーマシンのディスプレイにその旨が表示されます。ただし、コーヒーマシンは、引き続き通常通りに使用できます。

7.1.1 メンテナンス間隔



図: [メンテナンス間隔]フィールド

[メンテナンス間隔]フィールドは、コーヒーマシンのメンテナンス状態をスマイルマークで表示します。

- 緑のスマイルマーク：コーヒーマシンのメンテナンスは不要です。
- 赤のスマイルマーク：コーヒーマシンのメンテナンスが必要です。



この機能は、PINで保護されています(管理担当者、マシン担当者、サービス技術者)。



注記

メンテナンス間隔の不遵守による物的損害！

メンテナンスの延期は、早期の摩耗につながる可能性があります。

- ▶ 保留中のメンテナンスをサービスパートナーにできるだけ早く実行してもらいます。



メンテナンス間隔は「メンテナンスコンセプト」文書で定義されています。

- ▶ メンテナンスが必要な場合には、サービスパートナーに連絡してください。
- ▶ メンテナンス作業の1日前にカルキ抜きを実行してください。

以下の章を参照："カルキ抜き"

7.1.2 「メンテナンス間隔」ページ



図: 「メンテナンス間隔」ページ

番号	名称	説明
1	カルキ抜き	[]フィールドは、予定されているカルキ抜きを開始します。
2	メンテナンス 2	[]フィールドは照会を表示します。コーヒーマシンのメンテナンスは、サービスパートナーが個別のメンテナンス規定に従い行う必要があります。メンテナンスが実行されると、照会を確認し、カウンタをリセットできます。
3	24か月メンテナンス	[]フィールドは照会を表示します。コーヒーマシンのメンテナンスは、サービスパートナーが個別のメンテナンス規定に従い行う必要があります。メンテナンスが実行されると、照会を確認し、カウンタをリセットできます。
4	前回	該当するメンテナンスが最後に実施された日付が表示されます。
5	次回	次に該当するメンテナンスを実施する必要がある時点(何か月後、飲み物の数または量が注出された後)が表示されます。
6	[戻る]フィールド	サービスメニューに戻ります。

7.1.3 メンテナンスの実施とカウンターのリセット



図: [サービスメニュー]フィールド

サービスメニューを開く

前提条件：保留中のメンテナンスは、サービスメニューに赤いスマイルマークで示されます。

- ▶ ユーザーインターフェイスにある [サービスメニュー] ボタンをタップします。

✓ 「サービスメニュー」ページが開きます。



図: サービスメニュー

「メンテナンス間隔」ページを開く

- ▶ フィールド (1) をタップします。

✓ 「メンテナンス間隔」ページが表示されます。

✓ 実行済みおよび保留中のすべてのメンテナンスが表示されます。



図: 「メンテナンス間隔」ページ

メンテナンス作業を実行してもらいます

1. サービス技術者による保留中のメンテナンス作業を実行してもらいます。
2. 保留中のメンテナンス (1 または 2) をタップします。



図: メンテナンス作業を確認します (例)

メンテナンス作業を確認します

1. 「メンテナンスコンセプト」とチェックリストに従って、メンテナンスが実行され、完了していることを確認してください。
2. フィールド  でクエリを確認します。
 - ✓ メンテナンス作業は、「メンテナンス間隔」ページに完了 (緑色のスマイリー) として表示されます。
 - ✓ 「最終」日付が現在の日付に変更されます。
 - ✓ 「期限」の値は、設定された間隔に応じて変化します。

7.2 カルキ抜き



警告

酸によるやけどの危険！



皮膚の炎症と重度の目の炎症のリスク。カルキ抜きプロセス中に酸が発生します。

- ▶ 付属のカルキ除去剤に素手で触れたり、同封の安全データシートを読んだりしないでください。



- ▶ カルキ抜きプロセス中にカルキ抜きカートリッジを取り外さないでください。ディスプレイの要求を待ちます。



注意

熱湯によるやけどの危険！

熱湯注出口と飲料注出口からは、カルキ抜き中、熱湯が排出されます。やけどのリスクがあります。

- ▶ 飲料注出口を一番下の位置に押します。
- ▶ カルキ抜きプロセス中は、熱湯注出口の下に手を伸ばさないでください。



注意

高温のスチームによるやけどの危険！

スチーム アウトレットからは、カルキ抜き中に高温の蒸気が放出されます。やけどのリスクがあります。

- ▶ スチーム アウトレットの注出口を罩受けに向けます。
- ▶ カルキ抜きプロセス中は、スチーム アウトレットの下に手を伸ばさないでください。

カルキ抜き時間

カルキ抜きプロセスには少なくとも 85 分かかります。この期間中、コーヒーマシンは使用できません。コーヒーマシンの操作準備ができていないことを早期に伝えます。

キャンセルしたカルキ抜き

完全かつ正確に完了できなかったカルキ抜きプロセスを繰り返す必要があります。

コーヒーマシンは、カルキ抜きプロセスが正しく完了した場合にのみ操作準備を整えることができます。

7.2.1

カルキ抜き

カルキ抜きカートリッジ 「Uptime!」



注記

カルキ抜きカートリッジによる物的損傷！

Schaerer社が推奨する以外のカルキ抜きカートリッジを使用すると、コーヒーマシンが損傷する可能性があります。

- ▶ Schaerer社が推奨するカルキ抜きカートリッジのみを使用してください。
- ▶ パッケージから直接取り出したカートリッジのみを使用してください。
- ▶ カルキ抜きの前に、パッケージと安全データシートに記載されている情報を注意深く目を通してください。安全データシートが添付されてない場合、販売会社にこれを請求してください。



名称	Schaerer カルキ抜きカートリッジ 「Uptime!」
用途	給排水管接続によるコーヒーマシンのカルキ抜き
カルキ抜き	熱湯/スチームシステムを含むボイラーのカルキ抜き
使用間隔	要求が出されてから

液体カルキ抜き



注記

間違った液体カルキ抜きによる物的損傷！

Schaerer社が推奨する以外の液体カルキ抜きを使用すると、コーヒーマシンが損傷する可能性があります。

- ▶ Schaerer社が推奨する液体カルキ抜きのみを使用してください。
- ▶ パッケージから直接取り出したカルキ抜きのみを使用してください。
- ▶ カルキ抜きの前に、パッケージと安全データシートに記載されている情報を注意深く目を通してください。安全データシートが添付されてない場合、販売会社にこれを請求してください。



名称	Schaerer 液体カルキ抜き 「Calcpure」
用途	内部水タンクによるコーヒーマシンのカルキ抜き
カルキ抜き	熱湯/スチームシステムを含むボイラーのカルキ抜き
使用間隔	要求が出されてから

7.2.2 「カルキ抜き」 ページ

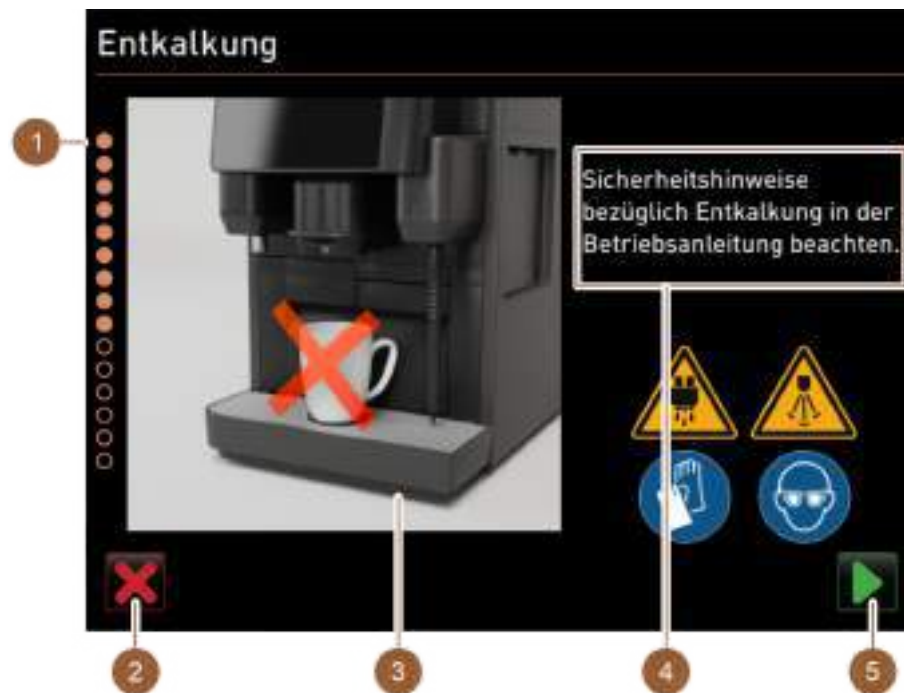


図: 「カルキ抜き」 ページ

番号	名称	説明
1	進捗状況の表示	カルキ抜きプログラムの進行状況がこの領域に表示されます。塗りつぶされた円は、ステップがすでに実行済みであることを示します。塗りつぶされていない円は、ステップがまだ実行する必要があることを示します。
2	[キャンセル] ボタン	カルキ抜きは中断されます。カルキ抜きプログラムはいつでもキャンセルできます。カルキ抜きプロセスを中断した後、コーヒーマシンの操作準備ができていません。
3	現在の作業に関する画像またはアニメーション。	この領域には、作業の指示と情報(4)をサポートする画像(またはアニメーション)が表示されます。

番号	名称	説明
4	領域 作業の指示/情報	それぞれのクリーニングステップに関する作業の指示と情報は、この領域にテキスト形式で掲載されています。
5	[次へ]フィールド	次のステップに進みます。

7.2.3 必要となるカルキ抜き資材

給排水管接続でカルキ抜きするには、以下の材料が必要です。

- 1 Lの水
- ストップウォッチ
- 1x Schaerer カルキ抜きカートリッジ 「Uptime!」 (079293)
- 1x Schaerer クリーニングコンテナ 1l 青 (オプション)
- 1x Schaerer クリーニングコンテナのフタ (オプション)
- 手袋
- 安全ゴーグル

内部水タンクでカルキ抜きするには、以下の材料が必要です。

- 1 Lの水
- ストップウォッチ
- 2x Schaerer 液体カルキ抜き (062869)
- 1x Schaerer クリーニングコンテナ 1l 青 (オプション)
- 1x Schaerer クリーニングコンテナのフタ (オプション)
- 手袋
- 安全ゴーグル

7.2.4 バリエーション：固定式給水部がある場合のカルキ抜き



カルキ抜きはいつでもキャンセル/中断できます。本当にカルキ抜きを中断するかどうか確認するプロンプトが表示されます。



図: [サービスメニュー]フィールド

サービスメニューを開く

前提条件：保留中のカルキ抜きは、サービスメニューに赤いスマイルマークで示されます。

- ▶ ユーザーインターフェイスにある [サービスメニュー] ボタンをタップします。
 - ✓ 「サービスメニュー」ページが開きます。



図: サービスメニュー

「メンテナンス間隔」ページを開く

- ▶ フィールド  (1) をタップします。
 - ✓ 「メンテナンス間隔」ページが表示されます。
 - ✓ 実行済みおよび保留中のすべてのメンテナンスが表示されます。



図: 「メンテナンス間隔」ページ

カルキ抜きを開始

1. フィールド  (1) をタップします。
✓ カルキ抜きプログラムが開始します。
2. 廃水タンクの場合：廃水タンクを完全に空にします。
3. 外部飲料水タンクの場合：外部飲料水タンクを満タンまで充填します。



図: カルキ抜きカートリッジを開梱します

カルキ抜きカートリッジを開梱します

1. Schaererの「Uptime!」カルキ抜きカートリッジをパッケージから取り出します。
2. 開梱を  ボタンで確定します。

次回のカルキ抜きのために、品番の付いたカルキ抜きカートリッジをサービスパートナーに再注文してください。



図: 雫受けの洗浄

廃水接続部付きバリエーション

1. 廃水タンクを完全に空にします (廃水タンクがある場合)。

注記 廃水出口が詰まったために水が溢れたことによる物的損害！

情報：ディスプレイのフィールド  で段階的な説明へ移動します。

2. 雫受けからドリップグリッドを取り外します。
3. 1 Lの水を雫受けに注ぎ、同時にストップウォッチをスタートします。
✓ 水が流れ出ます。
4. 水が完全に抜けるまで待ちます。ストップウォッチの時間を読み取りま

す。30秒以上経過した場合は、廃水出口が詰まっています。

5. サービス技術者に廃水出口の詰まりを修理してもらってください。
6. 廃水出口の点検を  ボタンで確定します。

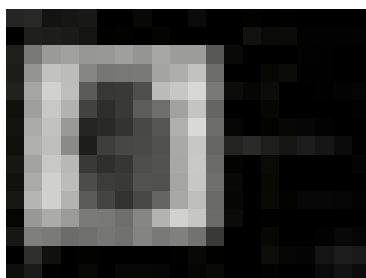


図: 雫受けを空にします

廃水接続部なしのバリエーション

1. 雫受けを取り外します。
2. 雫受けを空にします。
3. 雫受けを再び取り付けます。
4. 雫受けが空になっていることを  ボタンで確定します。



図: カス受けを取り外します

カス受けを取り外します

1. 飲料注出口を完全に押し上げます。
2. カス受けをコーヒーマシンから取り外し、空にします。



図: カルキ抜きカートリッジを挿入します

カルキ抜きカートリッジを挿入します

1. 左前のカバーを開けます。
2. 緑のキャップを左に回して取り外します。
3. 開梱したカルキ抜きカートリッジを配置し、右に回して挿入します。
✓ カルキ抜きカートリッジが挿入されています。



図: カス受けを挿入する

カス受けを挿入する

- ▶ カス受けをコーヒーマシンに挿入します。



図: ミルクコンテナを取り外します

オプション: ミルクコンテナを取り外します

1. 冷却ユニットのドアを開きます。
2. ミルクコンテナを冷却ユニットから取り外し、必要に応じて空にしてクリーニングします。

警告 温めすぎた/汚染された牛乳から感染する危険性！

3. カルキ抜きの間は、ミルクを涼しい場所に保管してください。
4. ミルクコンテナが空になっていることを■ボタンで確認します。

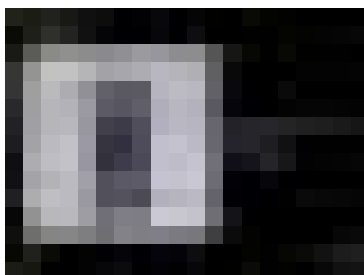


図: クリーニングコンテナを取り外します

オプション: クリーニングコンテナを挿入します

1. 空のクリーニングコンテナを冷却ユニットに入れます。
2. ミルクホースをクリーニングコンテナのフタに挿入します。
3. 冷却ユニットのドアを閉じます。
4. クリーニングコンテナが空になっていることを■ボタンで確認します。



図: 飲料注出口とスチームノズルの配置

飲料注出口とスチームノズルの配置

1. 飲料注出口を一番下の位置に押しします。
2. スチームノズルを受受けの中へ向けます。
3. 正しく配置したことを  ボタンで確定します。



図: カルキ抜きプロセスを開始します

カルキ抜きプロセスを開始します

注意 高温の液体および高温の蒸気によるやけどの危険！

1. 保護メガネおよび保護手袋を着用してください。
2.  ボタンでカルキ抜きプロセスを開始します。



図: カルキ抜きプロセスの進捗状況表示

カルキ抜きの進捗状況は%で表示され、約 85 分かかります。

- ✓ コーヒーマシンの冷却が開始します (青)。
- ✓ カルキ抜きがアクティブになっています (黄色)。
- ✓ すすぎがアクティブになっています (緑)。

カルキ抜きプロセスは、 ボタンで中断し、 ボタンで続行できます。カルキ抜きのキャンセルはできなくなります。



図: カルキ抜きカートリッジを取り外します

カルキ抜きカートリッジを取り外します

警告 ディスプレイに表示される、カルキ抜きカートリッジを取り外すように促す表示が出るまで、必ずお待ちください。

前提条件：カルキ抜きプロセスが完了しました。

- ▶ カルキ抜きカートリッジを左へ回してコーヒーマシンから取り外します。



図: 保護キャップの取り付け

保護キャップの取り付け

1. 緑のキャップを右に回して取り付けます。
2. 左前のカバーを閉じます。
3. カバーが閉じていることを  ボタンで確定します。

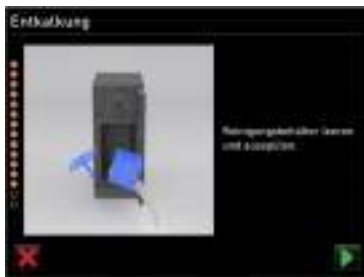


図: クリーニングコンテナを取り外します

オプション: クリーニングコンテナを取り外します

1. ミルクホースをクリーニングコンテナのフタから抜き取ります。
2. 冷却ユニットからクリーニングコンテナを取り外します。
3. クリーニングコンテナを空にして、すすぎます。
4. クリーニングコンテナが取り外されていることを  ボタンで確認します。



図: ミルクコンテナを接続します

オプション: ミルクコンテナを冷却ユニット内に配置

1. ミルクコンテナに冷たいミルクを充填し、冷却ユニットに取り付けます。
2. ミルクホースをミルクコンテナのフタに接続します。
3. ミルクコンテナが接続されていることを  ボタンで確認します。



図: カルキ抜きカートリッジを注文します

カルキ抜きカートリッジの再注文

前提条件: 品番はユーザーインターフェイスに表示されます。

- ▶ 次のカルキ抜きのために、サービスパートナーにカルキ抜きカートリッジを再注文してください。

カルキ抜きカートリッジの再注文

- ▶ ミルクコンテナが接続されていることを  ボタンで確認します。

- ✓ カルキ抜きプログラムは終了しました。
- ✓ コーヒーマシンが再起動します。
- ✓ コーヒーマシンの作動準備が完了し、ユーザーインターフェイスが表示されます。
- ✓ 最後に実行されたカルキ抜きは、「メンテナンス間隔」の下でサービスメニューに表示されます。

7.2.5 バリエーション: 内蔵水タンクがある場合のカルキ抜き



カルキ抜きはいつでもキャンセル/中断できます。本当にカルキ抜きを中断するかどうか確認するプロンプトが表示されます。



図: [サービスメニュー]フィールド

サービスメニューを開く

前提条件: 保留中のカルキ抜きは、サービスメニューに赤いスマイルマークで示されます。

- ▶ ユーザーインターフェイスにある [サービスメニュー] ボタンをタップします。
- ✓ 「サービスメニュー」ページが開きます。



図: サービスメニュー

「メンテナンス間隔」ページを開く

- ▶ フィールド (1) をタップします。
 - ✓ 「メンテナンス間隔」ページが表示されます。
 - ✓ 実行済みおよび保留中のすべてのメンテナンスが表示されます。



図: 「メンテナンス間隔」ページ

カルキ抜きを開始

1. フィールド (1) をタップします。
 - ✓ カルキ抜きプログラムが開始します。
2. 廃水タンクの場合：廃水タンクを完全に空にします。

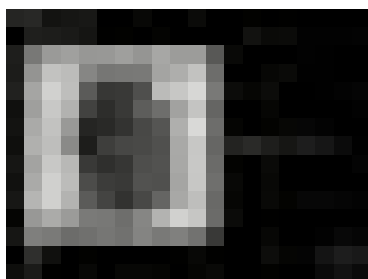


図: 雫受けの洗浄

廃水接続部付きバリエーション

1. 廃水タンクを完全に空にします (廃水タンクがある場合)。

注記 廃水出口が詰まったために水が溢れたことによる物的損害！

情報：ディスプレイのフィールド (2) で段階的な説明へ移動します。

2. 雫受けからドリップグリッドを取り外します。
3. 1 Lの水を雫受けに注ぎ、同時にストップウォッチをスタートします。
 - ✓ 水が流れ出ます。
4. 水が完全に抜けるまで待ちます。ストップウォッチの時間を読み取りま

す。

30秒以上経過した場合は、廃水出口が詰まっています。

5. サービス技術者に廃水出口の詰まりを修理してもらってください。
6. 廃水出口の点検を (3) ボタンで確定します。

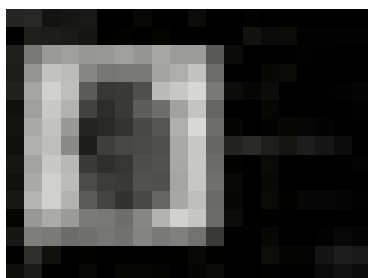


図: 雫受けを空にします

廃水接続部なしのバリエーション

1. 雫受けを取り外します。
2. 雫受けを空にします。
3. 雫受けを再び取り付けます。
4. 雫受けが空になっていることを (3) ボタンで確定します。

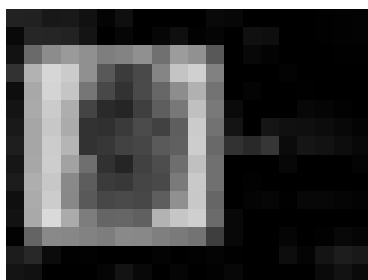


図: 内部水タンクを空にします

内部水タンクを取り外す

1. コーヒーマシンから内部水タンクを取り外します。
2. 蓋を開けて、内部水タンクを空にします。
3. 内部水タンクが空になっていることを (3) ボタンで確定します。

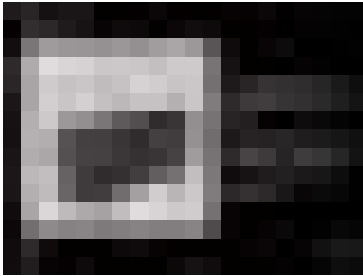


図: 液体カルキ抜きを入れます

液体カルキ抜きを入れます

1. ボトル1本のカルキ抜き剤 (062869) を内部水タンクに充填します。
2. 空になったボトルに水をいっぱいまで入れ、この水を水タンクに入れます。
3. 蓋を閉めて、内部水タンクをコーヒーマシンに取り付けます。
4. 内部水タンクが液体カルキ抜きで充填されていることを  ボタンで確認します。



図: カス受けを取り外します

カス受けを取り外します

1. 飲料注出口を完全に押し上げます。
2. カス受けをコーヒーマシンから取り外し、空にします。



図: カス受けを挿入する

カス受けを挿入する

- ▶ カス受けをコーヒーマシンに挿入します。



図: コンテナを配置する

コンテナを配置する

1. 最小の容量 5 l 以上のコンテナを飲料注出口の下に配置します。
2. コンテナが倒れないことを確認してください。
3. コンテナがしっかりと配置されていることを  ボタンで確認します。



図: ミルクコンテナを取り外します

オプション: ミルクコンテナを取り外します

1. 冷却ユニットのドアを開きます。
2. ミルクコンテナを冷却ユニットから取り外し、必要に応じて空にしてクリーニングします。

警告 温めすぎた/汚染された牛乳から感染する危険性!

3. カルキ抜きの間は、ミルクを涼しい場所に保管してください。
4. ミルクコンテナが取り外されていることを  ボタンで確認します。

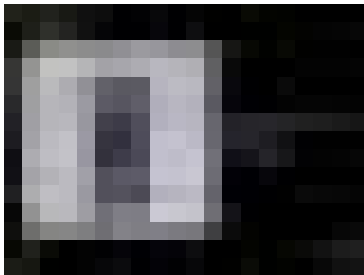


図: クリーニングコンテナを挿入します

オプション: クリーニングコンテナを挿入します

1. 空のクリーニングコンテナを冷却ユニットに入れます。
2. ミルクホースをクリーニングコンテナのフタに挿入します。
3. 冷却ユニットのドアを閉じます。
4. クリーニングコンテナの挿入を  ボタンで確定します。



図: 飲料注出口とスチームノズルの配置

飲料注出口とスチームノズルの配置

1. 飲料注出口を一番下の位置に押します。
2. スチームノズルを罩受けの中へ向けます。
3. 正しく配置したことを  ボタンで確定します。



図: カルキ抜きプロセスを開始します

カルキ抜きプロセスを開始します

注意 高温の液体および高温の蒸気によるやけどの危険!

1. 保護メガネおよび保護手袋を着用してください。
2.  ボタンでカルキ抜きプロセスを開始します。

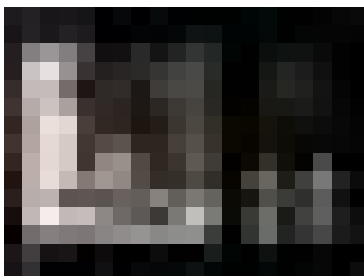


図: カルキ抜きプロセスの進捗状況表示

カルキ抜きの進捗状況は%で表示され、約 85 分かかります。

- ✓ コーヒーマシンの冷却が始まります (青)。
- ✓ カルキ抜きがアクティブになっています (黄色)。
- ✓ すずぎがアクティブになっています (緑)。

カルキ抜きプロセスは、 ボタンで中断し、 ボタンで続行できます。カルキ抜きのキャンセルはできなくなります。



図: カルキ抜きの一時停止

ディスプレイに「カルキ抜きの一時停止」ウィンドウが表示されます

1. 容器を取り出し、空にします。
2. コーヒーマシンから内部水タンクを取り外します。
3. 内部水タンクを新鮮な飲料水で上限まで満たします。
4. 内部水タンクをコーヒーマシンに取り付けます。
5. コンテナを飲料注出口の下に配置します。
6. コンテナが倒れないことを確認してください。

7. 手順の実行を  ボタンで確定します。
✓ カルキ抜きが続行されます。



図: カルキ抜きの一時停止

ディスプレイに「カルキ抜きの一時停止」ウィンドウが表示されます

1. 容器を取り出し、空にします。
2. コーヒーマシンから内部水タンクを取り外します。
3. 内部水タンクを新鮮な飲料水で上限まで満たします。
4. 内部水タンクをコーヒーマシンに取り付けます。
5. コンテナを飲料注出口の下に配置します。
6. コンテナが倒れないことを確認してください。
7. 手順の実行を  ボタンで確定します。
✓ カルキ抜きが続行されます。



図: コンテナを取り外す

1. コンテナを取り外し、空にして洗浄します。
2. コーヒーマシンから内部水タンクを取り外します。
3. 内部水タンクを新鮮な飲料水で満たします。
4. 内部水タンクをコーヒーマシンに取り付けます。
5. 手順の実行を  ボタンで確定します。



図: クリーニングコンテナを取り外します

オプション: クリーニングコンテナを取り外します

1. ミルクホースをクリーニングコンテナのフタから抜き取ります。
2. 冷却ユニットからクリーニングコンテナを取り外します。
3. クリーニングコンテナを空にして、すすぎます。
4. クリーニングコンテナが取り外されていることを  ボタンで確定します。



図: ミルクコンテナを接続します

オプション: ミルクコンテナを冷却ユニット内に配置

1. ミルクコンテナに冷たいミルクを充填し、冷却ユニットに取り付けます。
2. ミルクホースをミルクコンテナのフタに接続します。
3. ミルクコンテナが接続されていることを  ボタンで確定します。



図: 液体カルキ抜きを注文します

液体カルキ抜きの再注文

前提条件：品番はユーザーインターフェイスに表示されます。

- ▶ 次のカルキ抜きのために、サービスパートナーに液体カルキ抜きを再注文してください。

カルキ抜きプログラムを終了する

- ▶ カルキ抜きを  ボタンで確定して終了します。
 - ✓ カルキ抜きプログラムは終了しました。
 - ✓ コーヒーマシンが再起動します。
 - ✓ コーヒーマシンの作動準備が完了し、ユーザーインターフェイスが表示されます。
 - ✓ 最後に実行されたカルキ抜きは、「メンテナンス間隔」の下サービスメニューに表示されます。

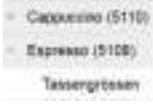
7.2.6 カルキ抜きカートリッジの廃棄処分

カルキ抜きカートリッジはプラスチック製で、カルキ抜き後、完全に空になり、水ですすぐれます。

- ▶ カルキ抜きが適切に行われた後、カルキ抜きカートリッジを家庭ごみと一緒に廃棄します。
- ▶ カルキ抜きがキャンセルされた場合、カルキ抜きカートリッジは地域の規制に従って有害廃棄物として処分してください。

8 プログラミング

8.1 ナビゲーション要素

マーク	名称	説明
	構造ツリーを開く/閉じる	フィールド [+] は、統計で構造ツリーを開きます。 フィールド [-] は、統計で構造ツリーを閉じます。
	コントローラのオン/オフ	コントローラ [オン/オフ] は、機能をアクティブまたは非アクティブにします。緑 = オン グレー = オフ
	パラメータ値	[パラメータ値] フィールドは、パラメータの値を設定します。 バリエーション：調整ホイールによる設定 1. パラメータ値をタップします。 ✓ ダイヤルが開きます。 2. ダイヤルを上下に回して希望の値を設定します。 3. フィールド  で設定値を確認します。 バリエーション：キーボードによる設定 1. 現在設定されている設定 (1) のフィールドをタップします。 ✓ キーボード入力が開きます。 ✓ 設定可能な最小値と最大値が表示されます (2)。 2.  フィールド (4) で現在の設定を削除します。 ✓ ナンバーパッドがアクティブになります。 3. キーボード (3) を使用して新しい値を入力します。 4. フィールド  (5) で値を確認します。
	アクティベーション/確認	[アクティベーション/確認] フィールドは、割り当てられたコーヒーの種類や温度設定などの選択を確認します。
	削除	[削除] フィールドには、以下の機能があります。 • カウンターをリセット • 飲料注出のキャンセル • ウィンドウ/ページを閉じる
	次へ	[次へ] フィールドは、選択リストを開くか、次のプログラムステップに進みます。
	戻る	[戻る] フィールドに戻ると、前のウィンドウ/ページに戻ります。

マーク	名称	説明
	保存	[保存] フィールドは、行われたパラメータ設定を保存します。
	再起動	[再起動] フィールドは、コーヒーマシンの再起動をアクティブにします。 マシン設定が実行された後、再起動が不可欠です。

8.2 プロフィールと承認

コーヒーマシンでは、次のプロフィールを使用できます。

- 管理担当者
- 設備管理人
- 品質管理マネージャー
- マシン担当者

選択したプロフィールによって、設定できるパラメータの数異なります。



設定にアクセスするための「操作」 - 「サービスメニュー」 - 「ログイン/ログアウト」の章をご参照ください。

リストアップされたプロフィールの他に、サービスパートナー専用でPINで保護されたサービス技術者プロフィールがあります。サービス技術者は完全なプログラミングアクセス権を持っています。詳細は別冊のプログラミング説明書に記載されています。

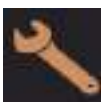
8.2.1 管理担当者プロフィール

管理担当者は、技術的な障害が発生した場合の最初の連絡先です。基本の技術的ノウハウを有しており、定期的にコーヒーマシンの関連作業に従事しています。管理担当者は、ほとんどのサービス機能にアクセスできます(サービス技術者を除く)。



管理担当者プロフィールでは、サービスメニューで以下の機能を直接選択することができます。

- すすぎの開始
- タッチスクリーンのクリーニング
- クイック情報 オン/オフにする
- スイッチを切る
- クリーニング
- メンテナンス間隔
- 原料管理



管理担当者プロフィールでは、以下の設定を変更することができます。

- システム
- 設定
- サービス
- 情報

8.2.2 設備管理人プロフィール

設備管理人は、部門またがレストランのマネージャーであり、その職務は管理業務も含まれます。

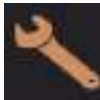
設備管理人は、提供される飲み物の種類と量を把握するために、コーヒーマシンのいくつかの統計情報にアクセスすることができます。

設備管理人は、サービス機能へのアクセスが制限されています。設備管理人は、品質管理マネージャーやマシン担当者よりも多くの統計を自由に使えます。



設備管理人プロフィールでは、サービスメニューで以下の機能を直接選択することができます。

- すすぎの開始
- タッチスクリーンのクリーニング
- クイック情報 オン/オフにする
- スイッチを切る
- メンテナンス間隔
- 原料管理



設備管理人プロフィールでは、以下の設定を変更することができます。

- 設定
- 情報

8.2.3 品質管理マネージャーのプロフィール

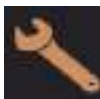
品質管理マネージャーは、コーヒーマシンからの飲み物の品質に責任があります。品質を確保するためには、特にクリーニング時間の管理が重要です。

品質管理マネージャーは、サービス機能へのアクセスが制限されています。品質管理マネージャーは、マシン担当者よりも多くの統計を自由に使えます。



品質管理マネージャープロフィールでは、サービスメニューで以下の機能を直接選択することができます。

- すすぎの開始
- タッチスクリーンのクリーニング
- クイック情報 オン/オフにする
- スイッチを切る
- メンテナンス間隔
- 原料管理



品質管理マネージャープロフィールでは、以下の設定を変更することができます。

- 設定
- 情報

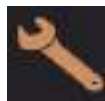
8.2.4 マシン担当者プロフィール

マシン担当者は、コーヒーマシンの通常のオペレーターであるため、いくつかのサービス機能しか利用できません。言語設定だけでなく、エラー発生時にサービス技術者に情報を伝えるために、マシンのバージョンを表示できます。



マシン担当者プロフィールでは、サービスメニューで以下の機能を直接選択することができます。

- すすぎの開始
- タッチスクリーンのクリーニング
- クイック情報 オン/オフにする
- スイッチを切る
- クリーニング
- メンテナンス間隔
- 原料管理



マシン担当者プロフィールでは、以下の設定を変更することができます。

- 設定
- 情報

8.2.5 プロフィール認証の概要

設定	パラメータ	管理担当者	設備管理人	品質管理マネージャー	マシン担当者
	グラインダー / 抽出ユニット	x	-	-	-
	ミルクシステム	x	-	-	-
	時刻/日付/タイマーモード	x	-	-	-
	グラインダーサービス	x	-	-	-
	データベースのバックアップ	x	-	-	-
	クリーニングをリセットする	x	-	-	-
	カルキ抜きカウンターをリセット	x	-	-	-
	カルキ抜きをリセットする	x	-	-	-
	バージョンを表示する	x	x	x	x
	マシンカウンター	x	x	-	-
	飲料統計	x	x	-	-
	クリーニングの統計	x	x	x	-
	メンテナンスの統計	x	-	-	-
	飲料注出統計	x	x	-	-
	水の硬度に関する統計	x	-	-	-

8.3 マシン設定

マシン設定は、次の設定に分かれています。

- システム
- 設定
- サービス
- 情報

8.3.1 「設定」ページ

「設定」ページを呼び出す

1. [サービスメニュー]フィールドをタップします。
✓ サービスメニューが表示されます。
2. サービスメニューの[設定]フィールドをタップします。
✓ [設定]ページが表示されます。



図: 「設定」 ページ

番号	名称	説明
1	システム	右側に「システム」設定に関する既存のパラメータを表示します。
2	設定	右側に「構成」設定に関する既存のパラメータを表示します。
3	サービス	右側に「サービス」設定に関する既存のパラメータを表示します。
4	情報	右側に「情報」設定に関する既存のパラメータを表示します。
5	[戻る]フィールド	サービスメニューに戻ります。



設定に表示されるパラメータは、選択したプロフィールの権限によって異なります。

8.3.2 設定 「システム」

グラインダー/抽出ユニット
適格なプロフィール：管理担当者



設定> 「システム」 - 「グラインダー/抽出ユニット」

カス受け：容量



「カス受けを空にする」というメッセージまでのサイクル数 (コーヒーケーキ) を設定します。

設定範囲: 0 ~ 150

標準: 50 (コーヒーケーキ)

注記 コーヒーケーキの標準設定である50を超えないようにしてください。

情報: コーヒーマシンは、55回(+5)の抽出サイクルの後、カス受けが空になるまで、コーヒー飲料の注出をロックされます。

- ▶ 標準: 値を50サイクルに設定します。
- ▶ オプション「コーヒーかす入れ」: 値を0サイクルに設定します。
- ✓ サイクル(コーヒーケーキ)の数は無視されます。

カス受け：空になるまでの時間 [s]



空にした後、「現在のカス受けカウンター」が再び0に設定されるまでの時間の設定。

設定範囲: 0 ~ 30秒

標準: 5秒

1. 値を5秒に設定します。
 2. ディスプレイにその旨の指示が表示されたら、カス受けを空にしてください。
 3. そのため、空にしたカス受けを戻すのは、早くても5秒後にしてください。
- 情報: カス受けが短時間だけ引き出され、すぐに再び押し戻された場合、カウンターは保持され、リセットされません。
- ✓ 「カス受けの現在のカウンター」は0にリセットされます。

カス受け：現在のカウンター



最後にカス受けが空にされてから実行された抽出サイクルに関する情報。

設定範囲: 設定できません

標準: 抽出サイクルの連続カウント

プリセット値「50」に達すると、カス受けを空にする旨の指示が表示されます。

中央グラインダーの校正值(10s) [g]



中央グラインダーのグラインダー校正時に決定されたグラム単位の校正值に関する情報。

設定範囲: 設定できません

標準: 実行された校正(1.0~50.0 g)に基づく

グラインダー校正において特定された値は、このパラメータに表示されます。

「設定」>「サービス」-「グラインダーサービス」の章をご参照ください。

情報: サービス技術者は、中央のグラインダーからのコーヒー飲料を全体的に調整するために、グラインダー校正を行わずに校正值を変更できます。



設定> 「システム」 - 「グラインダー/抽出ユニット」

右グラインダーの校正值(10 s)
[g]



右グラインダーのグラインダー校正時に決定されたグラム単位の校正值に関する情報。

設定範囲: 設定できません

標準: 実行された校正(1.0~50.0 g)に基づく

グラインダー校正において特定された値は、このパラメータに表示されます。

「設定」> 「サービス」 - 「グラインダーサービス」の章をご参照ください。

情報: サービス技術者は、右グラインダーからのコーヒー飲料を全体的に調整するために、グラインダー校正を行わずに校正值を変更できます。

ミルクシステム

ミルクコンテナ

適格なプロフィール: 管理担当者



設定> 「システム」 - 「ミルクシステム」 - 「ミルクコンテナ」

ミルクコンテナ



ミルクコンテナまでのミルクホースの長さの特定。

設定範囲: 設定できません

標準: Schaefer 標準

- ✓ ミルクホースの長さは自動的に特定されます。
- ✓ 以下のパラメータの標準設定「37 cm」は、それ以上の調整は必要ありません。

ミルク1 ホース長 ピンチバルブ -> クールセル [cm]



ピンチバルブから外部ミルクホースのクールセルまでのミルクホースの寸法の情報。

設定範囲: 設定できません

標準: 37 cm

- ▶ ミルクホースの長さは自動的に特定されます。
- ▶ 以下のパラメータの標準設定「37 cm」は、それ以上の調整は必要ありません。

情報: 装備が「非標準」の場合は、サービス技術者がミルクホースの長さを測定し、入力する必要があります。

「非標準」装備のミルクシステム:

- ▶ コーヒーマシン左側の冷却ユニット
- ▶ カウンター下冷却ユニット
- ▶ Cup & CoolやCenter Milkなどのすべての補助装置



サービス技術者は、パラメーター「ミルクコンテナ」の設定を行うことができます。

ミルクレベルのモニター

適格なプロフィール: 管理担当者



設定> 「システム」 - 「ミルクシステム」 - 「ミルクレベルのモニター」

ミルクレベルのモニター



ミルクコンテナのレベルモニター用設定

設定範囲: モニターなし/警告/飲料注出のロック

標準: モニターなし

1. 選択メニューをフィールド  で開きます。
✓ 選択メニューが開きます。
2. 3つの選択肢から1つを選びます。
 - モニターなし: ミルクモニターは構成されていますが、使用されていません。
 - 警告: ミルクが残り少なくなっている場合、タッチスクリーンにメッセージが表示されます。追加の乳飲料を注出することが可能です。
 - 飲料注出のロック: ミルクが残り少なくなっている場合、タッチスクリーンにメッセージが表示されます。乳飲料の注出はロックされています。

8.3.3

設定「構成」

時刻/日付/タイマーモード

適格なプロフィール: 管理担当者



設定> 「設定」 - 「時刻/日付/タイマーモード」

日付

時間

タイムゾーン



日付と時刻を含む事前設定されたタイムゾーンに関する情報

各タイムゾーンは、「中央ヨーロッパ時間 (CET)」など、さらに細分化されています。

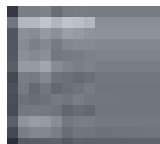
設定範囲: 設定できません

標準: 国固有/ユーザー固有

日付、時刻、タイムゾーンに関して(サービス技術者が)設定した値がここに表示されます。

月曜日のオン/オフから

日曜日のオン/オフまで



自動オン/オフ時間に関する情報。

設定範囲: 設定できません

標準: ユーザー固有

タイマーモードに関して(サービス技術者が)設定した値がここに表示されます。自動オン/オフ時間は、サービス技術者が曜日ごとに個別に設定できます。



サービス技術者は、パラメーター「時刻/日付/タイマーモード」の設定を行うことができます。

8.3.4

設定「サービス」



設定 > 「サービス」 - 「グラインダーサービス」 (粉碎度の手動調整)

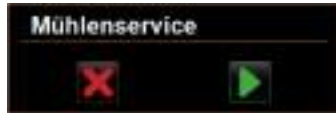


図: グラインダーサービスを開始する

前提条件: コーヒーマシンには、手動グラインダー調整機能が備わっています。

1. 設定 > 「サービス」 - 「グラインダーサービス」をタップします。
✓ 確認用ウィンドウが開きます。
2. フィールド  でグラインダーサービスを確認します。
✓ ページ「グラインダーサービス」が開きます。

▶ 中央のグラインダー(1)または右のグラインダー(2)のタブをタップします。

以下の作業を行えます。

- 粉碎ゲージの交換(4)
- グラインダーの調整(5)
- グラインダーの校正(6)
- グラインダーサービスのキャンセル/終了(3)

最初の2つの作業のいずれかから開始されると、プログラムはその後の作業を自動的に行います。



図: グラインダーサービス



図: 粉碎ゲージの交換

粉碎ゲージの交換

1. [グラインダーサービス]ページで[粉碎ゲージの交換]フィールドをタップします。
✓ ページ「粉碎ゲージの交換」が開きます。
2. 手動の粉碎度調整を取り外し、新しい粉碎ゲージを取り付けます。
3. 抵抗を感じるまで、空のグラインダーを手で閉じます (粉碎ゲージ上の粉碎ゲージ)。
4. グラインダーを45°(反時計回り)開きます。
5. 手動粉碎度調整を再度取り付けます。
6. フィールド  で粉碎ゲージの交換を確認します。
✓ ページ「粉碎度調整の準備」が開きます。



設定 > 「サービス」 - 「グラインダーサービス」 (粉砕度の手動調整)



図: 豆の粉砕度の編集の準備



図: グラインダーの設定

グラインダーの編集

[粉砕度調整の準備]ページは、[グラインダーサービス]ページの[グラインダー調整]フィールドをタップするか、粉砕ゲージの交換作業が完了した後に開きます。

1. カス受けを取り外し、空にし、清掃し、再度挿入します。
2. 挿入されたカス受けをフィールド  で確認します。
✓ ページ「グラインダーの調整」が開きます。
3. 豆の粉砕度を手動で設定します。
トレーニング資料を参照。
4. [古いコーヒー粉を除去する]フィールド(1)をタップします。
✓ 古いコーヒー粉が除去されます。
✓ [粉砕度評価用のための粉砕]フィールド(2)が有効になります。
5. カス受けを洗浄します。
6. [粉砕度評価用のための粉砕]フィールド(2)をタップします。
7. 粉砕度を確認し、必要に応じて、粉砕度を設定する手順を繰り返します。
8. 設定された粉砕度をフィールド  で確認します。
✓ ページ「校正の準備」が開きます。



設定 > 「サービス」 - 「グラインダーサービス」 (粉碎度の手動調整)



図: 校正準備



図: グラインダーの校正

グラインダーの校正

校正は以下の場合に行います。

- ▶ コーヒーマシンが新品の場合。
- ▶ 使用期間が1年を超えた場合。
- ▶ 粉碎レベルが変更された場合。
- ▶ グラインダーが開かれた場合。
- ▶ 粉碎ゲージが交換された場合。
- ▶ コーヒーの種類が変更された場合。

[校正]ページは、[グラインダーサービス]ページの[グラインダー調整]フィールドをタップするか、粉碎ゲージの調整作業が完了した後に開きます。

1. カス受けを取り外し、空にし、清掃し、再度挿入します。
2. 挿入されたカス受けをフィールド  で確認します。
 - ✓ 参照粉碎が開始されます。
 - ✓ ページ「グラインダーの校正」が開きます。
 - ✓ 参照粉碎が終了すると、[参照粉碎]フィールド(1)が有効になります。
3. 参照粉碎の挽いたコーヒーの重さを量ります。
4. 2つのフィールド[+/-] (2)を使用して、校正值(特定されたコーヒー粉の重量)を入力します。
5. 必要に応じて、[参照粉碎]フィールド(1)で別の参照粉碎を有効にします。複数の参照粉碎を行う場合、それから生じる粉碎コーヒーの総量を常に計量し、基準値として入力する必要があります。コーヒーマシンは、トリガーされたすべての粉碎を検出し、それらを使用して正しい粉碎量を計算します。
6. グラインダーの校正をフィールド  で終了します。
 - ✓ ページ「グラインダーサービス」が開きます。
 - ✓ これで、設定したグラインダーの操作準備が再び完了です。
7. [グラインダーサービス]をフィールドで終了します。
 - ✓ [設定]ページが開きます。



設定 > 「サービス」 - 「グラインダーサービス」 (粉碎度の自動調整)

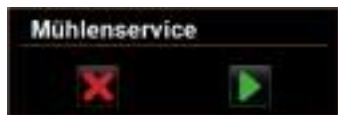


図: グラインダーサービスを開始する



図: グラインダーサービス

前提条件:

コーヒーマシンには、自動グラインダー調整機能が備わっています。

1. 設定 > 「サービス」 - 「グラインダーサービス」をタップします。
✓ 確認用ウィンドウが開きます。
2. フィールド  でグラインダーサービスを確認します。
✓ ページ「グラインダーサービス」が開きます。
3. 中央のグラインダー(1)または右のグラインダー(2)のタブをタップします。
以下の作業を行えます。
 - 粉碎ゲージの交換(4)
 - グラインダーの調整(5)
 - グラインダーの校正(6)
 - グラインダーサービスのキャンセル/終了(3)

最初の2つの作業のいずれかから開始されると、プログラムはその後の作業を自動的に行います。



図: 粉碎ゲージの交換

粉碎ゲージの交換

1. [グラインダーサービス]ページで[粉碎ゲージの交換]フィールドをタップします。
✓ ページ「粉碎ゲージの交換」が開きます。
2. 豆の粉碎度モーターを取り外し、新しい粉碎ゲージを取り付けます。
3. 抵抗を感じるまで、空のグラインダーを手で閉じます (粉碎ゲージ上の粉碎ゲージ)。
4. グラインダーを45°(反時計回り)開きます。
5. 豆の粉碎度モーターを再び取り付けます。
6. フィールド  で粉碎ゲージの交換を確認します。
✓ ページ「粉碎度調整の準備」が開きます。



設定 > 「サービス」 - 「グラインダーサービス」 (粉碎度の自動調整)



図: 豆の粉碎度の編集の準備



図: 豆の粉碎度を設定する

グラインダーの編集

[粉碎度調整の準備]ページは、[グラインダーサービス]ページの[グラインダー調整]フィールドをタップするか、粉碎ゲージの交換作業が完了した後に開きます。

1. カス受けを取り外し、空にし、清掃し、再度挿入します。
2. 挿入されたカス受けをフィールド  で確認します。
✓ ページ「グラインダーの調整」が開きます。
3. [古いコーヒー粉を除去する]フィールド(3)をタップします。
✓ 古いコーヒー粉が除去されます。
✓ [粉碎度評価用のための粉碎]フィールド(4)が有効になります。
4. [粉碎度評価用のための粉碎]フィールド(4)をタップします。
✓ 粉碎が実行されます。

粉碎度の結果を[+]/[-]フィールド(1)に入力します。[+]/[-]フィールド(1)では、両方のグラインダーディスクの間の間隔を変更でき、それにより粉碎度を調整します。

粉碎度調整は少しずつ(±1)行います。

「粉碎ゲージの移動」フィールド(2)で事前に設定した位置に粉碎ゲージを設定します。

5. 粉碎度を確認し、必要に応じて、粉碎度を設定する手順を繰り返します。
6. 設定された粉碎度をフィールド  で確認します。
✓ ページ「校正の準備」が開きます。
7. [古いコーヒー粉を除去する]フィールド(3)をタップします。
✓ 古いコーヒー粉が除去されます。
✓ [粉碎度評価用のための粉碎]フィールド(4)が有効になります。
8. [粉碎度評価用のための粉碎]フィールド(4)をタップします。
✓ 粉碎が実行されます。
9. 粉碎度の結果を[+]/[-]フィールド(1)に入力します。
[+]/[-]フィールド(1)では、両方のグラインダーディスクの間の間隔を変更でき、それにより粉碎度を調整します。粉碎度調整は少しずつ(±1)行います。
「粉碎ゲージの移動」フィールド(2)で事前に設定した位置に粉碎ゲージを設定します。
10. 粉碎度を確認し、必要に応じて、粉碎度を設定する手順を繰り返します。
11. 設定された粉碎度をフィールド  で確認します。
✓ ページ「校正の準備」が開きます。



設定 > 「サービス」 - 「グラインダーサービス」 (粉碎度の自動調整)



図: 校正準備



図: グラインダーの校正

グラインダーの校正

校正は以下の場合に行います。

- ▶ コーヒーマシンが新品の場合。
- ▶ 使用期間が1年を超えた場合。
- ▶ 粉碎レベルが変更された場合。
- ▶ グラインダーが開かれた場合。
- ▶ 粉碎ゲージが交換された場合。
- ▶ コーヒーの種類が変更された場合。

[校正]ページは、[グラインダーサービス]ページの[グラインダー調整]フィールドをタップするか、粉碎ゲージの調整作業が完了した後に開きます。

1. カス受けを取り外し、空にし、清掃し、再度挿入します。
2. 挿入されたカス受けをフィールドで確認します。
 - ✓ 参照粉碎が開始されます。
 - ✓ ページ「グラインダーの校正」が開きます。
 - ✓ 参照粉碎が終了すると、[参照粉碎]フィールド(1)が有効になります。
3. 参照粉碎の挽いたコーヒーの重さを量ります。
4. 2つのフィールド[+/-] (2)を使用して、校正値(特定されたコーヒー粉の重量)を入力します。
 - ✓ 必要に応じて、[参照粉碎]フィールド(1)で別の参照粉碎を有効にします。

複数の参照粉碎を行う場合、それから生じる粉碎コーヒーの総量を常に計量し、基準値として入力する必要があります。コーヒーマシンは、トリガーされたすべての粉碎を検出し、それらを使用して正しい粉碎量を計算します。

- ✓ グラインダーの校正をフィールドで終了します。



図: グラインダーの初期化

グラインダーの初期化

故障の後や、粉碎ゲージを交換した後は、自動粉碎度調整の初期化を行います。

1. ディスプレイガイドによる指示を実行します。
2. 豆の粉碎度モーターを取り外し、新しい粉碎ゲージを取り付けます
3. 抵抗を感じるまで、空のグラインダーを手で閉じます (粉碎ゲージ上の粉碎ゲージ)。
4. グラインダーを45°(反時計回り)開きます。
5. 豆の粉碎度モーターを再び取り付けます。
6. 組み込み手順「グラインダーの初期化」をフィールドで確認します。
 - ✓ ページ「グラインダーサービス」が開きます。
 - ✓ これで、設定したグラインダーの操作準備が再び完了です。
7. [グラインダーサービス]をフィールドで終了します。
 - ✓ [設定]ページが開きます。

8.3.5 設定「情報」

バージョンを表示する

適格なプロフィール：管理担当者、設備管理人、品質管理マネージャー、マシン担当者



エラー報告の際には、これらの情報をサービス技術者に伝えてください。



設定 > 「情報」 - 「バージョンを表示する」



図: バージョン

インストールされているマシンソフトウェアのバージョンに関する情報

設定範囲: 設定できません

標準: -

以下の情報を読み取ることができます。

- タッチパネル ソフトウェア
- 電源部ソフトウェア
- データバンクのバージョン
- BSP バージョン
- MACアドレス
- Qt バージョン (ソースコード)
- SQLiteバージョン
- ソフトウェア SCA3
- ライセンス情報の表示
- ライセンス情報のエクスポート

マシンカウンター

適格なプロフィール: 管理担当者、設備管理人



設定 > 「情報」 - 「マシンカウンター」



図: マシンカウンター

注出された飲料の数または原料についての情報

設定範囲: 設定できません

標準: -

飲料に含まれるすべての原料は、このリストでは個別の「飲料」として表示されます。

以下の情報を読み取ることができます。

- コーヒー飲料合計
- 乳飲料合計
- パウダー飲料合計
- 熱湯合計
- スチーム合計

飲料「チョコアット」の原料例:

- ▶ 1 原料 = コーヒー
- ▶ 2 原料 = ミルクまたはトッピング
- ▶ 3 原料 = チョコ

飲料統計

適格なプロフィール: 管理担当者、設備管理人



設定 > 「情報」 - 「飲料統計」



図: 飲料統計

注出された飲料に関する情報

カウンターのリセット

設定範囲: カウンター読み取り値のリセット(個別またはまとめて)

標準: ユーザ定義

メニューカードに追加されたすべての飲料が一覧表示されます。

バリエーション: 個別カウンターをリセットする

- ▶ 該当する飲料の列にある小さなフィールド  をタップします。
 - ✓ 選択した飲料のカウンターは [0] に設定されます。

バリエーション: すべてのカウンターをリセットする

- ▶ ページの上にある大きなフィールド  をタップします。
 - ✓ 一覧されたすべての飲料カウンターは [0] に設定されます。

クリーニングの統計

適格なプロフィール: 管理担当者、設備管理人、品質管理マネージャー



設定 > 「情報」 - 「クリーニングの統計」



図: クリーニングの統計

実行されたクリーニングに関する情報

設定範囲: 設定できません

標準: -

以下の情報を読み取ることができます。

- 日付および時刻
- プロフィール
- システム
- イベント

「イベント」欄には、実行、キャンセル、およびリセットされたクリーニングが表示されます。

メンテナンスの統計

適格なプロフィール: 管理担当者



設定 > 「情報」 - 「メンテナンスの統計」



図: メンテナンスの統計

実行されたメンテナンス作業 (カルキ抜き) に関する情報

設定範囲: 設定できません

標準: -

以下の情報が一覧表示されます。

- 日付および時刻
- プロフィール
- メンテナンス間隔
- イベント

「イベント」欄には、実行、キャンセル、およびリセットされたカルキ抜きが表示されます。

飲料注出統計

適格なプロフィール: 管理担当者、設備管理人



設定 > 「情報」 - 「飲料注出統計」



図: 飲料注出統計

含まれている飲料データのすべての飲料注出に関する情報

設定範囲: カウンター読み取り値のリセット

標準: -

以下の情報を読み取ることができます。

- 飲み物の種類(およびその数)
- 日付/時刻

▶ 構造ツリーを開き、詳細を読み取ります。

ここでは各飲み物について以下の情報を読み取ることができます。

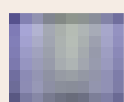
- カップサイズ
- キャンセルした注出
- 注出時間
- 抽出時間
- 飲料が調整されました

▶ ページの上にあるフィールド  をタップします。

✓ 一覧されたすべての飲み物はリストから削除されます。

水の硬度に関する統計

適格なプロフィール: 管理担当者



設定 > 「情報」 - 「水の硬度に関する統計」



以前に設定された水の硬度に関する情報

設定範囲: 設定できません

標準: -

以下の情報を読み取ることができます。

- 日付/時刻
- 水の硬度 [dKH]

水の硬度のすべての調整は、新しい項目によってリストアップされます。

図: 水の硬度に関する統計

8.3.6 変更を保存し、コーヒーマシンに読み込む

設定の変更を保存してロードするには、次の手順に従います。

1. フィールドで選択内容を保存します。
2. フィールドを使用して、パラメータと設定を終了します。
3. フィールドを使用して、設定/パラメータの変更をコーヒーマシンにロードします。
✓ コーヒーマシンが再起動します。

9 障害の除去

9.1 障害表示

障害表示は、以下のタイプに分類できます。

- 機能ランプ
- ディスプレイ上のメッセージ

9.1.1 機能ランプ

コーヒーマシンには機能表示灯が標準装備されています。ディスプレイのメッセージに加えて、保留中のエラーメッセージは、コーヒーマシンのLEDカラーバーの点灯によって示されます。

各カラーの意味は以下の通りです：

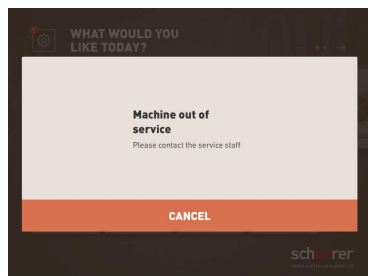
- 白：コーヒーマシンは作動可能です
- オレンジ：早急なアクションが必要です (充填、クリーニングなど)
- 赤：マシンエラー (ミルクが空、グラインダーのブロック、水流エラーなど)

9.1.2 ディスプレイ上のメッセージ

ディスプレイに表示されるメッセージは次のように区別することができます。

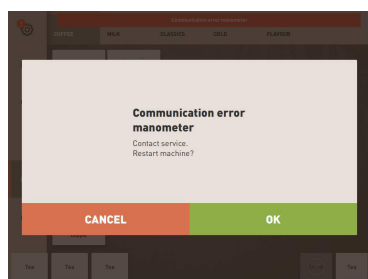
- 単純なエラーメッセージ
- 特殊なエラーメッセージ
- サービスメニューのエラーメッセージ

単純なエラーメッセージ



図：「単純な」エラーメッセージ

特殊なエラーメッセージ



図：「特殊な」エラーメッセージ



図：「特殊な」エラーメッセージ

前提条件：

- ユーザーインターフェイスでは、「通知モード表示」で「単純なエラーメッセージ」が有効になっています。
 - ✓ エラーメッセージが表示された場合、サービス担当者がメッセージを承認するまで、コーヒーマシンは運転を停止します。
 - ✓ 「サービス担当者にお知らせください」というプロンプトが表示されます。
 - ✓ エラーメッセージを承認できません。
- ▶ サービス担当者にお知らせください。

前提条件：ユーザーインターフェイスでは、「通知モード表示」で「特殊なエラーメッセージ」が有効になっています。

- ✓ エラーメッセージが表示された場合、コーヒーマシンは一時運転を停止します。
 - ✓ 「再起動」または「サービス担当者にお知らせください」というプロンプトが表示されます。
 - ✓ 一部のエラーメッセージを承認できます。
1. エラーのタイプに応じて次のアクションを行ってください。
 2. a) アクション要求に従い、エラーメッセージを確認します。
 3. b) [OK] ボタンをタップして再起動します。
 - ✓ 保留中のエラーが確認されたか、コーヒーマシンが再起動しました。
 - ✓ コーヒーマシンは再び作動可能です。

4. エラーメッセージを確認できない場合は、サービス技術者までご連絡ください。

サービスメニューのエラーメッセージ

ユーザーインターフェイスのエラーメッセージに加え、サービスメニューにもエラーメッセージが表示されます。

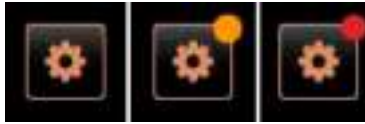


図: [サービスメニュー]フィールド

[サービスメニュー]フィールド

サービスメニューは、[サービスメニュー] フィールドから開きます。

ユーザーインターフェイスの [サービスメニュー] フィールドには、保留中の情報やエラーメッセージに関する情報が表示されます。

- カラーコードなし: サービスメニューにメッセージはありません。
- オレンジ: 情報はサービスメニューで入手できます。
- 赤: サービスメニューにエラーメッセージまたはアクション要求があります。



図: エラーメッセージが表示された「サービスメニュー」ページ

「サービスメニュー」ページ

1. (サービスメニュー) ボタンをタップします。
✓ サービスメニューが開き、保留中のすべてのエラーメッセージが表示されます。
2. エラーメッセージをフィールド  で開きます。
3. 表示されたアクション要求を実行し、必要に応じて [OK] で承認します。
4. エラーメッセージを確認できない場合は、サービス技術者までご連絡ください。

9.2 故障



保留中の赤いエラー/障害メッセージが発生した場合、要求された処置が行われるまで、飲み物の注出がストップされます。

- ▶ 「サービスメニュー」でその他の保留中のエラーメッセージをし、以下に説明する方法に従って修正します。

エラーメッセージが消えない場合、障害が発生している可能性があります。

- ▶ サービスパートナーに連絡してください (www.schaerer.com を参照のこと)。

9.3 ディスプレイメッセージを伴う障害

ディスプレイメッセージを伴う障害は、以下のカテゴリーに分類されます。

- ▶ 障害
- ▶ エラー
- ▶ 要求
- ▶ 注意事項

9.3.1 ディスプレイメッセージ「注意事項」



以下のディスプレイメッセージは、コントロールユニットで青の背景で表示されます。

ディスプレイメッセージ	原因	除去
注意: 廃水出口が詰まると水が溢れることがあります。	廃水にコーヒーの残留物があります。	▶ 廃水出口と雫受けに詰まりがないか点検およびクリーニングを行ってください。
テレメトリーリンクを待つかまたはサービスに連絡してください。	「コーヒーリンク」の表示は保留中です。	▶ テレメトリーを起動してください。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
ミルクがまもなく空です	ミルクコンテナのミルクレベルが低くなっています。	▶ ミルクコンテナにミルクを充填します。
カス受けがまもなくいっぱいです	カス受けの設定容量に間もなく達します。	▶ カス受けを空にします。
外部飲料水タンクはまもなく空になります (オプション)	外部飲料水タンクの充填レベルが低くなっています。	▶ カス受けを空にします。
熱湯の温度が低すぎます スチームボイラーの温度が低すぎます	コーヒーマシンは加熱中です。 加熱中にエラーが発生しました。	▶ コーヒーマシンが加熱されるまでお待ちください。 ▶ コーヒーマシンを電源から外してください。 ▶ マシンを再び接続し、電源を入れます。
コーヒーマシンが稼動していません	飲料を分配しない場合は、セルフサービスモードに設定します。	▶ それに応じて、パラメータ設定「設定」 - 「タイマー操作」を設定します。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。

9.3.2 ディスプレイメッセージ「要求」

以下のディスプレイメッセージは、コントロールユニットで白の背景で表示されます。

ディスプレイメッセージ	原因	除去
カス受けを挿入する	カス受けがないか、コーヒーマシンに完全に挿入されていません。	▶ カス受けをコーヒーマシンに正しく挿入します。
コントロールパネルを閉じます	コントロールパネルが開いたままか、または完全に閉じていません。	▶ カチッとほまるまでコントロールパネルを下へ押します。
外部飲料水タンクへの充填 (オプション)	外部飲料水タンクの充填レベルが低すぎます。	▶ 外部飲料水タンクからレベル監視を取り外します。 ▶ 外部飲料水タンクを真水で洗い流し、充填します。 ▶ レベルモニターを再度挿入します。
廃水タンクを空にする (オプション)	外部廃水タンクの充填レベルに達しました。	▶ 外部廃水タンクからレベル監視を取り外します。 ▶ 外部の廃水タンクを洗い流します。 ▶ レベルモニターを再度挿入します。
コーヒー豆を補充します (中央グラインダーが空です)	中央のコーヒー豆ホッパーは空です。	▶ コーヒー豆ホッパーを充填します。

ディスプレイメッセージ	原因	除去
コーヒー豆を補充します (右グライNDERが空です)	右のコーヒー豆ホッパーは空です。	▶ コーヒー豆ホッパーを充填します。
手動投入口にコーヒー粉を入れます	手動投入口にコーヒー粉が投入されていません。	▶ 中央のコーヒー豆ホッパーの手動投入口が開いています。 ▶ コーヒー粉を入れます。 ▶ 手動投入口を閉じます。
チョコレートまたはミルクパウダーを1のコンテナに充填します (1のパウダーホッパーは空)	1のパウダーホッパーは空です。	▶ 最初のパウダーコンテナを補充します。
カルキ抜きカートリッジを挿入します	カルキ抜きプロセスには、カルキ抜きカートリッジのカルキ抜き剤が必要です。	▶ カルキ抜きカートリッジを挿入します。 ▶ カルキ抜きの後、ディスプレイにプロンプトが表示されたら、カルキ抜きカートリッジを取り外します。

9.3.3 ディスプレイメッセージ「エラー」

以下のディスプレイメッセージは、コントロールユニットで黄色の背景で表示されます。

ディスプレイメッセージ	原因	除去
抽出ユニットのロータリエンコーダのエラー	マシンの初期化中に、抽出ユニットのエンコーダモーターが認識されませんでした。	▶ コーヒーマシンを再起動してください。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
豆の粉碎度自動修正エラー 中央、左または右	自動グラインダー調整のエンジンが誤作動しています。	▶ 粉碎度の設定をキャンセルします。 ▶ コーヒーマシンを再起動してください。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
マシン設定のエラー	ソフトウェアおよびマシンのハードウェアの間に不一致があります。	▶ ハードウェア検出を再起動してください。 ▶ コーヒーマシンを再起動してください。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
スチームノズルの温度センサー中断	スチームノズルの温度センサーが閉まっていません。	▶ コーヒーマシンを再起動してください。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
スチームノズルの温度センサーのショート	スチームノズルの温度センサーの故障です。	▶ コーヒーマシンを再起動してください。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
カルキ抜き / クリーニングをリセットする	クリーニング / カルキ抜きが中断された / 完全に終了していません。	▶ クリーニング / カルキ抜きを行います。

ディスプレイメッセージ	原因	除去
ミルクが空です	ミルクコンテナのミルクレベルが低すぎます。	▶ ミルクタンクを取り外します。 ▶ ミルクコンテナを入念にクリーニングします。 ▶ ミルクコンテナに新鮮で予冷したミルク (3~5 °C) を充填し、コーヒーマシンに戻します。
カス受けはいっぱいです	カス受けの容量に達しました。	▶ カス受けを空にします。 ▶ カス受けを洗い流して乾かします。 ▶ カス受けを再び取り付けます。

9.3.4 ディスプレイメッセージ「障害」

以下のディスプレイメッセージは、コントロールユニットで赤の背景で表示されます。

ディスプレイメッセージ	原因	除去
グラインダー中央 (標準)、グラインダー右 (オプション)、過負荷	定義された期間において、高すぎる電流値 (> 8 A) が測定されました。コーヒーマシンが5回グラインダーの再始動を試行した後、このメッセージが表示されます。廃水にコーヒーの残留物があります。	▶ コーヒーマシンのスイッチを切ってください。 ▶ グラインダーがブロックされていないか点検し、異物がある場合にはこれを取り除きます。 ▶ コーヒーマシンを再起動してください。
グラインダー中央 (標準)、グラインダー右 (オプション) ブロック	グラインダー (中央または右) に負荷がかかり、この状態で再び飲料を要求すると、このメッセージが表示されます。飲料の注出はストップされています。	▶ コーヒーマシンのスイッチを切ってください。 ▶ グラインダーがブロックされていないか点検し、異物がある場合にはこれを取り除きます。 ▶ コーヒーマシンを再起動してください。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
お茶またはコーヒー用の熱湯ボイラーの過熱	水の供給が中断されます。	▶ 外部/内部飲料水タンク (オプション) のレベル、または給排水管接続の状態を確認してください。
	コーヒーマシンが過熱しています。	▶ コーヒーマシンを電源から外して冷却してください。
	SSR が故障しています。 Klixon が作動しました。	▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。

ディスプレイメッセージ	原因	除去
スチームボイラーの過熱	水の供給が中断されます。	▶ 外部/内部飲料水タンク (オプション) のレベル、または給排水管接続の状態を確認してください。
	スチームシステムが詰まっています。	▶ 飲料注出口とスチームシステムを点検し、クリーニングしてください。
	コーヒーマシンが過熱しています。	▶ コーヒーマシンを電源から外して冷却してください。
	SSR が故障しています。 Klixon が作動しました。	▶ 再起動後も障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
熱湯ボイラー タイムアウト スチームボイラー ヒーター タイムアウト	ヒーターの電源が入っているにもかかわらず、5 分以内に規定温度に達しませんでした。	▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
熱湯ボイラー NTC のショートしています スチームボイラー NTC がショートしています	マザーボードによって抵抗が検知されません。最高温度 (約 150 °C) が測定されました。飲料の注出はストップされています。	▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
熱湯ボイラー NTC が中断しています スチームボイラー NTC が中断しています	温度センサーが中断しています。最低温度が測定されました。	▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
抽出ユニットの過電流	抽出ユニットのモーターで過電流が検知されました。	▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
抽出ユニットの無効電流	抽出ユニットが「作動」していない場合でも、最小限の待機電流が通っています。そうでない場合は、エラーが発生しています。原因としては抽出ユニット、配電盤、またはケーブル接続が考えられます。	▶ 抽出ユニットがブロックされていないか点検してください。
		▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
タイムアウト 抽出ユニット	抽出ユニットには「基本位置」のスイッチがありません。抽出シリンダーの位置は電流値の測定によって検知されます。次のピーク値が検出されます。上下位置 次のタイムアウトが設定されています。抽出ユニットが移動してから、10 秒以内に電流ピークが検出されない場合、「抽出ユニットのタイムアウト」が表示されます。	▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。

ディスプレイメッセージ	原因	除去
水の流れの異常	コーヒー飲料注出中、流量計の最低回転数が設定された数値におよびません。高い確率で給水システム全体のどこかがブロック/部分的にブロックされています。	▶ 飲料水タンクのレベル、または給排水管接続の状態を確認してください。 ▶ 内部もしくは外部飲料水タンクを点検してください (フィルターが詰まると流量が減少します)。 ▶ 上部ピストンがブロックされているか、部分的に固着していないか点検します。 ▶ 挽き具合を点検します。情報：グライNDERの設定が非常に細かい場合、水の流れが妨害されたり完全にブロックされるおそれがあります。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
スチーム供給 エラー	レベルセンサーによってスチームボイラー内のレベルが低くなっていることが検知されました。ボイラーの補充が試みられました。それでも、レベルセンサーによって60秒以内に水が検知されませんでした。補充プロセスがキャンセルされます。スチームを必要とする飲料の注出がストップされます。	▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
Modbus 処理エラー BP	電源ユニットとタッチスクリーン間の通信エラー	▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
Modbus 処理エラー MV	圧力計とタッチスクリーン間の通信エラー。	▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
Modbus 処理エラー MR	冷却ユニットとタッチスクリーン間の通信エラー	▶ 冷却ユニットとマシンの配線を確認してください。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
コーヒーマシンが稼動していません	さまざまな理由で飲料を分配しない場合は、セルフサービスモードに設定します。	▶ コーヒー豆、牛乳、チョコレートパウダー、ミルクパウダーなどの製品を確認してください。 ▶ 冷却ユニットの温度を確認してください。 ▶ 保留中のクリーニングまたはカルキ抜きを行います。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
通信エラー (各種)	ソフトウェアならびにHCU電源部、Flavour Point、抽出ユニット、圧力計などのさまざまなモジュール間との通信エラー	▶ コーヒーマシンを再起動してください。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。

9.4 ディスプレイメッセージのない障害

障害	原因	除去
ディスプレイには何も表示されません。	コーヒーマシンが電源に接続されていません。	▶ コーヒーマシンを電源に接続します。 ▶ マシンのスイッチを入れます。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
	コーヒーマシンは、オンになっていません。	▶ マシンのスイッチを入れます。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
利用可能なミルク入り飲料がありません。	ミルクコンテナが空です。	▶ ミルクコンテナにミルクを充填します。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
	ミルクシステムに詰まりが発生しています。	▶ 毎日のクリーニングを行います。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
	ミルクシステムが誤って無効になっています。	▶ コーヒーマシンの制御ケーブルから冷却ユニットへのケーブル接続を確認します。 ▶ ミルクシステムを有効にします。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
利用可能なミルクフォーム入り飲料がありません。	ミルクコンテナが空です。	▶ ミルクコンテナにミルクを充填します。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
	ミルクシステムに詰まりが発生しています。	▶ 毎日のクリーニングを行います。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。
	ミルクシステムが誤って無効になっています。	▶ コーヒーマシンの制御ケーブルから冷却ユニットへのケーブル接続を確認します。 ▶ ミルクシステムを有効にします。 ▶ 毎日のクリーニングを行います。 ▶ 障害が引き続き発生する場合は、サービスパートナーに連絡してください。

10 解体と廃棄

10.1 アンインストール

使用終了後

コーヒーマシンが耐用年数に達した後、コーヒーマシンを分解し、環境に配慮した方法で廃棄してください。

10.2 廃棄



マシンは必ず現地の法規制に従い、適切に廃棄してください。

▶ サービスパートナーに連絡してください。

